



方平の術

大方の中小方

人小方和か

般横平の術

縱横丸。裏中筋

小頭丸の術

沟股弦根源。沟造根源

沟股弦二種。圓汎根源

小頭丸法根源別行

四袋丁の割引法

小丸道の等分

山形平

双股弦根源。六中方根

六方丸法根源別行

増補新法國數抄三之卷目添  
方平術 も四方、或也へも也  
般横平術 も豎横成也へも  
○叶の手  
小頭丸術 もかくらはれも也  
○約股弦。四袋丁。股等根。六中方根  
山形平 もまたはれも也  
○双股弦。约股中方圓。专法根源  
斤狭平 もかせをめやへも  
○专法の根源。股等根  
平三五六七八九六方丸法根源。圓汎



方淮く術  
○方淮切分 宋  
樞形術

○樞列法夏立圓法  
○樞列切分 二承  
方參く術

○降浮列 合圓法  
○方參相變 二承  
玄幅參く術  
○玄幅參承造

固淮く術  
○固淮わ遠迴  
○玄淮く術

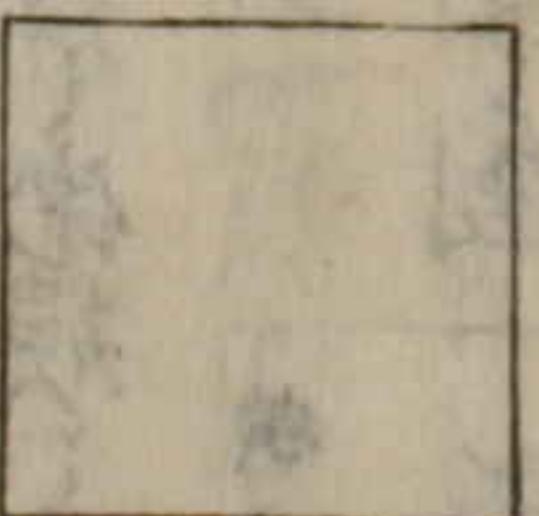
八卦目付字

斤瘦堅く術  
○斤口斤を打本  
方錐く術  
○坪はく根源  
玄幅淮く術  
○坪はく根源  
樞形く術  
○坪はく根源  
方參く術  
○坪はく根源  
玄幅臺く術  
○坪はく根源  
固淮く術  
○坪はく根源  
○固淮并圓其く術  
○固淮并圓其く術

增補義法闡綱抄ニ之卷

方平固

方一尺三寸三分



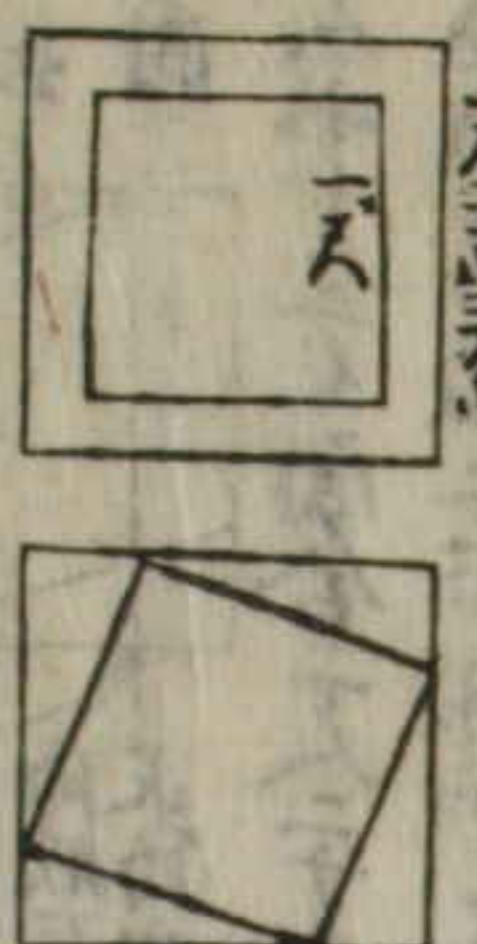
寸皆而密一寸三分を

法正まみくす三分と連合ち教本也  
今すあ百密をあ或か九重有二九  
車ニ西方かして方天何乃を合

吾云 三丈二寸三分

法正く定 あ教と並圓車法除方之  
今方を人す三分を方平代角径と問  
吾云 車人す三分を四分余

方を人す三分を方の内  
内二方を人の井戸と入て  
中井戸と極すりて南  
とすり西と同  
一尺三寸三分



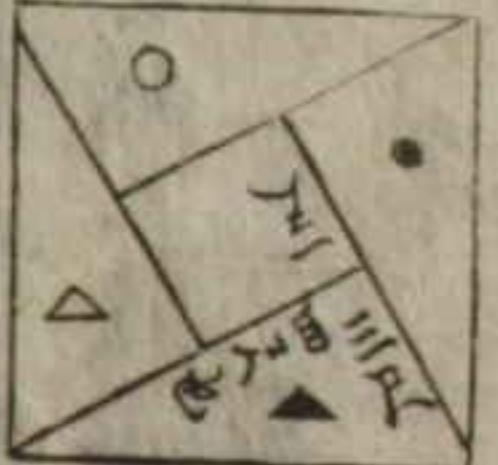
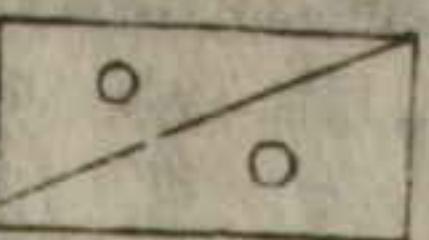
天



すあ千二百あと候接半身  
能が接を人體に往る

言ふ

御と二千二百あと倍し半四百  
あと六百あと二天自因あ  
百あ加(二千五百あと用半  
除三)



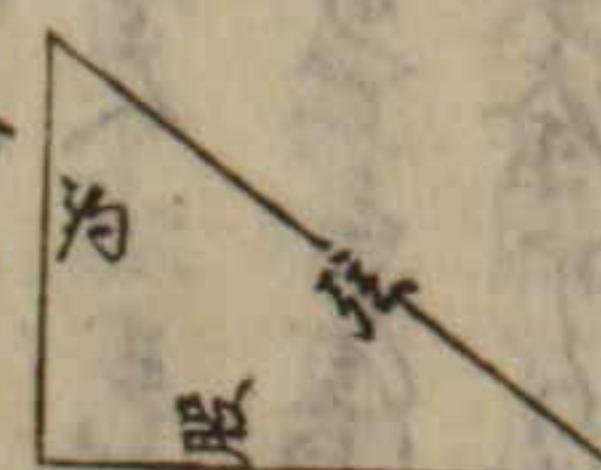
御と二千二百あと倍し半四百  
あと六百あと二天自因あ  
百あ加(二千五百あと用半  
除三)

今と四人二天と継接と宣傳切居盡て傳  
財主方と何往來と言

言ふ武天兵す

法と三と公私割主と守家と約  
又天兵と公私割取と公私と股と板

小頭形圖



股三人

約

約股強と強とおも御と用てと方はと  
叔和のあと無接と無合と割也  
是と公私と割てあ教と公り

今すあ六百あと小限取作付約三人

すて股何役と言

言ふ

四天

法と六百あとと倍して千五百あと

千九百あり列と右と  
古百あり列と西西こと  
末と八百あり列と左と  
是と九百あり列と左と  
二千七百零八あり列と左と  
是と用半法除室方と左  
末と延と和て五天とすと  
六四九と六九と九百九  
内八百九九あり列と左と  
千九百九九あり列と左と

法除宣方と本近て差  
あへも内今け差三  
ニす四分テ六四引あり  
武天に麦と継換の差を板  
麦面と倍をよりある強板

内股削え麦と強六天と  
かで三と一四二刻方を加  
え面を多く麦を内と面  
けへと板と平固と切ねと  
れ残るあれ五百九捨あ  
れが三と八毛に正室を

径と同  
但書は  
夫畜

貳八十 卷上

毛と約天とへ刻股不承也  
又股く天ヶ内と約ハ千八百毛と  
股の天と刻て加けり

今すあ六百毛と毛と歲於代ト時  
継方換へ毛と強くして継換何段合

毛と約天と股里人 毛接也

毛と約天と股里人 毛強也

法云六百毛と毛と歲の實を重申継  
因半はと毛除りり  
今小凡形と約天と股里人と強と毛

毛と約天と

削え麦面と自來と得二  
千五百毛と列りとおと定法  
一五七、八と末一得九百毛とお  
に六倍と千八百五捨やあ三  
と餘毛と右と二千五百毛と  
内もう残六百零五す。  
八と約天と約天と得除降二  
天守三と九八四と是と麦  
面と大加へ供小と大と存三  
分九毛と八と約天と得定法  
八と之は約天と七八毫と便  
は七八五四の左を用ひあは  
かり

約股強五曲毛と板源ハ  
法云三と天と合九毛と添入天と合十天重  
盛ニ合或捨すあと毛と仄國半法除也  
今約天と強五天と股と同 股里人  
法云強五天と合合すあと余列と約三  
天と合合九毛と添入天と合五毛と内  
引繕て捨すあと毛と仄國半法除りり  
今股里人強五天と約と同約天人  
法云強五天と合合すあと添列股に  
天と合合捨すあと添入天と合す  
し内と引繕て各と仄國半法除也  
今小額取と強五天と約と股ハ天と消照當

此圓を得てある也

言云 約三人 股四人

法云 弦五尺と無合式拾五寸と無又無

走人無合をもと無足を式拾五寸と無

人引方で式拾四寸と無足を式拾五寸と無

人亦と無足と無小並みと無人と

無脚と用脚半尺落約は人と無

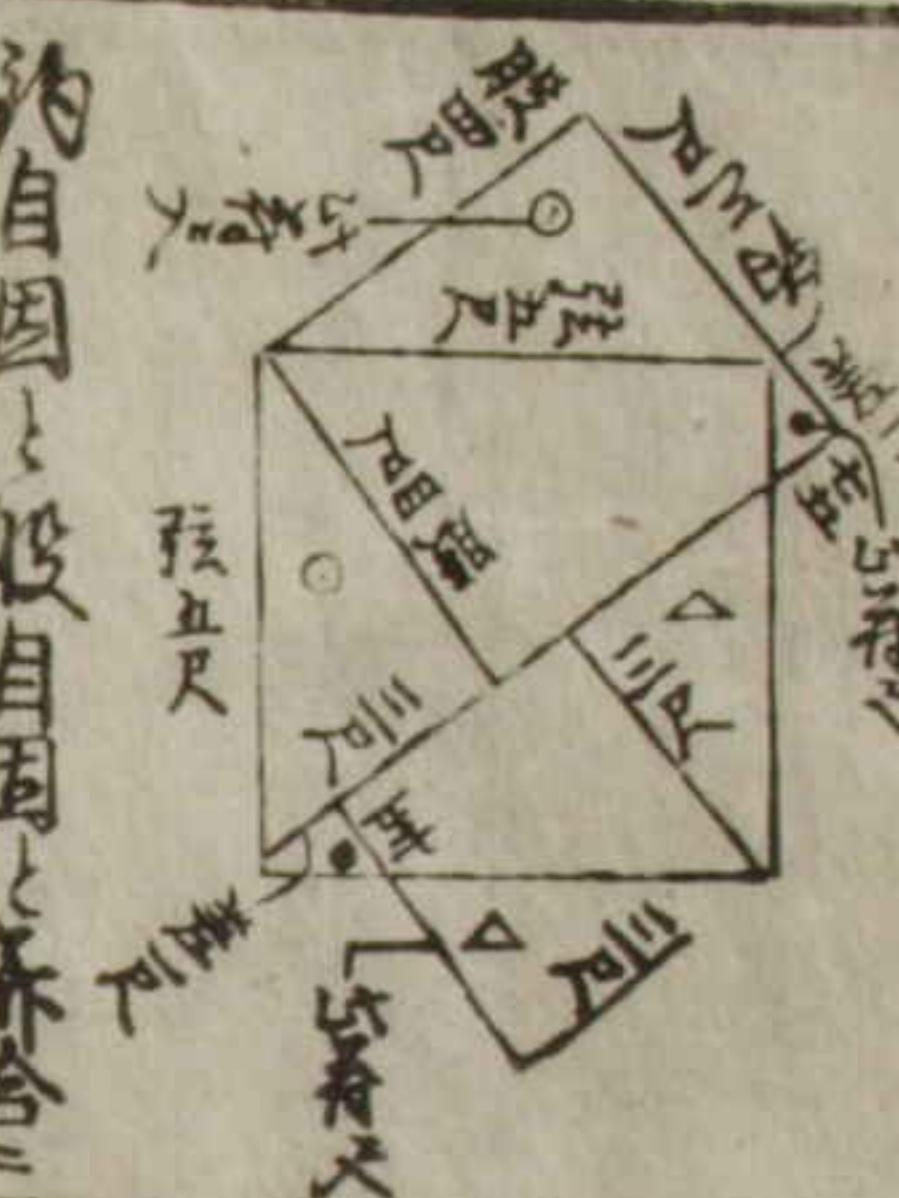
足と無人と無人と加股と無也

今此形を約三人の股を弦に一人長

股弦と同

言云 股三人 弦五尺

法云 約三人無合九寸と無足と無合



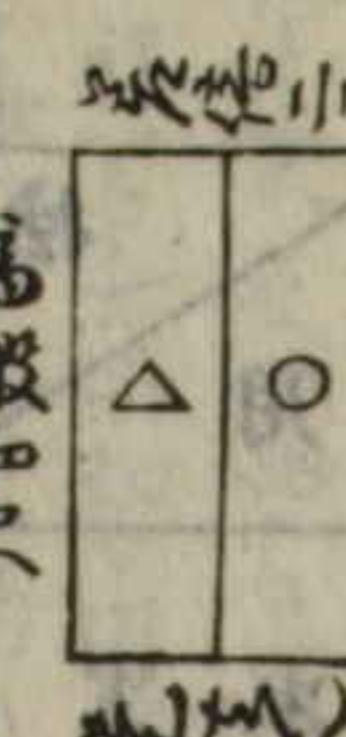
九開三引

△	△
△	△

自因股

のあへ約

自因股



約股弦三方を一百一十  
二十尺内五拾間へ弦を求る

約股弦へ圓引

和肉弓

械索

牽弓と

刻弓と

約弓と

</div

	△	×	○
△	×	○	
×		○	
○		△	

少貳形すがたを法ほうして効こうる  
終はるゝを待まつひふるをもせ

相乘メ  
半拾レ

是と數合四百五十本あり此は五  
千本引抜て百本を同半法  
除拾ら本は拾らと大拾ら色より引  
ひて六拾らを是が式ノ刻三拾  
分約三毛枚と走り  
今約股弦及三分一百本拾ら有  
内署弓の股也約三弦と云  
差  
約三拾間 弦五拾間  
法度百本拾らと内署間引抜て八十  
本と數合六千本あり此は四十  
回と數合千六百本あり此は紅弓

ノツ丁々刻ハ勺配シはセ  
たゞ六枚合入候ニ按二十枚  
小升と云ふ切内半モ多  
切口捨立有入約の方  
切口立二弓半足終股合  
尖方股二十回  
卷中ノ股 十回

内之方の股十間  
佛云長そ摸と刻勾死得  
七五是そ十五ちと刻也  
如又十五、立らまと刻  
三十乃と内あく立ち  
引て中十間と知也  
股等梗のみとくも空る  
摸二十弓、小所壓方の

少多

泊入

尺辛

巽二乙

卷之三

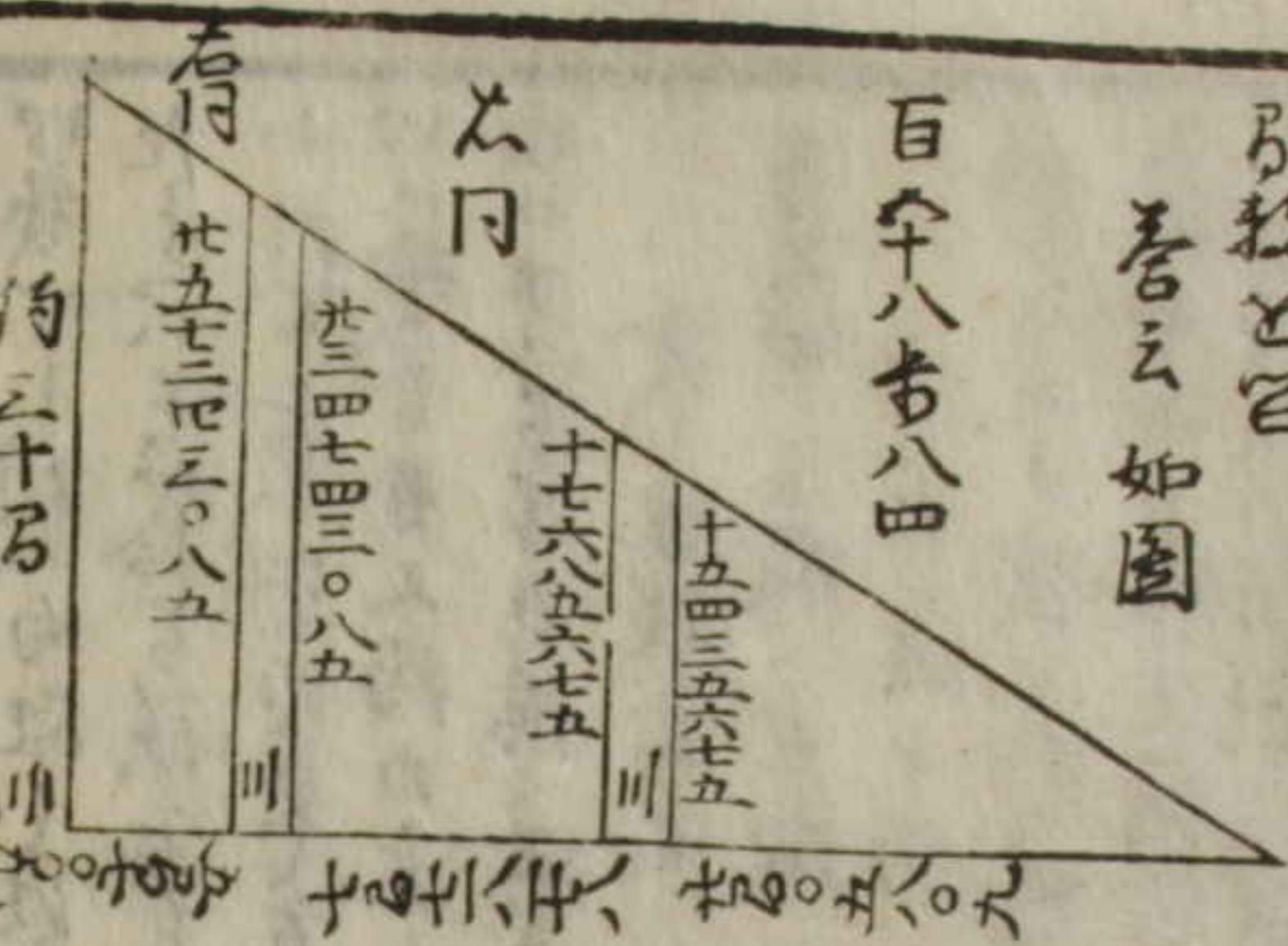
上股と下割  
左圖  
下の約と右割  
右圖

六千三百歩引拂て四千八百步乃至と  
右を並びたるを八拾五と一倍又百六十拾五と  
成是も右と割約から數と爲之  
又約股弦及乎二方打一百三十拾五肩  
三拾五の約也股弦とも  
法右口左也右を三式と雜股分之也  
右小形くあはくの割掛と用之幸也

お殿よりか小え小多波  
時左直焼と幅三間元の  
小窓と二筋付てはあへ  
左ありす小木入ノ事  
弓教と云

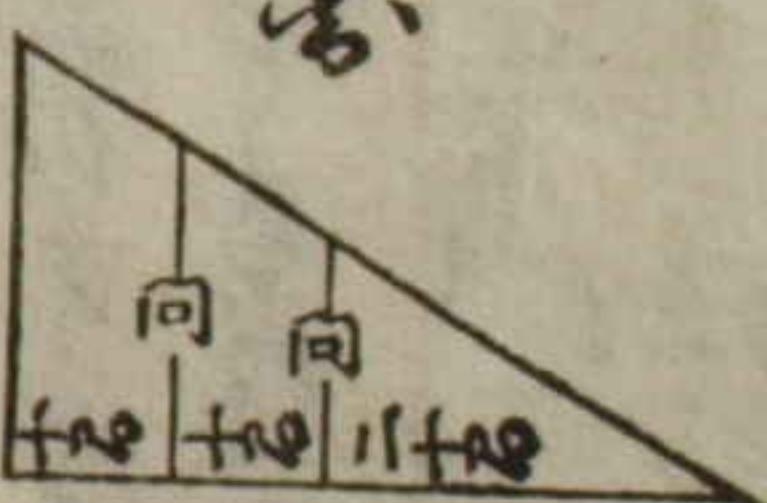
吾云如圖

百半八丈八寸

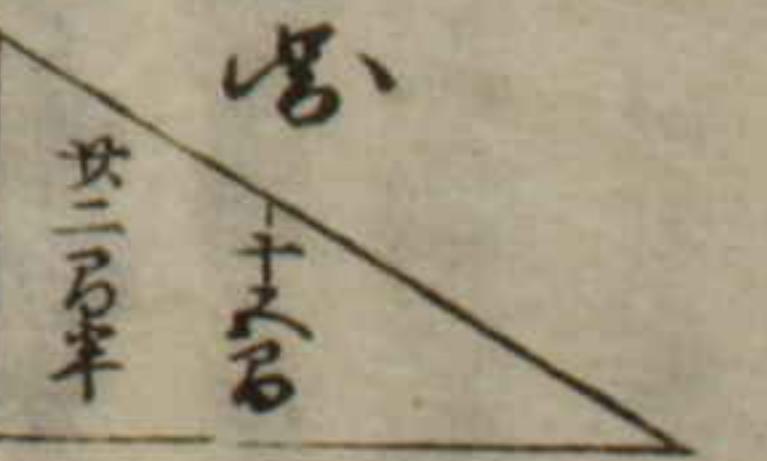


今長四捨ら換ニ捨間に小れ地取をと  
圓のとく切て切口と向

向書



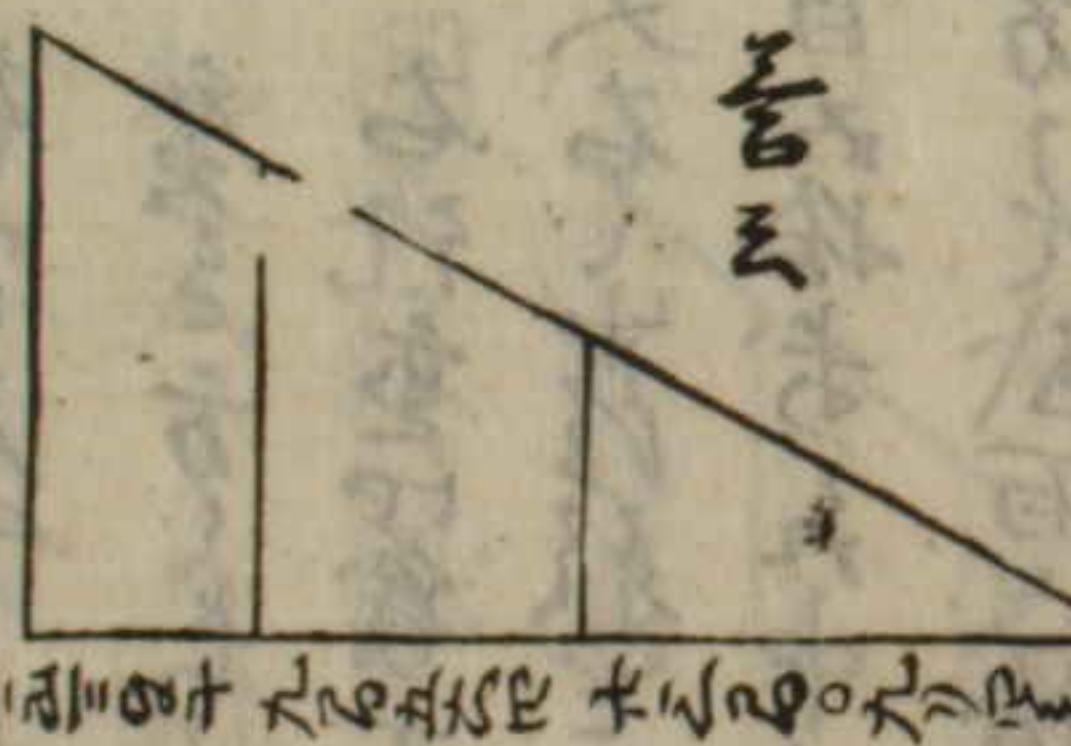
向書



法換ニ捨間とぞりの方の長式捨間と  
無也大舍らとぞ割捨之間と如之  
又式捨間とゆき捨ら加三捨らと歟  
是小換し三捨ら代無也長舍らと  
則セ二尺半よか之とぞ安丁と別と之

今長捨ら換ニ捨間に小改取をとぞ  
多かとぞ切落くとぞ教何經記と云

吾云



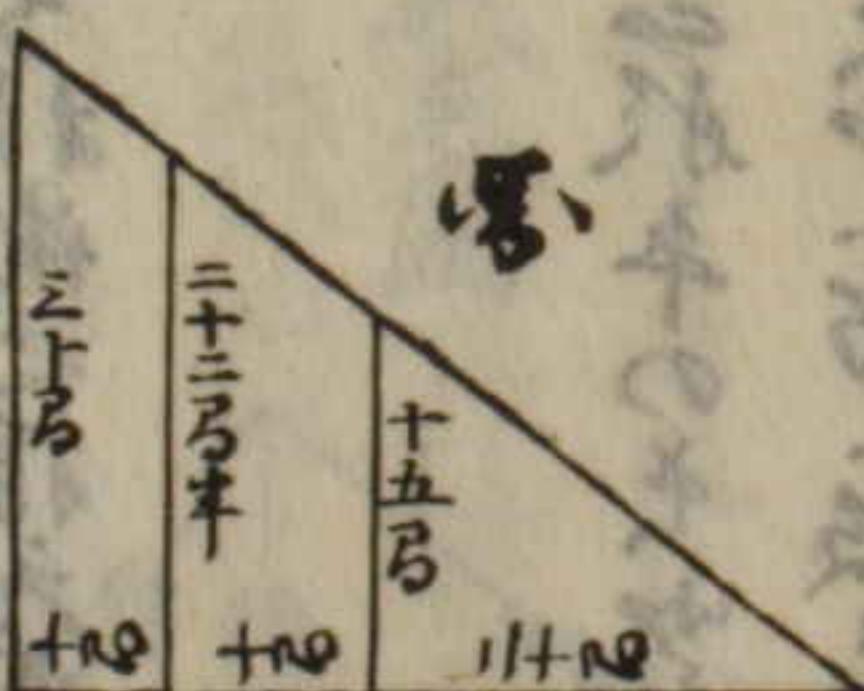
法え長捨らと無合半  
六百半と減量を云う割  
五百三捨三半三二半  
二毛と減量を安平法  
除至三間。九至四毛と減  
又五百三捨三半三二半三毛と減  
千。六拾六半六分六毛と減量を用  
平法。除三捨式乃半分毛と減量を

御多く長捨らと自家  
得半百半と列下く幅  
三弓自家ノ九半倍之而  
十八半弓と角分引拂り半  
五百八十二半を三百メ五百大  
十半三弓三弓三弓と  
列道幅三弓と倍六弓  
三弓ノ二弓と減倍之四弓と  
内节減此半二弓とみ考  
革般開平法と除せり  
細説曰商二半間上立  
自因メ百歩度々減又  
节減四间と商自家八十分  
減之列高大間と通  
幅三弓上合半二弓自家少

得五百九十九と見て商自因  
四百九十九と供に九百九十九と  
開年除得假四百間。四七  
九四八九三八角右を商す  
引残り十ろ。四七九四八九  
考第假二間と余得す  
○九五八九三九八足り減え  
止余四六九三七四三。二五  
△三三商。四分と三間半二桁  
目く假と得す。二五、  
減之又第假四間とみが小  
乗メ二半減之減之又二間  
の五分と幅三間加す二間  
かと自家得音卒事  
二五列えちる。五百と自家

こうの方はよきと中乃長ことと云ふ  
又ノ内右ア。ヨリのうの方れ長こと  
引残りハ中ノ右假く假也とく内も  
そワニス。一四九六分をハモド。残  
度を方とせよ。一筋の模様と云ふ  
右既重で養丁も例と用てか。ま  
度を方とせよ。内ノ右は方と  
度を方とせよ。二五、  
又右を少しだれと云ふか。内ノ右は方と  
百五拾あみ中から百八拾十あ半五度を  
方とて武百六拾武半半を付筋のる  
教何假充をとむ

五章



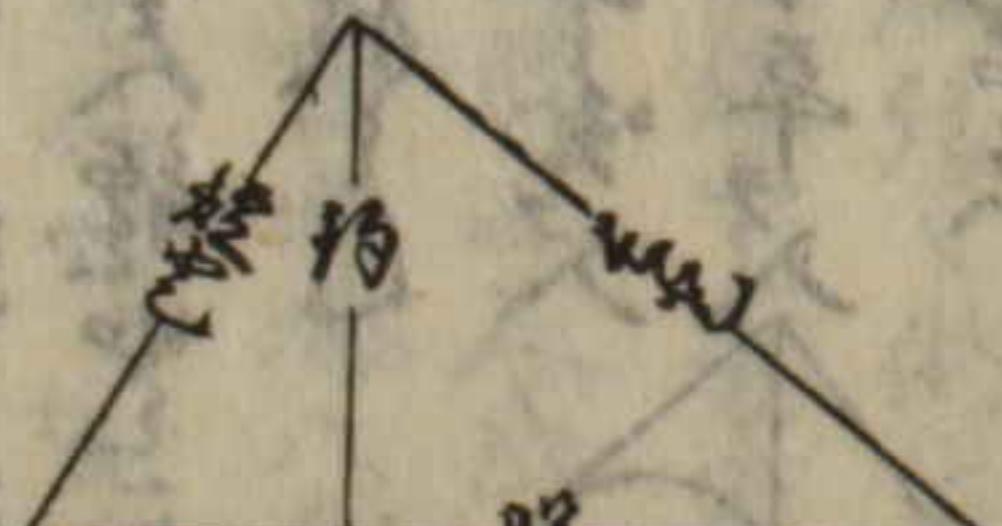
法とくも零落と舞  
千六百九と本是に  
百五拾九とけり  
半拾六百九と割  
四百九と分すと  
四百九と分すと

四百九十九と二五也合并合  
九百七十二九と余と開年  
は除得二十間一八四九二三  
以内前も三十弓。四七九四  
九三九と今のみかと引  
残りす。四七九三九考  
第假二方と余得四弓  
○八九四二九と減之由余  
三九七一五四一八二度と有  
△三三商。四分と三間半  
三桁と角ア三九三八六空  
室る減は又第假四間  
今ノ八角と余一弓すと  
自家ノ五百五十空九四

自家五百六十室。六百  
戸八千戸。三十戸。九合。九合  
自家。四百戸。五七三戸  
四戸一名。并合九百七拾九戸。三  
三八九六二と開平法除得三  
十一戸。三九。七八戸。四  
有。三十一戸。九七戸。三  
走。六七八戸。又九戸。三  
支。七八戸。考。幕。継。三  
家。シ。走。毛。立。六。三。下。減  
失。余。走。毛。七。立。三。九。不。盡  
叔。夫。毛。方。股。商。走。二。千。直  
○。ゆ。八。走。九。系。ト。知。は。多。走  
三。十。間。二。九。走。九。モ。七。八。自  
五。殊。ト。ス。左。幅。二。弓。引。出。

又二十步。其八自因ノ四百二十  
三歩五二六歩各并合九百  
七十九歩五二七八歩と開車法。  
除三十步二九十七歩と取込内  
步と二十間一八歩九二步を引  
歩余一分一二四六八窟引又  
今く八卷引。余三步二呂  
八是た考書繩式弓と案。レ  
穴原四九三六窟を減ひ。朱  
墨墨也。八二支。首  
△四〇角。九系と互用。手  
四折。撇メ三席十步二五步。八  
字を減ひ。又另繩四間と  
今九系。余三毛六家と  
察下、或又二十三步共。九

股等板木之根元圖之



法主も少くとけ合捨六歩より又  
短少三尺無名九歩もしく足を有  
捨空より引跡て七歩と別丈股  
立人無人石下もしく足右七  
歩と左三格五步もしく足左を有  
重たも股を人と倍し走よと足

今家平のモモロシ人垣也二戸取多  
代くもよし方と股と組ゆく方と股と中約六



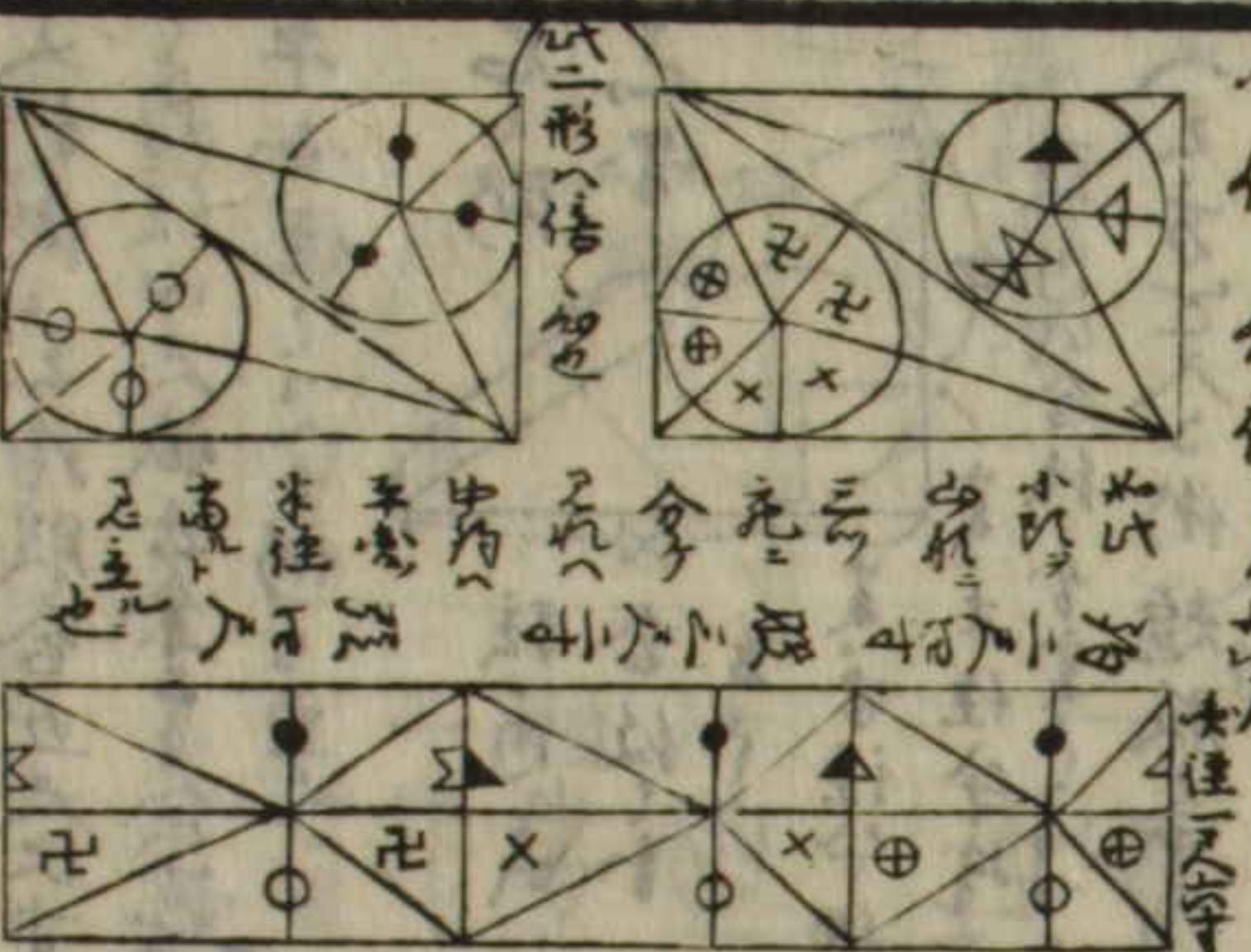
外へ中へ股也  
双股弦根元者長毫也  
自因も内短毫も自因と  
減少余之手教も又長股も  
自因も内短股も自因と減  
少余之手教も内教之代り  
此固玉筋也

も右と別モ也方も股二尺二寸と  
成ヒニ又ニ守と長也又人ともりて  
約股強く求<sup>ル</sup>約亦と用て中尺二尺  
守と約<sup>ル</sup>板也股丈も色も守の方の  
股丈<sup>ル</sup>すに満てを尺八寸<sup>ル</sup>短也  
方<sup>ル</sup>股丈<sup>ル</sup>一尺八寸<sup>ル</sup>と双股強<sup>ル</sup>ミ  
今も生<sup>ル</sup>人短也<sup>ル</sup>中尺五寸<sup>ル</sup>守

The diagram shows a circle inscribed within a triangle. The top side of the triangle is labeled '長也方一平入' (Nagaya-hō ichihe niiru). The left side is labeled '短也方一平入' (Tanaya-hō ichihe niiru). The right side is labeled '方一平入' (Hō ichihe niiru). The bottom side of the triangle is labeled '方一平入' (Hō ichihe niiru). To the right of the triangle, the text '底径' (Chikaikei) is written in red ink. Below the triangle, the text '五七' (Go-shichi) is written in red ink.

山東小平房と平方と今猶  
根源へ長股小中約紙条  
縫之乃至長也と内股と  
中約と合ひ法多く除て  
か往々如斯矣

はまく約股強く御とく。昔も一方の股  
三尺二寸と短い方の股を七八寸減らし  
叔父の股二尺八寸小約三分八厘半  
無すうち七百六拾八分減りと一倍ア  
千五百三十六あく減り成左小垂れも  
長毛やくと内股二尺五寸と中約度  
厚と三口合九尺ひすみをみて右股  
刻へる佳きとへすとかぢり。別に又  
をんへす小二尺半と無すあく百三十  
二も本來右小垂れゆく二尺半と  
え入へすと左谷口尺二寸減りとて









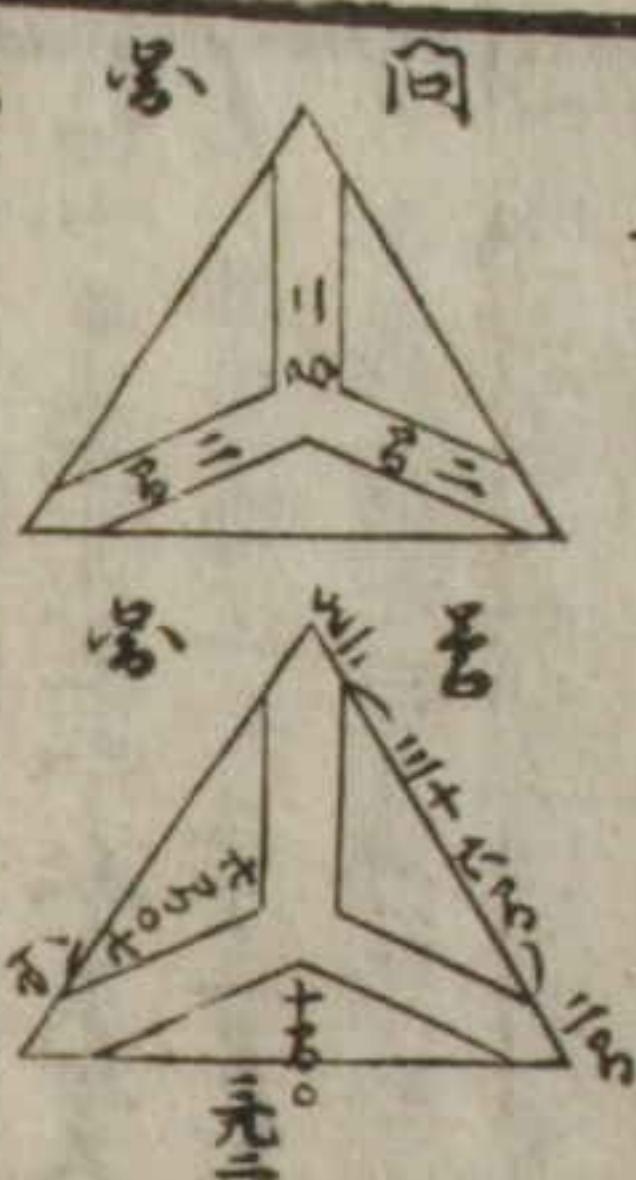
助三度自内幅二丈減  
六十七間又減又綾自三間  
減一丈三間又減又名并令  
九十間也まえもや十九間も  
減六十間と余減二千五百  
七十丈<sup>フ</sup>列求<sup>フ</sup>死八丈を  
道二ちの自因小幸をまし  
得ニ二あ六分<sup>フ</sup>足をもと自ト  
減一丈余二千四百七十一丈に  
半を三ゆ<sup>フ</sup>得ハ百二十丈  
八丈<sup>フ</sup>列のたれ三丈<sup>フ</sup>ニ二丈  
と又其まの一丈と相乘<sup>フ</sup>得  
二丈<sup>フ</sup>足をもと加<sup>フ</sup>供<sup>フ</sup>小百三十  
五丈八丈<sup>フ</sup>得<sup>フ</sup>千六百六十  
きあ六丈<sup>フ</sup>列小入候<sup>フ</sup>内ト

挾枝ニ弓七弓と割ハシ七弓とて五間  
と出ハシム弓と挾枝ニ弓七弓とうけ弓  
小別ハサツ弓九弓三弓七弓毛筆  
是を也ハシマ五百九拾ハシナ。六弓ハシヌ毛  
加六百ハシナ。是を割目安ハシナ又  
綿ハシナ立弓今弓ハシナ弓又  
弓と出ハシム弓拾ハシナと無合ハシナ千六百弓と  
歐是前ハシナ無目安ハシナ。叔百九拾ハシナ八  
弓七弓毛ハシナ九弓三弓七弓毛  
セトハシナ武百。六弓五弓毛ハシナ叔

道幅三分て一弓板上余  
二十弓とへり死八除假北  
西三十弓を二弓板上を  
二十弓を余得七百八十一弓  
えふうり、是とをもち假小加  
賛供二千四百三十弓を余  
み充<sup>ヲ</sup>すとへり死八除二千  
四十弓を。六ニ弓あふれ  
之。叔道幅三分て二弓と  
あ事假<sup>ヲ</sup>間年は小除得三十  
弓間一分弓<sup>ヲ</sup>八九弓内假北  
三十一弓をふう板上余二十  
二弓九弓。や八九弓假<sup>ヲ</sup>方一ヶ  
而く假<sup>ヲ</sup>假<sup>ヲ</sup>名間板上  
求メ知

是とちく別目安六百あ小て刻五百六十  
あ處を減開半は除武拾三間又  
而ニ毛と麻は内生の延べら引附て拾  
八らアラウトモハ被接に方こ長也  
又百九拾六あハナチリ毛と毛と毛附テ  
三百九拾三あナムアラウト麻毛一被す  
九あ三分七毛をもと加一田百。二あ一分  
武和毛と麻毛(右)無目安千六百  
ちと無板たゞ刻目安六百あとと  
つて刻千。七拾五あとすりまと  
開半は小て除三拾武カラタマハリ七十五

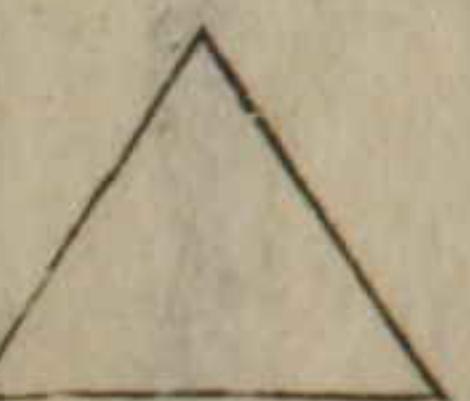
辛亥方丈北去面西十间之也  
喝道幅二尺小小路也迎之  
云々小号令小刻付之  
間教乞



御旨方軍間内道幅  
之倍に間と減る余三十弓  
是則幸ケ而取股十九弓  
定法二八六六六と乗して  
中勺十弓。三九二と知又股  
定法八七七三三三乘ノ右  
も一ト弓。七八と知也

半三方六午十方との定は孫  
を吟味ひて小が先相違体  
ひくが小もあとは反対小也  
三方四三三テ  
六方二五九八一七三或ハ互相違  
八方四八六四  
立方一七ニ  
七方三六三四  
九方六一八二  
十方七七

平二方之書

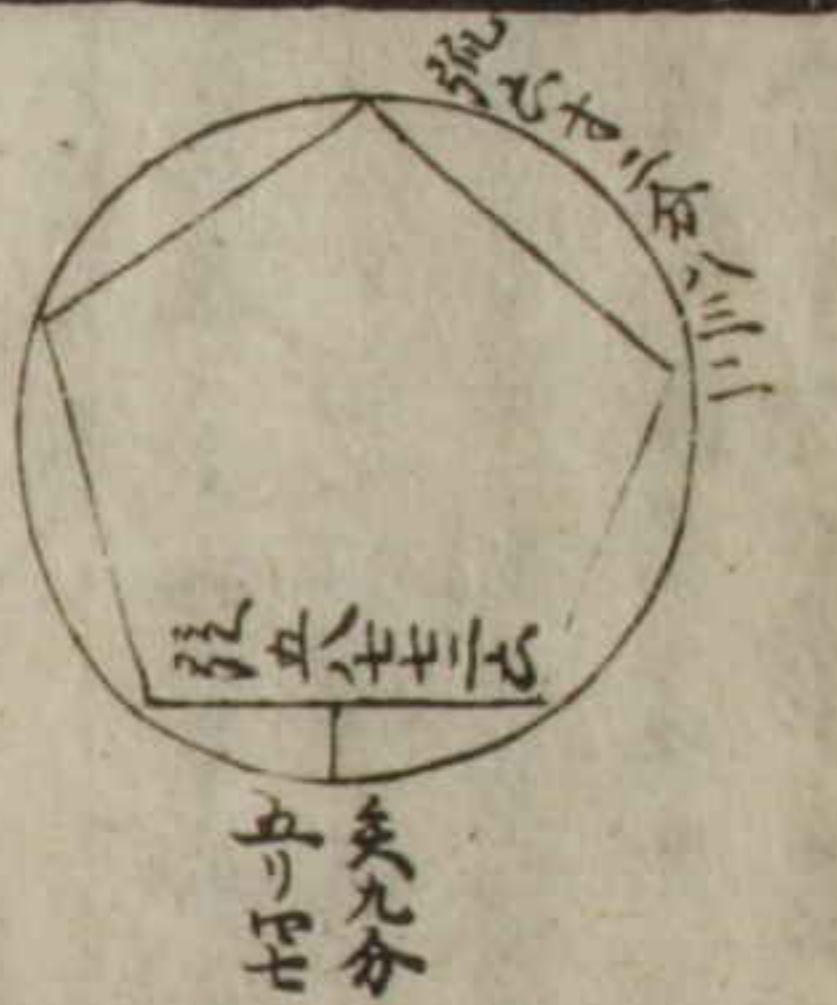


金

	十	三	七	九	一	四	六	八	二	五	七	九	十一	十三	十五	十七	十九	二十	二十一	二十三	二十五	二十七	二十九	三十	三十一	三十三	三十五	三十七	三十九	四十
	十	三	七	九	一	四	六	八	二	五	七	九	十一	十三	十五	十七	十九	二十	二十一	二十三	二十五	二十七	二十九	三十	三十一	三十三	三十五	三十七	三十九	四十
	十	三	七	九	一	四	六	八	二	五	七	九	十一	十三	十五	十七	十九	二十	二十一	二十三	二十五	二十七	二十九	三十	三十一	三十三	三十五	三十七	三十九	四十
	十	三	七	九	一	四	六	八	二	五	七	九	十一	十三	十五	十七	十九	二十	二十一	二十三	二十五	二十七	二十九	三十	三十一	三十三	三十五	三十七	三十九	四十
	十	三	七	九	一	四	六	八	二	五	七	九	十一	十三	十五	十七	十九	二十	二十一	二十三	二十五	二十七	二十九	三十	三十一	三十三	三十五	三十七	三十九	四十

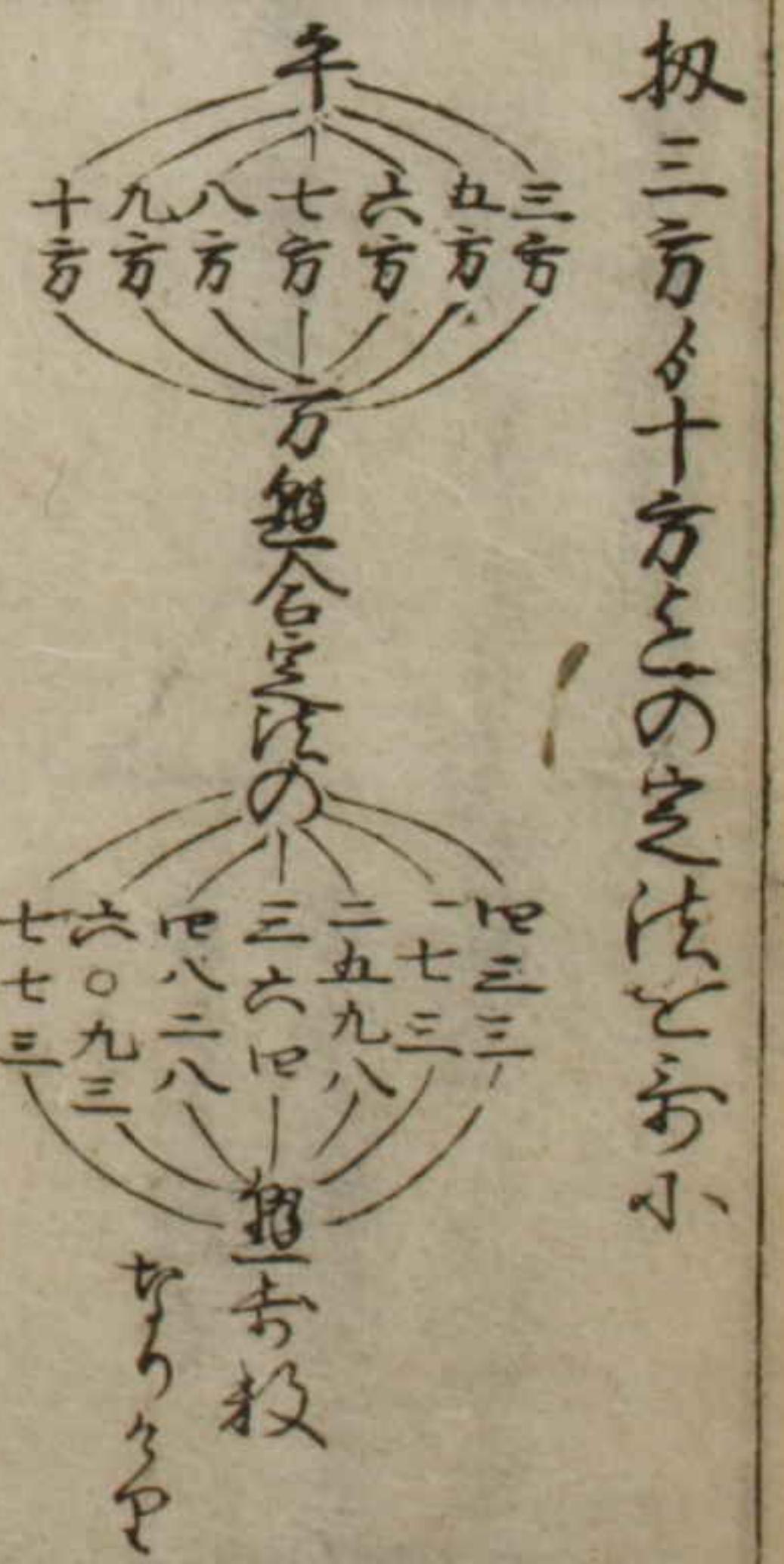
右股を根柢と根源圖ノム  
省先の毛五弓引又狹狭三方丈長  
捨八弓アラウハ弓モ引みて九間三弓  
三弓弓も中の毛サ也叔也長四十間  
の内今又トトニ三拾弓弓七分八弓七弓  
引みて七間弓分毛を二弓度模  
方毛サ也叔もくの切口とコ弓弓  
白配毛七弓と前弓弓ニ弓三弓弓分  
五弓弓毛一毛狭狭模三方弓切口格七弓  
弓九弓と知也又弓配毛七弓弓後弓  
一三拾弓弓七弓弓毛一弓度模  
弓方の切口毛九弓と知也

板三方々十方との之法とす小



計者平中ニ連徑等  
内美九分五厘七分  
等。以次三弦立す七  
六と案ニテ刻十キモ  
八八七六ヤム分半をス  
合て五十九あじ三八二  
又弦自因三十ヤム五  
九六ヤドウは陰と得一  
六四ヤビトの六四と捨一  
七ニテ三三

平三五七八九十九方之

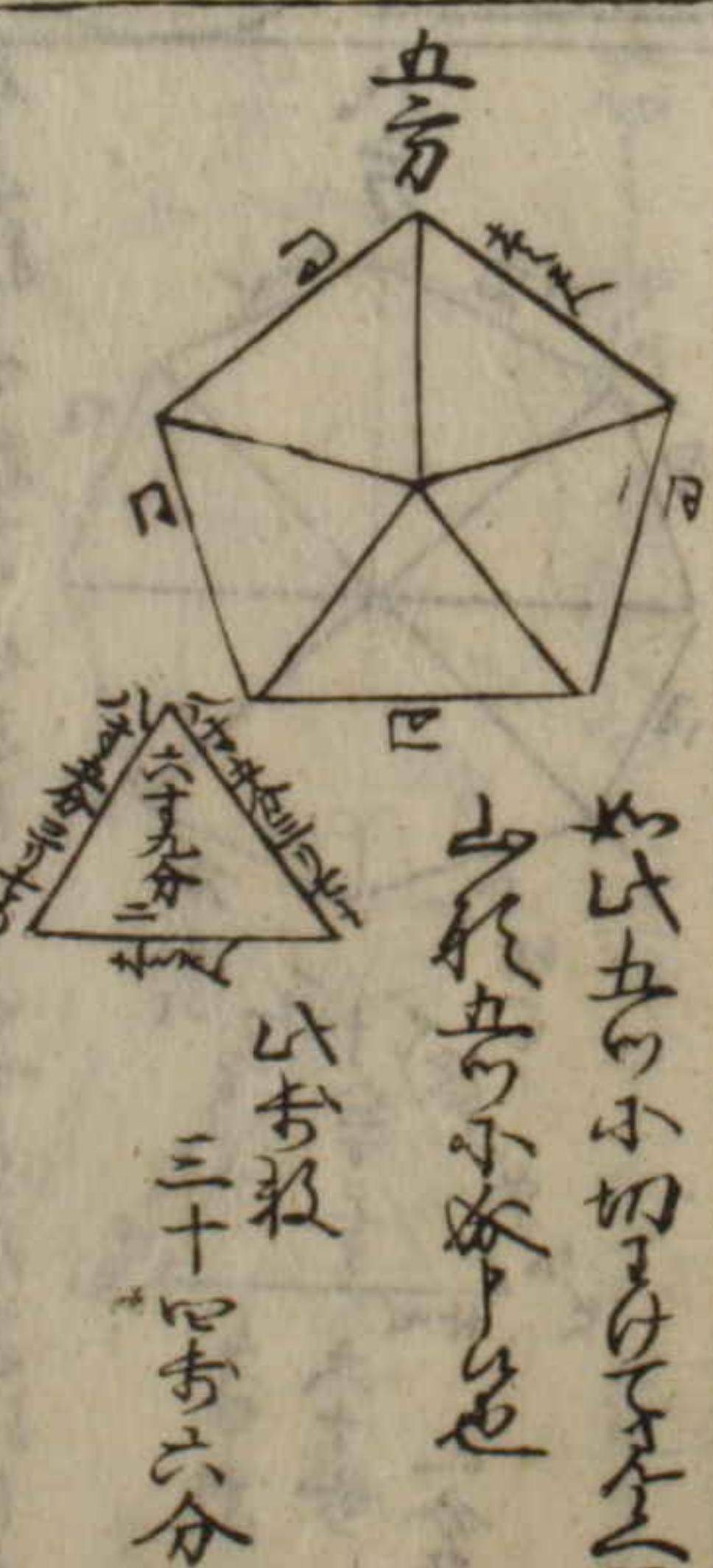


又あねりて三三ノの入とどどどと  
又あねりて三三ノの入とどどどと  
右三方々十方との之法根源  
それの入

切合せの墨

三方 公す分  
一七ニテ  
切て組接に  
合えれへ  
也

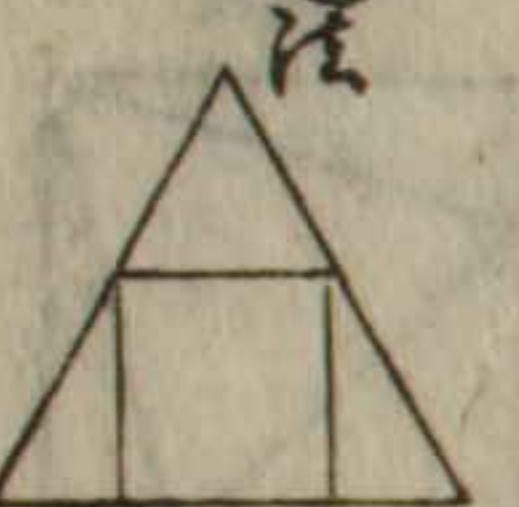
墨を中下ニ  
おね四十三  
也



山形考小法  
三十四す六分

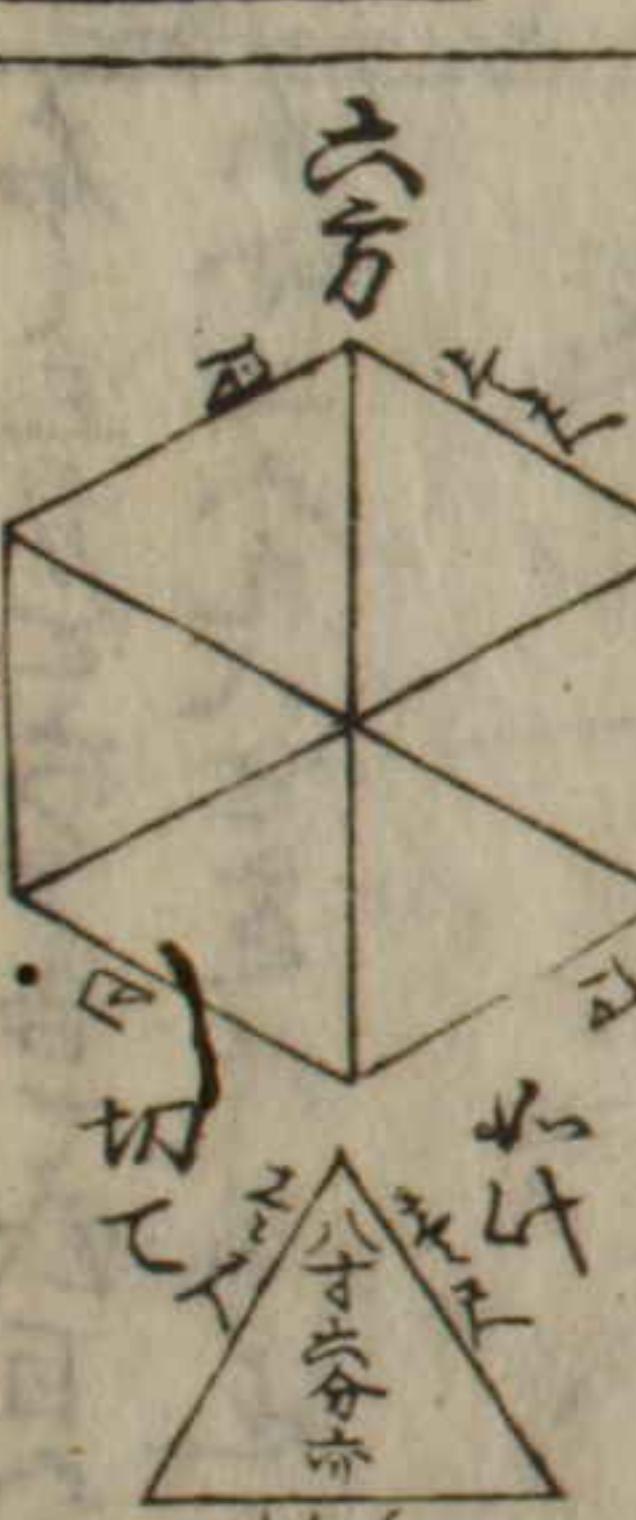
山形考小法  
一七ニテ

三方ニキ方入之法



二方ニキ方入之法

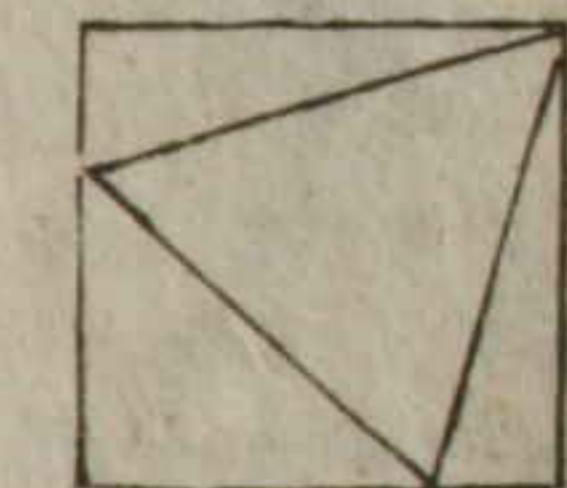
一六二



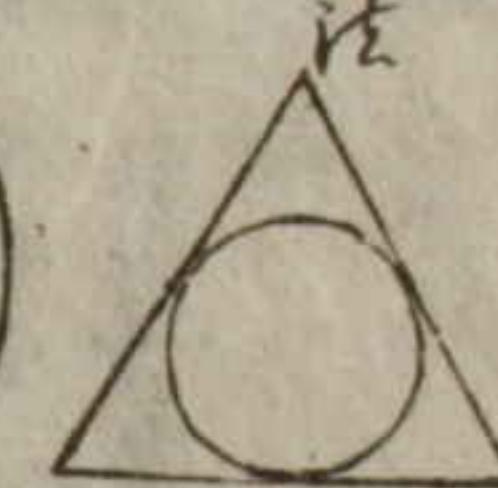
二方ニキ方入之法

一六二

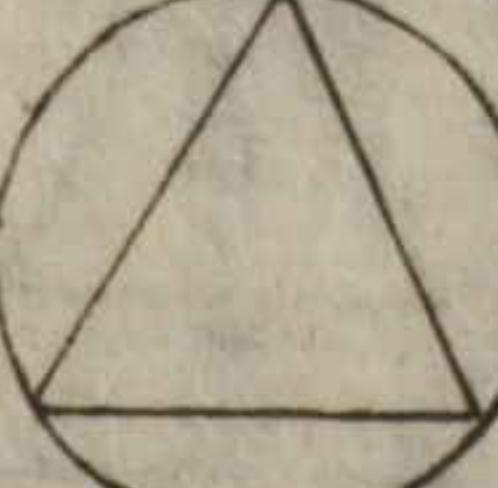
平方二方入定法  
一〇三五二八五五



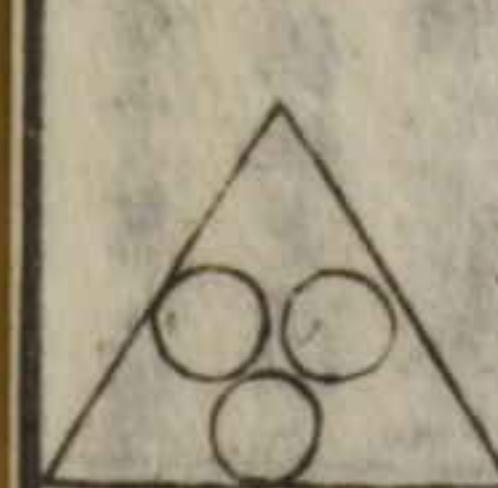
三方二方入定法  
五七七三一一



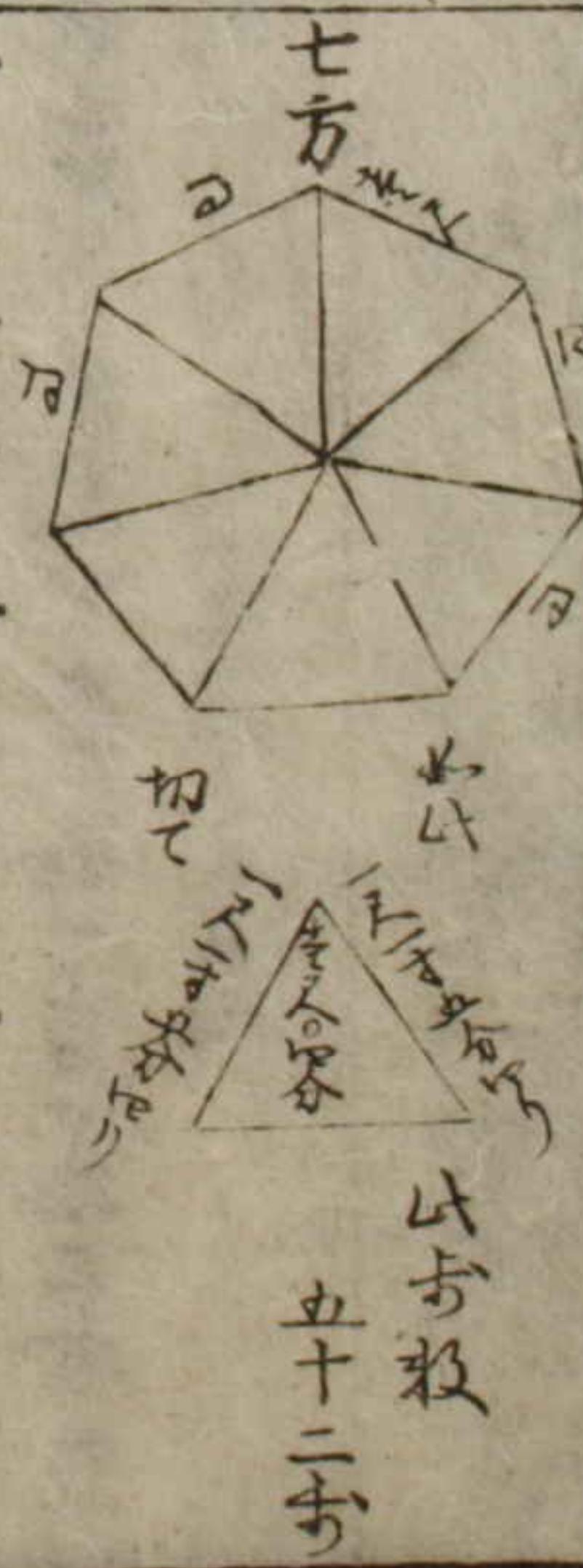
平家三方入定法  
八六六



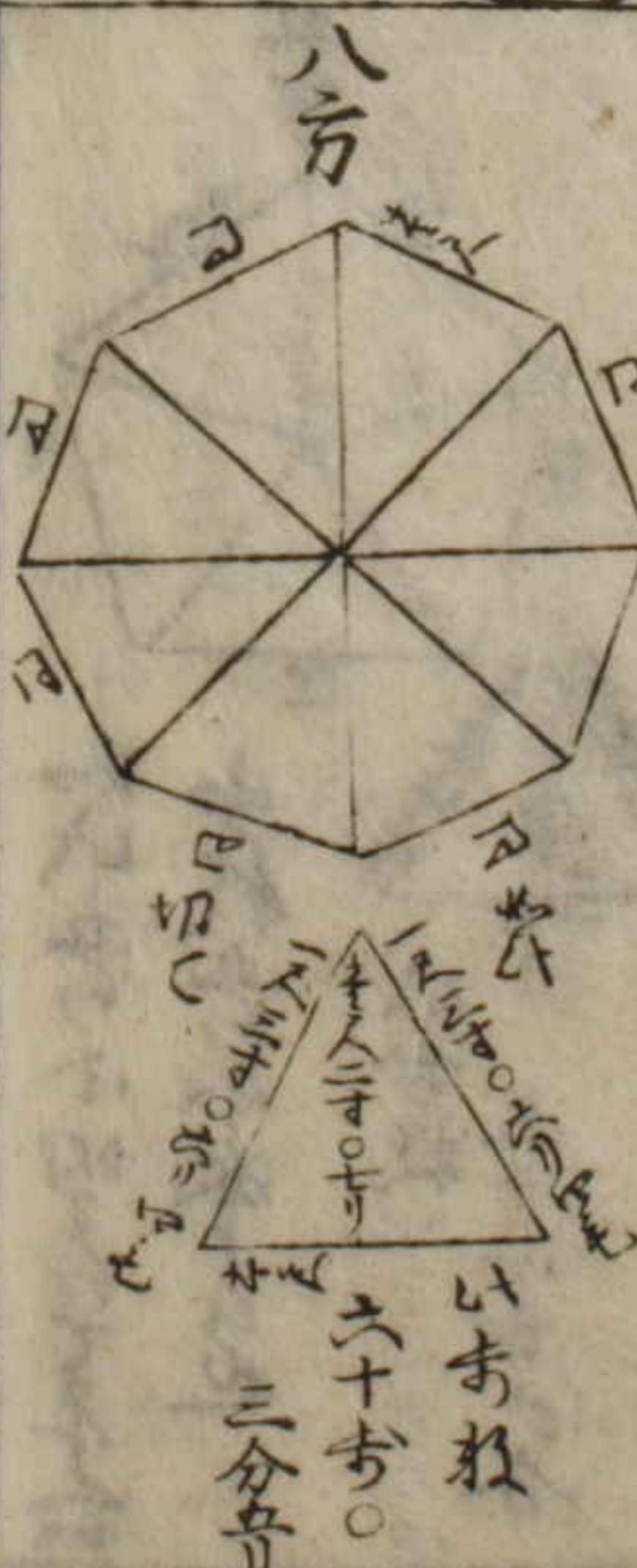
三方二方、三  
星入定法  
二六七九四五



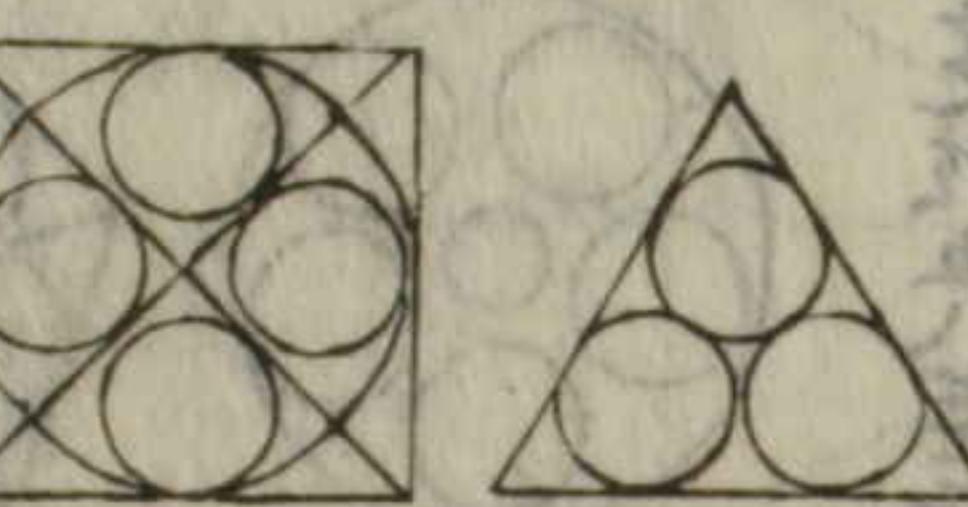
右より三方二方合て五百八十九を八五五  
れ小ニス九八と定法也



左より三方二方合て三百六十を定法用之

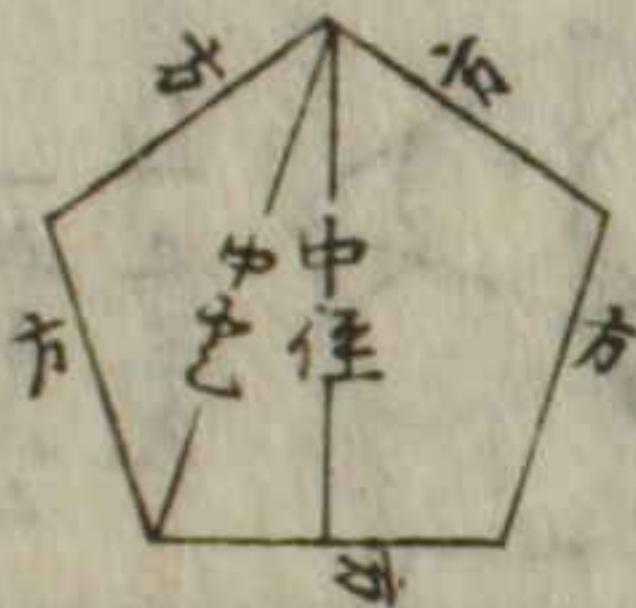


三方隅二方  
三星二入ル  
定法三六六

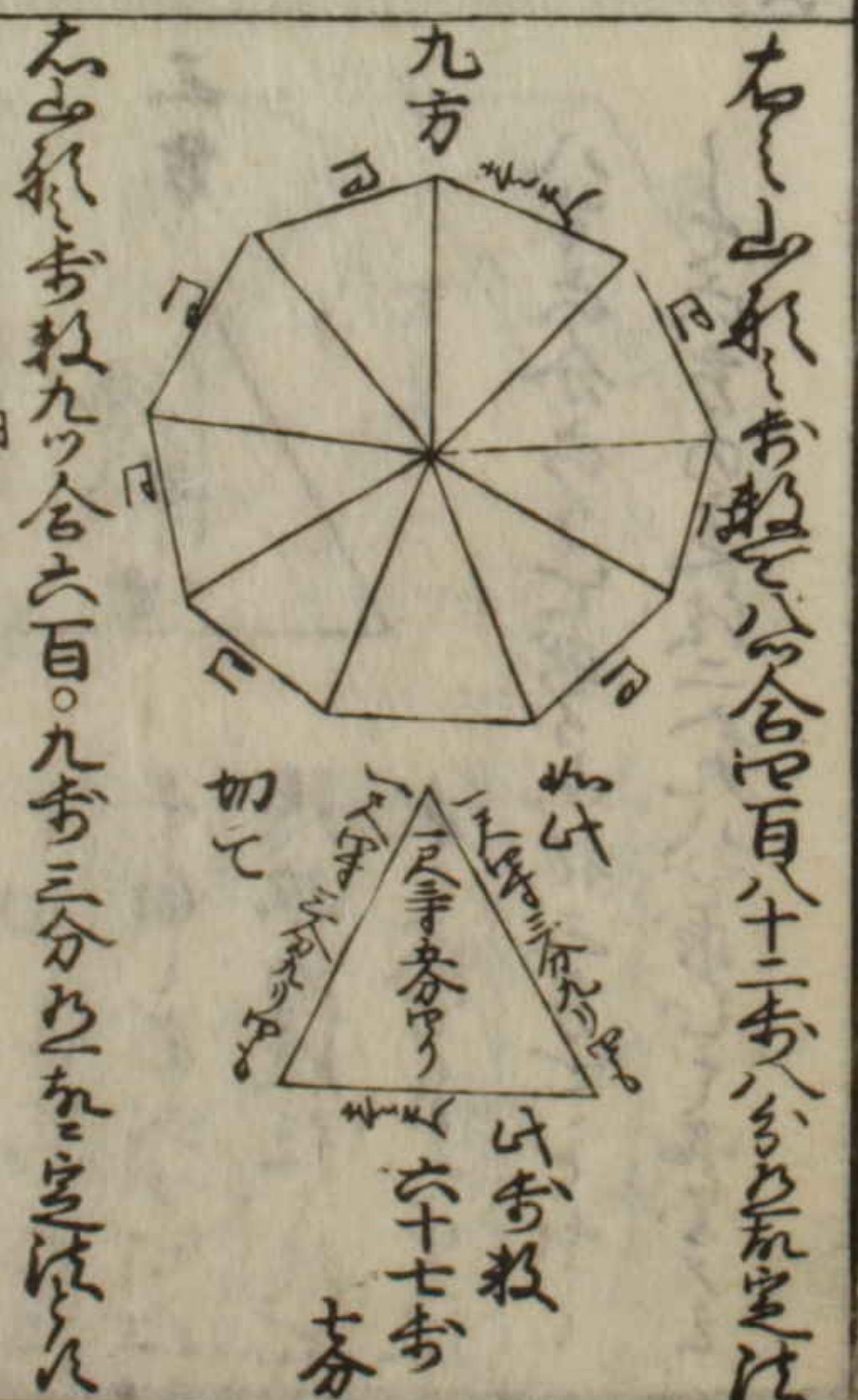
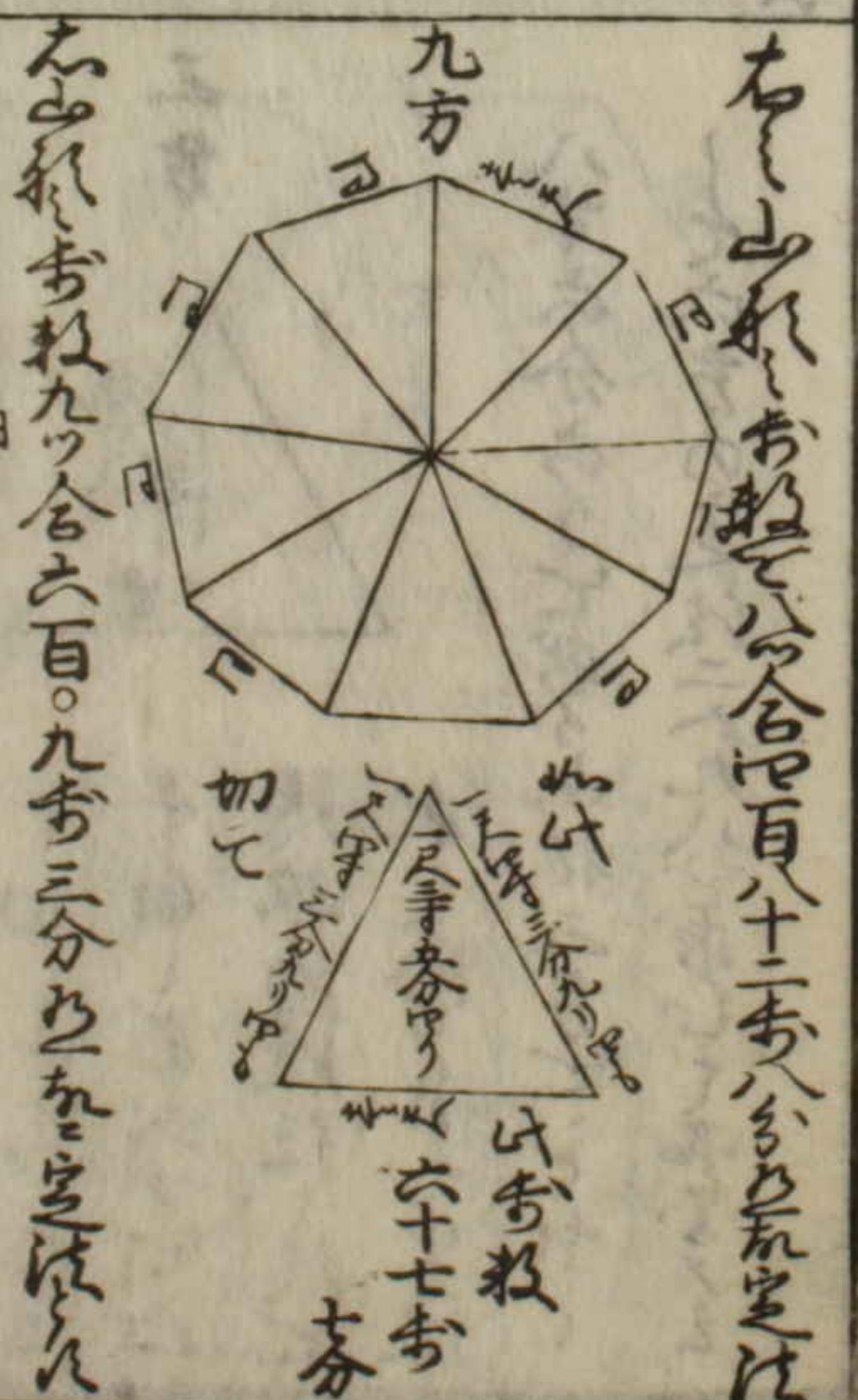
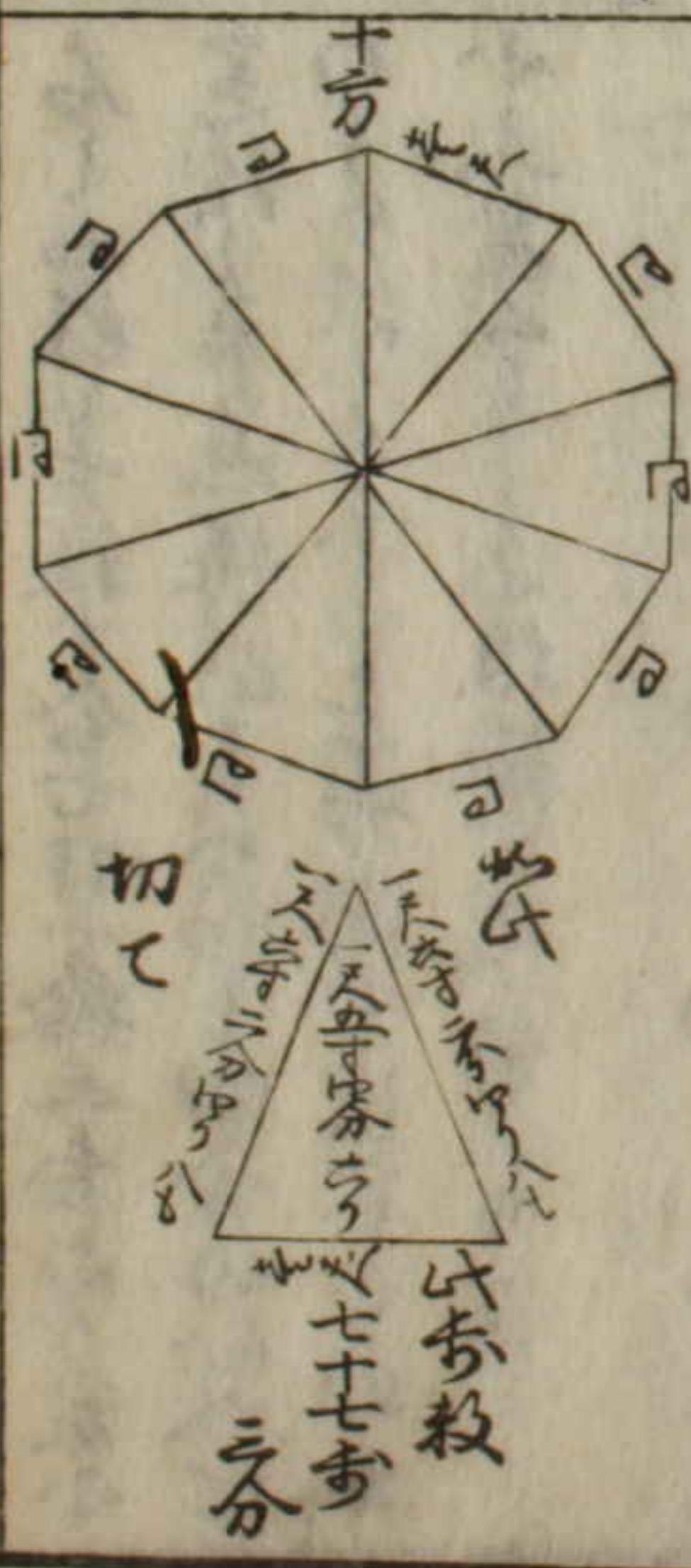


三方并平家  
三星入定法  
一七二

三方定法也



三方自固之定法  
一七二  
中注自固之定法  
七二六二  
中空自固之定法  
五五六六



方徑相因之方法 一一七六  
方也相因之方法 一〇六二九  
徑也相因之方法 六四二七六  
中也求入法 一六七三二  
中徑求入法 一五三九

六方五星入法

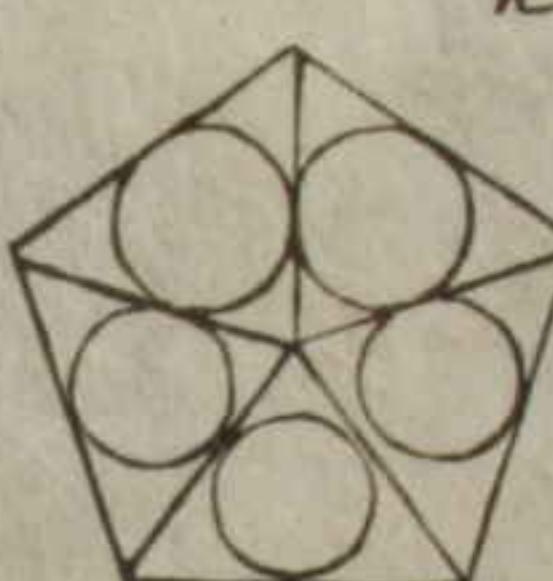
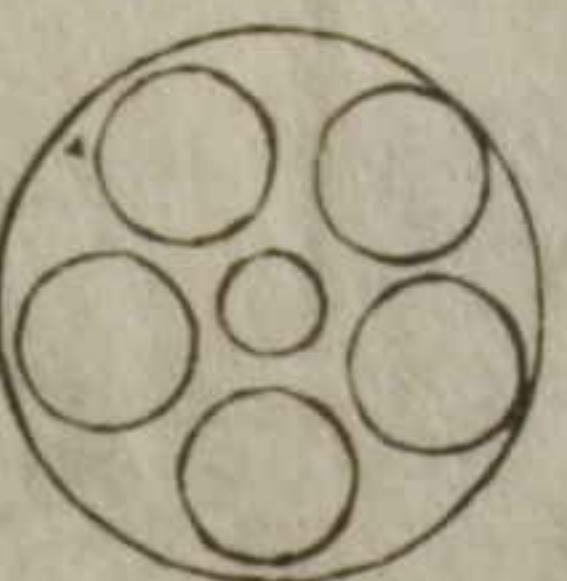
定法  
立九二五

辛亥梅根

八之定法  
大二七

小二六

辛亥小六方入定法立八七三六



三方



右之數を加板十合七百十六三ありか  
定法と申すも併せ美ハシモ切合の公入と  
あらへどもとくも善術を記不分明れ  
小又其ノを根源と記せりやけり

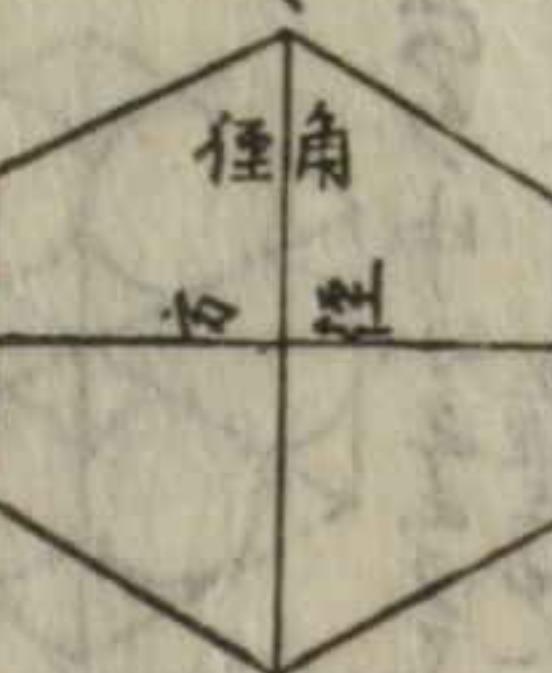
き面をもとて内弦

を面をもとすとお

内弦約股弦と徑と  
求ふ事と用て中徑

八寸六分九厘とある也板三方ととゆく  
して六方の定法二八九八と申すも此ノ云

六方定法



方自圓之方法 二五九八

方徑自圓之方法 八六六

角徑自圓之方法 六四九六

方與方徑相因之方法 一五

方與角徑相因之方法 一三九九

方徑角徑相因之方法 七七

方徑尺法 一七三三

角徑求尺法 二

六方小平亥入定法 一七三三

平亥小六方定法 五九六三

と三九九割を倍ソキムアモ刻辛八合  
辛亥をもと底乞か外へかに中徑をう  
是徑三方の中徑八寸六分九厘と  
引ひて立す七合九厘と底乞か外へか  
たる合口もと底乞か外へ三合六分九厘



き面をもとて内弦

を面をもとすとお

内弦約股弦と徑と  
求ふ事と用て中徑

八寸六分九厘とある也板三方ととゆく  
して六方の定法二八九八と申すも此ノ云

增補算經卷三

增異本

六方之隅  
ニ

六方之隅  
ニ

七三二

六方之方二

六方之方二

三方ノア  
入之法

三方ノア  
入之法

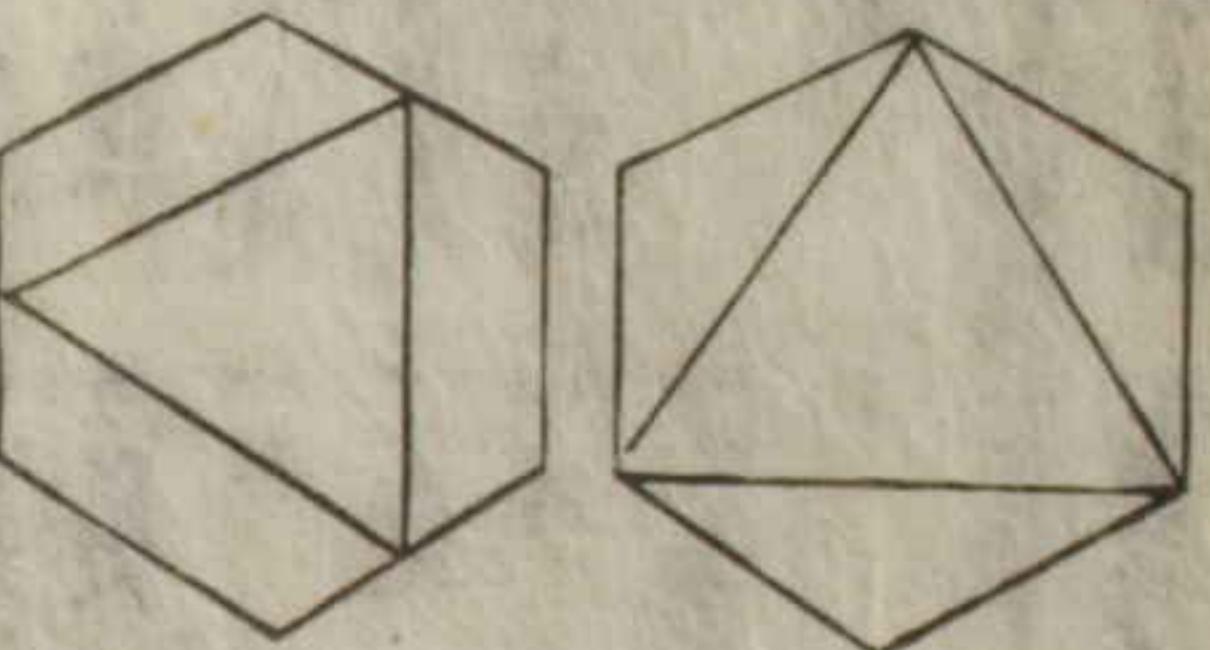
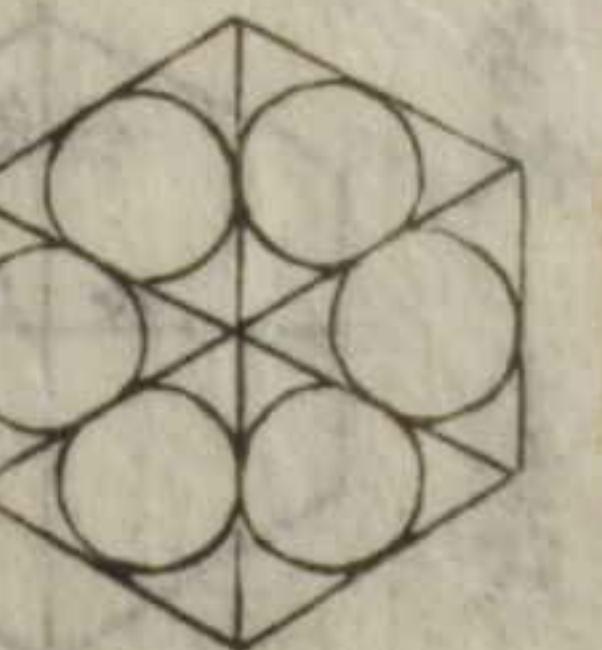
六方、六星

六方、六星

入之也

入之也

平素小旦中少喜之  
七曜之入定法三三  
如徑三身



と五令をもつて西乃三方より  
はあねに拾二歩云々の中にも  
三方より三方取れあね

八格六十九也又三和之綱  
授年も寺教合百七拾二年  
右立方數の寺教加減百九拾九寺分

又云、小之本法也

の手方トタカニモアリ

或とか一ノ方木人を

一也。二也。刻七す。うちも筆筆  
外。一也。合是れへて原山。

取之是れ合意也。天下之  
事半數大半又一百半  
事

中もまたこの方半ずれば百もひうね  
まつは是更にせか及へて下り合

口不外揚。細擇其事。悉知之。已。擇  
主。有余。乃。也。亦。教。合。以。百。八。拾。武。

右八分余行之有小空法《急就》也  
叔丘方七方九方以半參小而人主之

其取圖之云

曾國是女三

中徑求天法 二二九。七七  
中長也求天法 二二七一  
門短也求天法 一八。二二七  
七方七星入定法 六六三三八  
平參四十九中二十九彼小八曜  
定法四三。二九八四三と固れ  
中者三九四八三と素え  
平參小七方入定法 七〇三三八



八方之法  
方自固也法 七〇八〇  
方徑自固也法 八二八〇二  
角徑自固也法 七〇七一

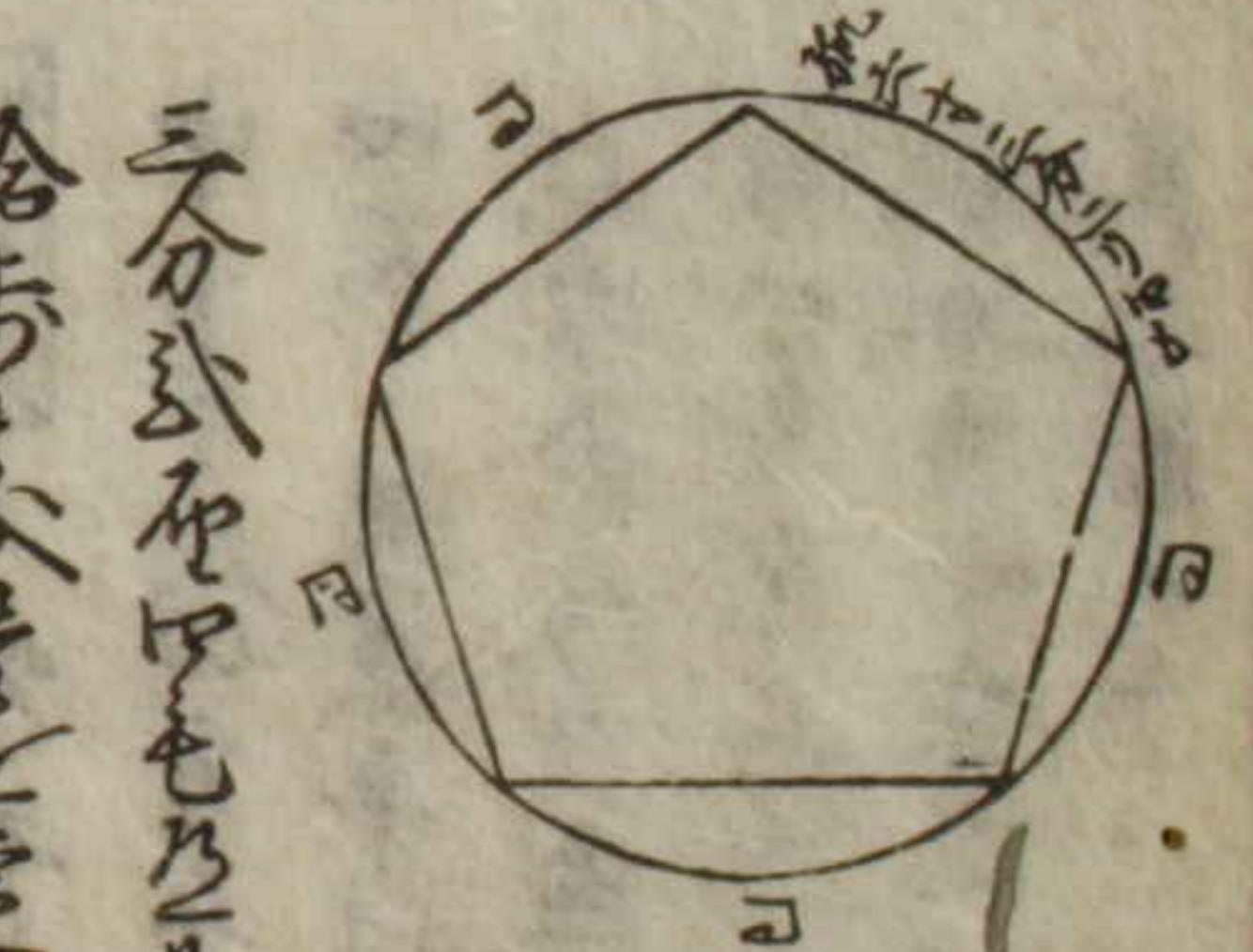
短也自固也法 一七一七二  
方与方往相固也法 二  
方与角往相固也法 八七七五  
方与短也相固也法 二二三二  
角往短也相固也法 一  
角往方往相固也法 七七三七  
方往短也相固也法 一。八二〇  
方往求天法 二七一七二  
角往求天法 二七一七二  
短也求天法 一八七七五  
八方八星入定法 六六八一七  
平參八方入定法 三八二六八

夫乃九分九分也もと引いて九す。やうを  
ひき九す。やうともとまの九分九分もと  
ひき徑夫張も術と引張みす八分十分もと  
ひき是も中と三分と一方也。往夫張の  
術へ平參の術小化はな寔小畧に扱  
往くまえすと色とり今とくらえ九分  
みうつも引いてやす。やう六分へ中ゑ  
三分とみうつも引いてやす。やう六分もと  
中往もとみうつも引いてやす。やう六分もと  
みうつもとみうつも引いてやす。やう六分もと

めじ徑もとみうつもと  
切底立方と求る

九星之氣往もとみうつもと

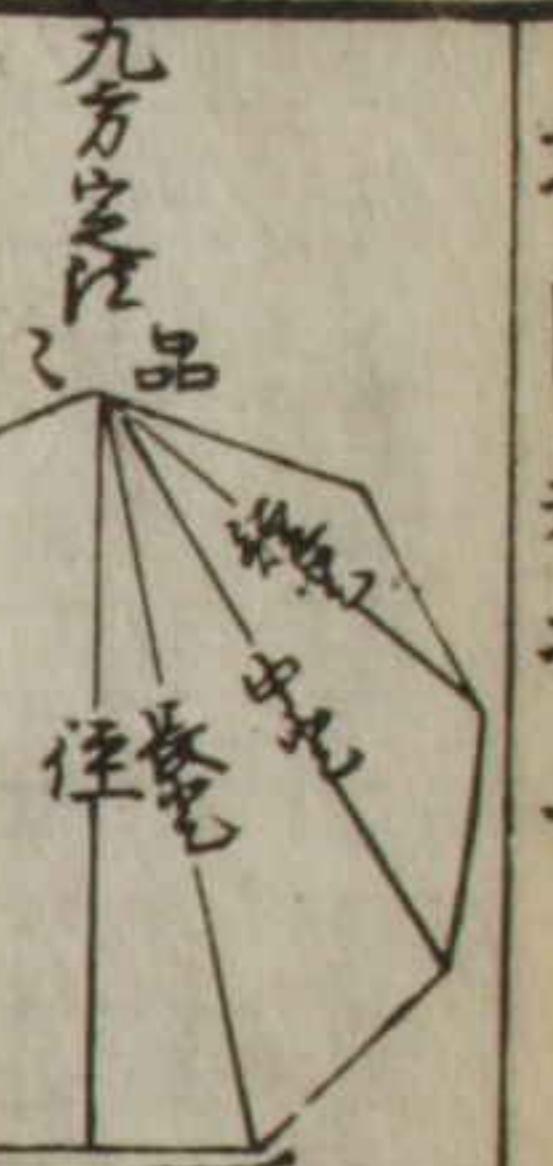
參也とみうつもと角今とくら



めじ徑もとみうつもと  
切底立方と求る

九星之氣往もとみうつもと

參也とみうつもと角今とくら



九方定品  
住自因之方法 六一八二  
住自因之方法 七六八五  
長也自因之方法 七四五三  
中也自因之方法 九六六三  
短也自因之方法 一七五二  
方与住相因之方法 二一八  
方与长相因之方法 二一七六立  
方中也相因之方法 二一七一三  
方短也相因之方法 三二八九三  
住与长也相因之方法 七五六九三

九辟十方九も六系と巡不居たニ  
ぬはとど右小面にて立すハモナリ  
立毛と魚合三拾四辟六分ナリ登毛も  
左と割へ一七三と底有小定法と申る古  
方九方も右小口立成れ小爻小略を過

叔十方へ

を立方

トスル三九

其而墨

ノテミク



方と立方  
方と立方  
方と立方  
方と立方  
方と立方  
方と立方  
方と立方  
方と立方  
方と立方

よもよも面を立の立方の寺教と互に  
刻を傍多々て別へ六すをうと  
おけーかー十中住也に中住と股や  
見き面のま立すと内股弦と  
弦と束の術と外ひハスヌシナリモと  
妙な是おけーかに合口のすを立らる  
少れれ合てまく乃立方と水

はち教百七格三ぢり足

中も立方されハ百七格  
にあらね立方と絶撰  
てあね合百七ぢり足

平素十曜入定法 通五事  
中四九當六四

平素九方入定法 二一七

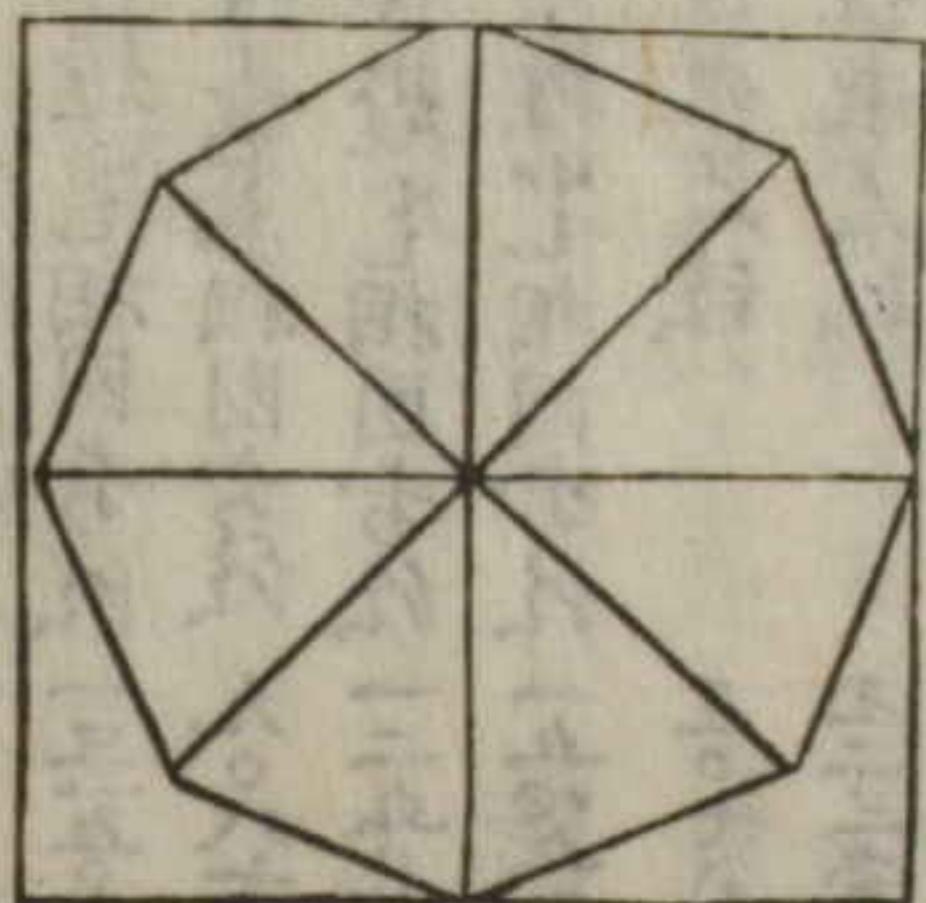


子子也  
中九金  
三  
にあらね立方と絶撰  
てあね合百七ぢり足



平歩も定法乍書き小記ハシ師作の通小れ渡とくよりのすりもん後手微細小を吟味相改てお法七八五に廻法ニ一に一六成用るかうじえ入之へ先方平走天八方され

其圖如比也

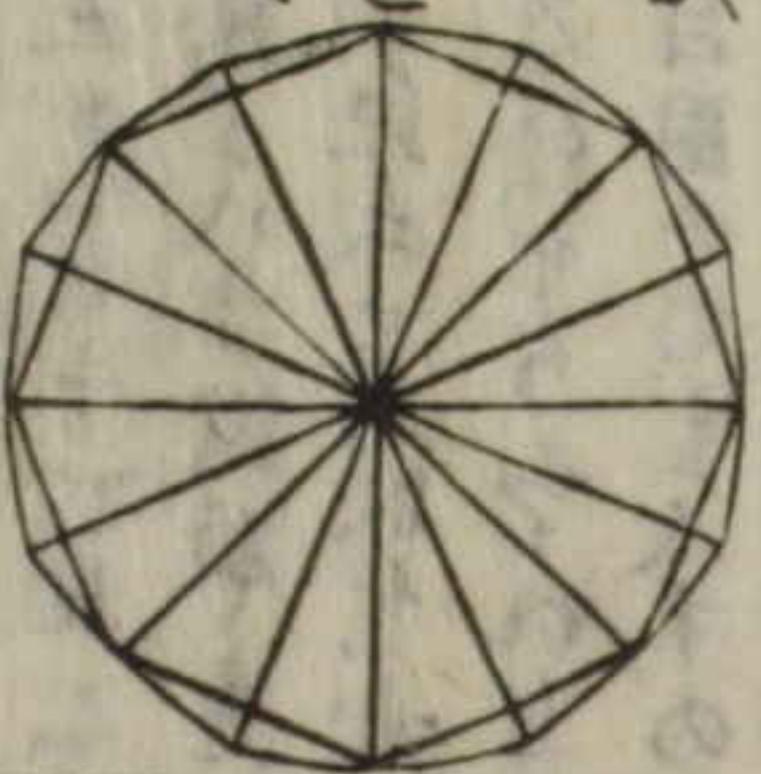


又八方より十六方と求る

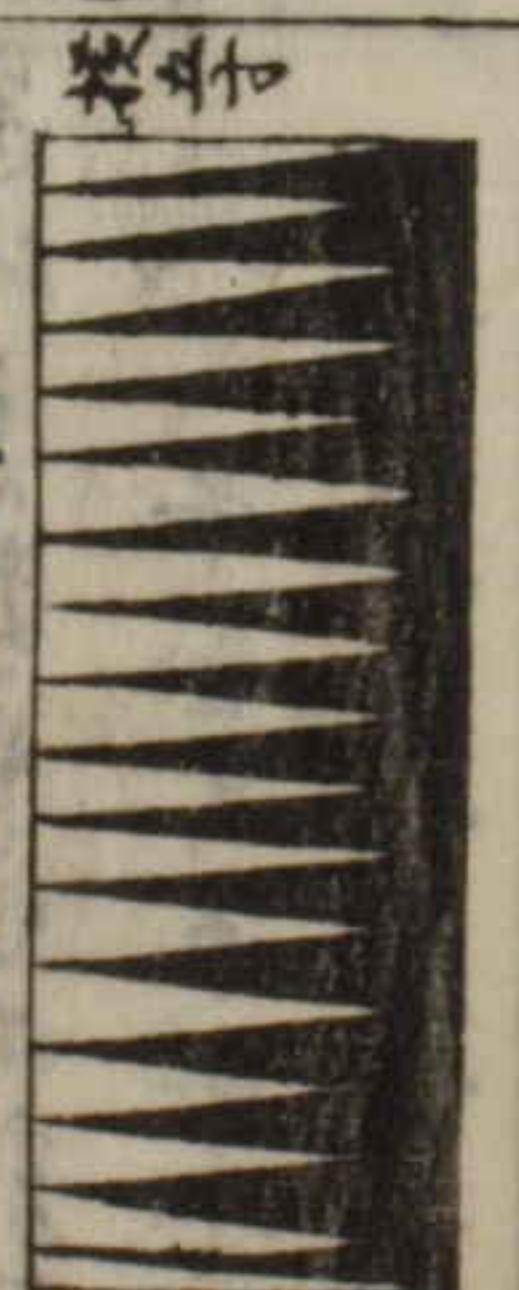
叔平歩も定法七九。五と各廻法ニ一六二の根源へ往き天の平歩も定法七拾九も令立て廻尺三尺をすたゞ武やくね定法と用るかうじえ圖アミ



其圖哉  
次承くニ  
弱股弦を  
アマ考一  
よき



アミ廻法も一倍くの角小  
め竹く紙十三万千。七十式  
角もく裏御小も難ひこ  
やづの不そせばくにを角の  
面人絞ニ承ニ九六八四ニ九八。  
八四ニ三六六六をもを角  
絞と來得ニ人ますやか一  
立九余め代も小不そと加  
べて二一にきうとみ廻人ト  
半廻小半徑と相因セ七八五也



其圖  
七拾九步。六尺

廻まく寸分そり

かげとか小定法とみを又別法集  
にて無少の小割てもお絞るに至り  
此公もを、圖小て如一十九小より  
絞矢弦も御セとよりて細小吟味と  
しけとへ切合小もが相違りて嘗御  
考へて傳く

往き人武すの平歩と方年小要方と  
そと

らすと少く平をと京  
度定法も一二八三七ぢう  
そく七八ちみどりてあ美  
開年法小除得八す公う二  
二八七ととつとキ往きとと  
除て知也

平をと方小削の定法へあ

庵と迦小てう

往矢弦小にと用ひまく平  
弓の往きとと泊股強き  
弦と元往きとと泊股とれ  
少くし経はす泊股とれ  
て求泊もに六すと泊股を  
歎切らん弦せらうされど  
彼往きと自因の内泊へ八すの

法と往きとと自因の平をと方小削十倍九  
あ。立而と開年法を除てそれへ八  
す八分八をハモの方平と水をふてそく  
て経と割ひをとくます八分つと跡が小  
定法とくわるを小て割の邊と知一  
又と平をと方平小削の時と平をと  
ると一セ一二下と刻てと知もあ寄とく

自因と六すと自因と化る  
ま人のま中少くハす自因  
之あと門へ六す自因と  
四方平  
依之を  
用ひ圖

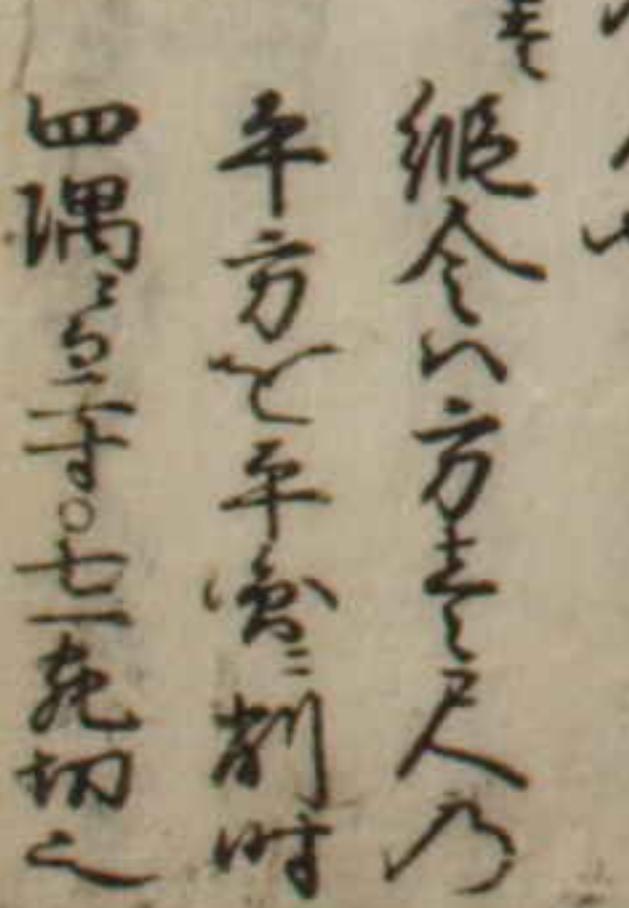
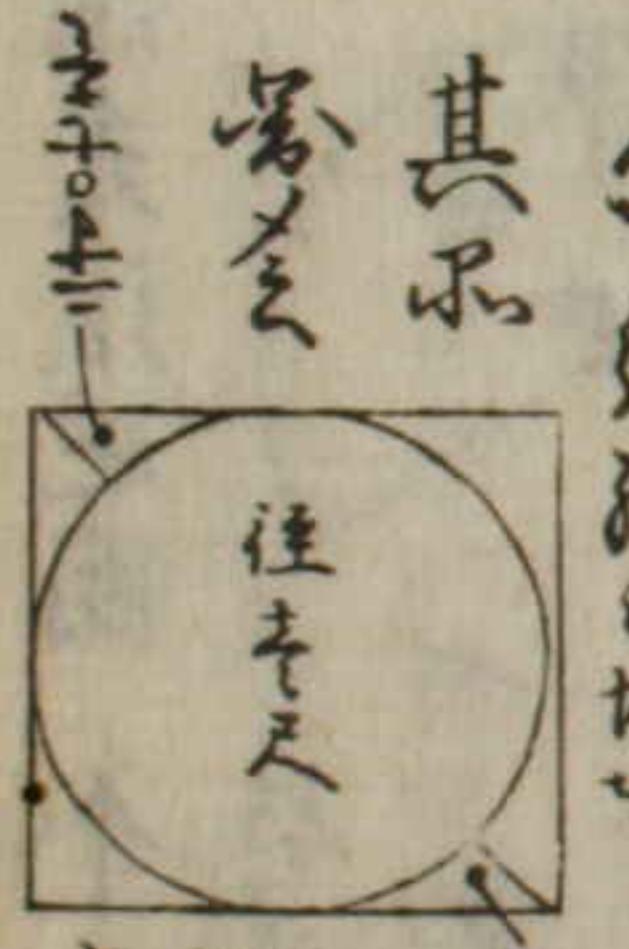
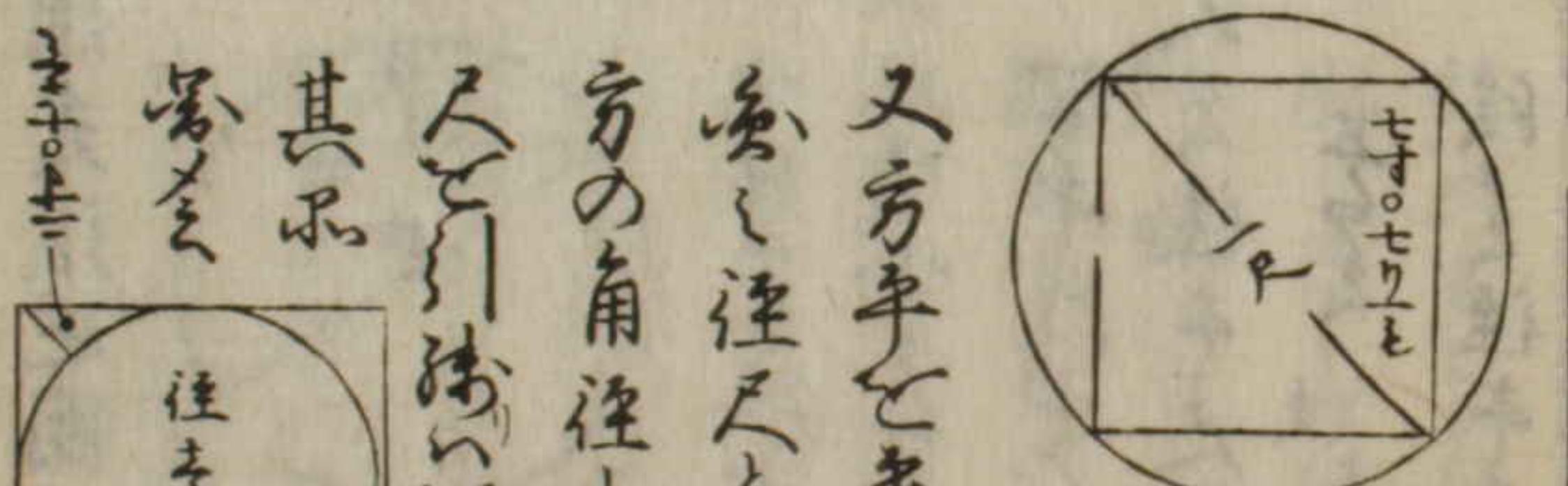


土	四	四	四	四
九	四	四	四	四
八	四	四	四	四
七	四	四	四	四
六	四	四	四	四

平をと一尺  
之形

夫	夫	夫	夫
子	子	子	子
子	子	子	子
子	子	子	子
子	子	子	子

平をと一尺  
之形



代廻之方教

往内夫減  
余充す周界

代廻之方教

往内夫減  
余充す周界

疏文弦のを法小とある  
字疏文人半八が一りと自因ニ  
百五十あより内達キ人の  
自因百半減半爲百五十あ  
ひ是を半往立すと自因ニ  
十五半と云く除ヶ得キと  
と疏法小用ル也

往夫弦之圖 今平素の往夫と夫一す  
也弦と向

卷之三

卷六十一

九十九極矣

今改め書は七八五六四三二  
又之時へ疏法五八六九六五  
○五六七九ひまえすまう  
かうはまれへまかくいわゑ

もやれとてのまぐら  
不相たりふ細い太閼のす  
うちへうやくとくに木  
乃ゑれ生れ入るやち奈ふ

まことに柳の葉模  
ゑぢひへけのふよみよ  
ゆきりも宵一木あら  
ひ合ておほれい彼生は  
用て人相遠きもともちう  
別とすがえ主の疏はと

又云夫子す弦六すと往々言  
孟子 住人

はまほたすと無合すあらねたあらね  
のふ又夫そす小をとくわゆと金をんこ  
をと三拾六あと刻九すと麻生小夫そ

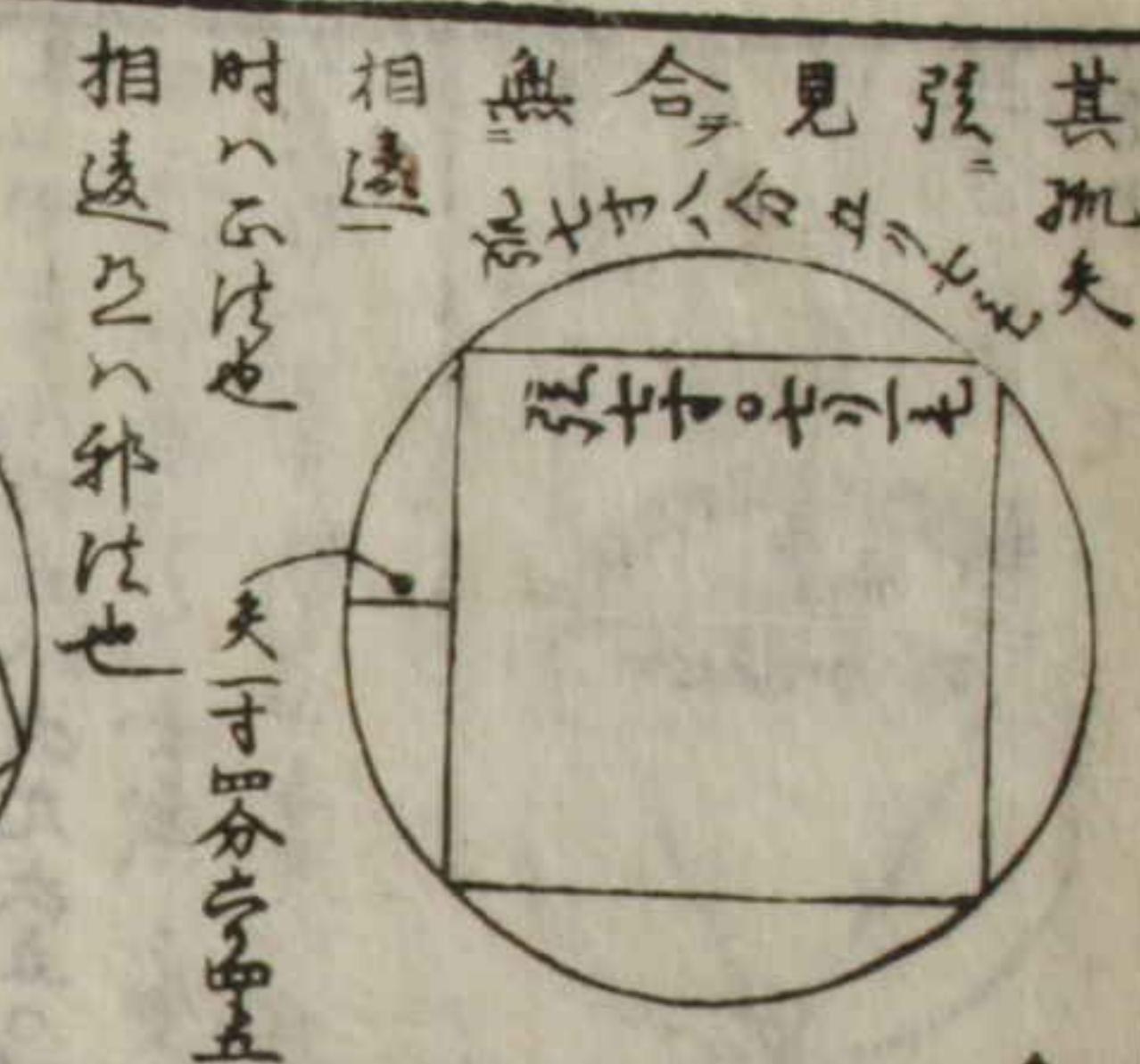


## 疏矢強之家

今委取て夫す強へすと疏

疏夫 と同

疏六十四分へ

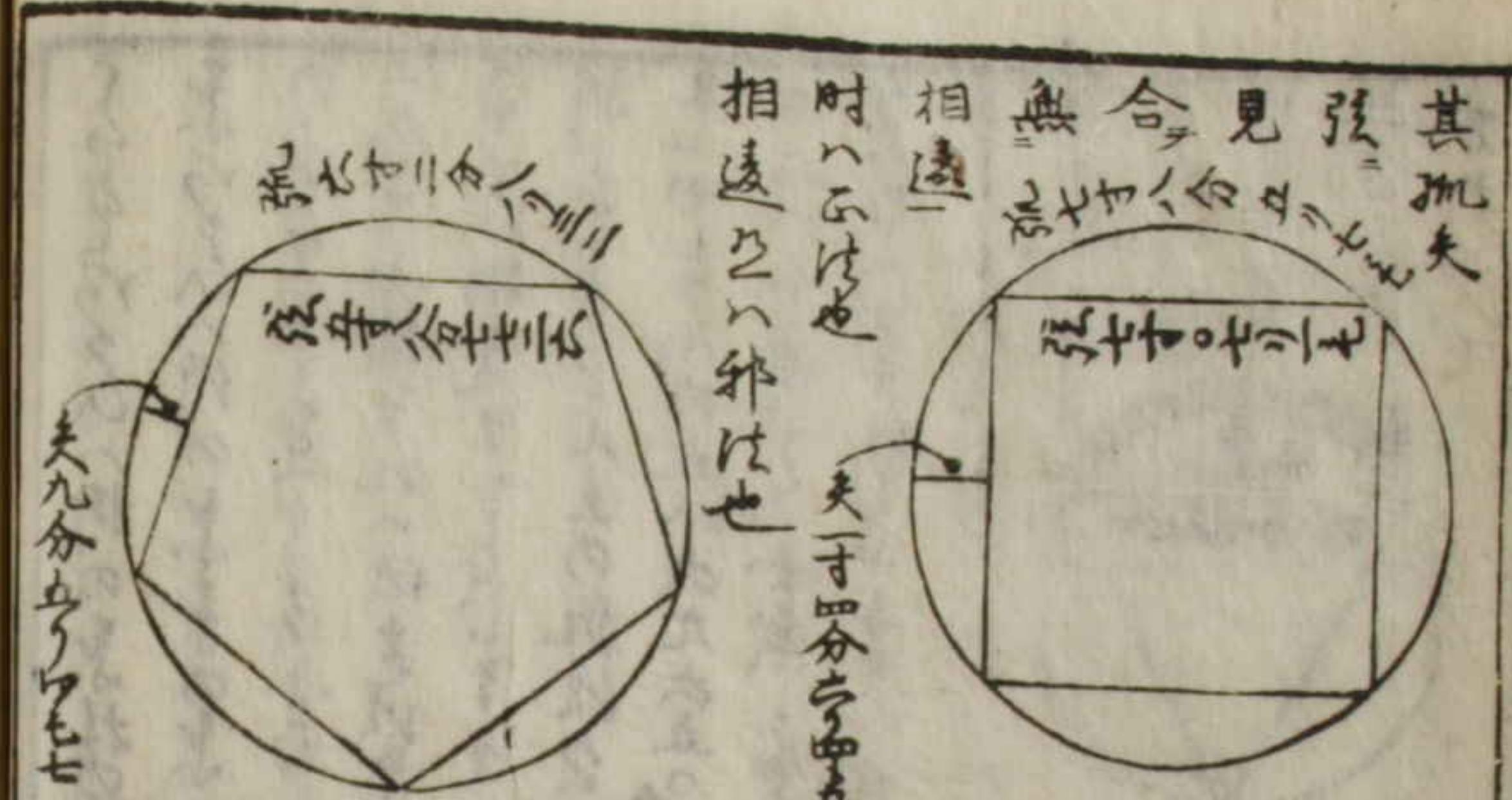
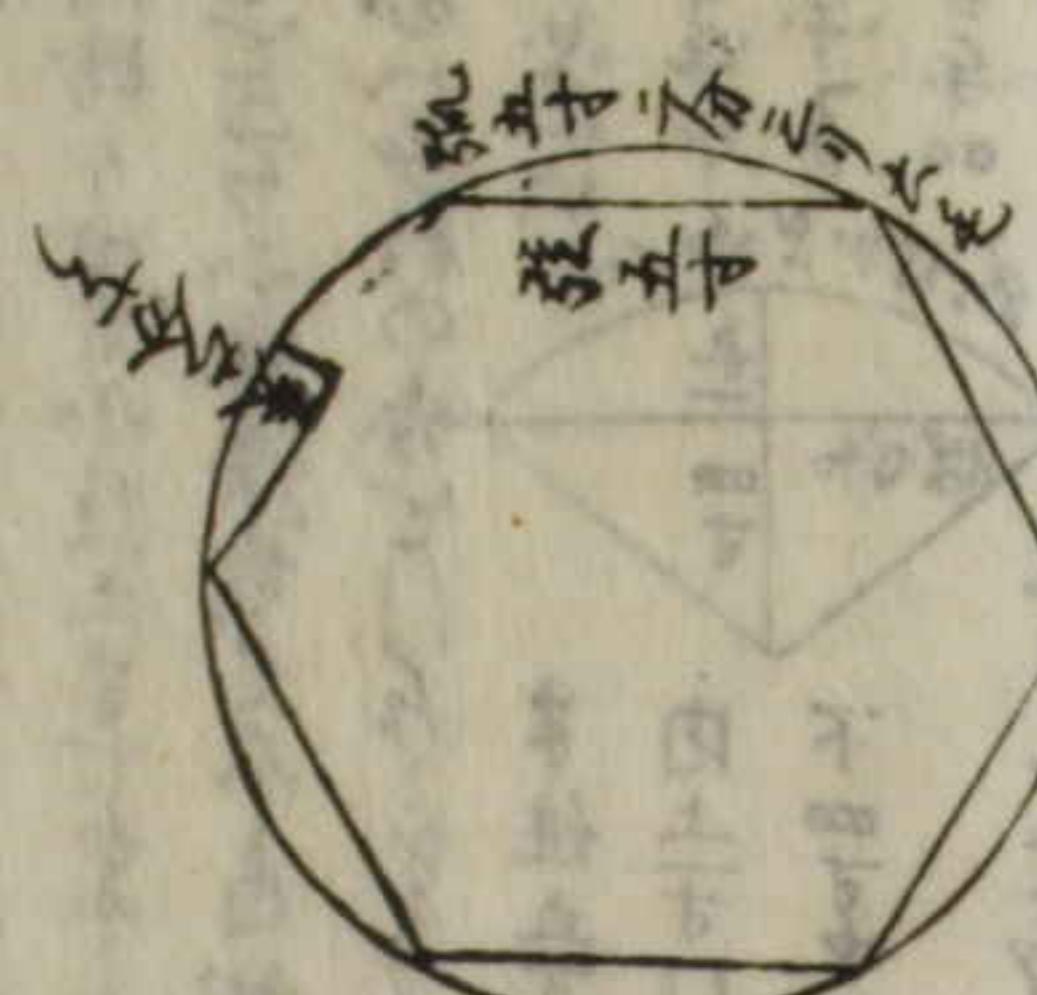
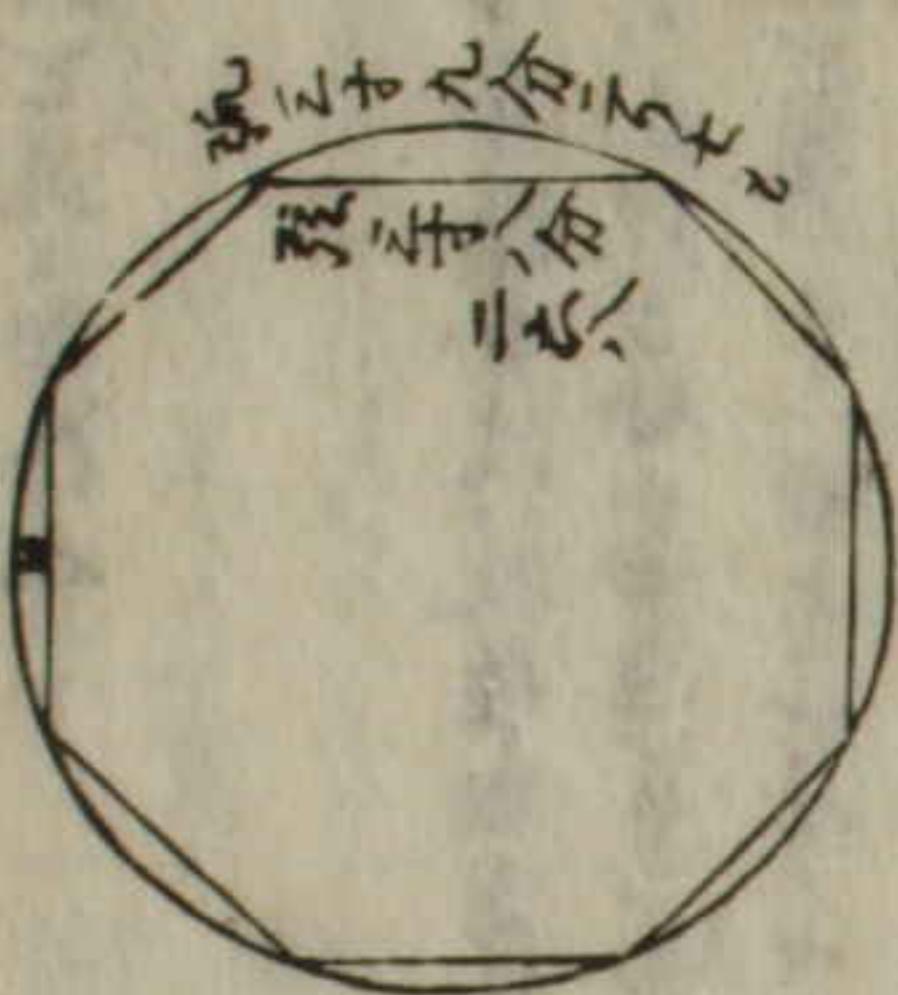


法を強六十四合すち二拾六あへり  
引ええをす無合をちと參すには  
六十四六あく合を成らて三拾六あに  
すと四拾八かと參すと圓半径にて除  
疏のすと約也

又疏六十四分へ夫すと強を言  
夫すと約也

又疏六十四分へを強へすと夫を言  
夫すと 約也

法を疏六十四分へをと無合四拾八  
引ええを強六十四合三拾六あ  
或是をと四拾八かと參すと圓半径にて除  
疏六十四分へを強へすと夫を言



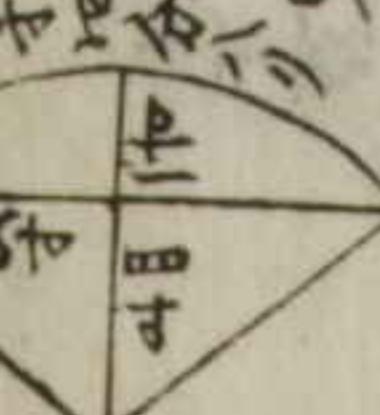
右も遡小て疏矢弦の術正  
射と試と云ふ也

平素候おほく候住相因と  
アラ小刻の心の候とよまと

弧と圓と二ぬそと略ノル  
別さう住木立す内夫一す

引拂り守小強六すとまこと  
モ二ナリ小除得あてらも候

其害あけ  
モ半の内一ハ  
モ半を半に上り  
モ半を下り  
モ半を下十二ち引



半住立き  
内上す引  
下四す也

右死而死生矢弦も式へたはシ規矩を仰  
ふべ只り増く術本もうか付人へも効  
まし候へ一射中成に候子久ニ也

平素闇闇あは

今平素候木夫木す強木す  
未然 ひあ教ひやくもと合

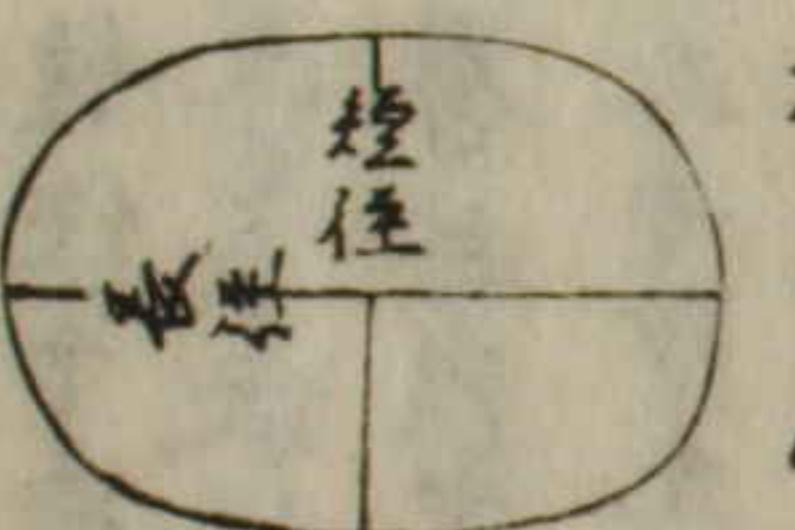
そも ひち式分

法毛住大強も術小て住と來疏矢弦も  
術も孤と求住キ人疏六すウタハシト加  
板孤小住と無定はゆて別すも拾六  
ち成もと張別又住木立す内夫一す

引拂てやす小強六すと通せり別すも  
拾六ちと承そとらく拾六ち承分も自  
引拂ても承分そとらく承分も自承  
ト知

行參るのみ術取く候之候毛毛也  
被勵磨也

今長住成人立す短住二  
人も平卯引き共に相  
應してすあ武百二十  
四あとひて候時毫ども  
長住一人八す十全  
短住を人立す  
術えぬく候百半四十七



術形卯平

今平卯引き長住共人  
立す人も短住を人立す  
ひあ教ど合

そもすあ百五拾八あ九分を

四も十系四忽文爾

經住自因し四百歩と未メ  
得九三十六割小平卯取之者  
四百十六歩と求經住は先を  
用板以百十六歩とて彼九三  
六と除得三百二十歩とモヒ  
開平は小除と相應の經住  
を人立すと知也是も之長  
住二人又す小除してち之經  
住二尺とて除相應の長住  
を人立す十分又八寸と知也

又え長住よりかへんを  
長住と自因してゆのちね小  
因もと右卯取のちね小除  
開平は小除て長住と知る  
經住と求ひかの例門を知也

法より長住より經住と曰ふて字す  
經住を人立す三分と越え合九歩と  
六尺と除割又人立す三分と  
合步は七九。人立す百拾九歩と  
九步四七系に忽ス微と除二尺を合て  
也あ敷と知也

すあ百立拾八歩九分又八寸も十步四尺又微  
り是と平卯取メ經住を人立す三分  
長住と言ふと人立する

法よりすあ百立拾八歩九分又八寸も十  
四忽ス微と本小並れ小て經一尺ニすミテ

又えらく平卯取小あ敷  
あ敷と見倍小て地など  
しれへ彼長住或人今すと自  
因して六百六十歩十五歩と自  
倍して千武百八十歩と不平  
に除と相應の長住二尺と  
え分う又三三九歩と知る  
ち之經住二人と未して右  
の長住二人立すと除を  
よ知也

經住よりかへんを知り經住  
と自因して倍之開平は除  
てかへんと長住と求ルハ  
あ敷と知也

盈合百立拾キア武分九尺と本と太  
加板又百立拾キア武分九尺と本は先。  
又え盈百拾九歩と九尺と十步四尺  
人微と本とを角引算て百九拾歩  
。六歩立度と經住と人立す分も  
割長住を人立す分と知也

入すあ百立拾八歩九分又八寸も十步四  
人微と本と平卯取小化と本と長住經  
住二尺八寸又八寸又八寸と  
長住を人立す分

そも 經住を人立す分

平書小お取百五十八分九  
からうゆもすゑは忽ふ微と  
左守武もと行うて平邦  
の本經と古術く略はざく  
みぞ教と書法十九。又ニ除  
得二日。そち。ひうてと京  
七忽余一列ニ又見立す二分  
者は十九。又ニ除得にす。而  
を八毛もとどみ草紙算年  
は小除得。經往きとく即すニ  
金也

平邦取之長往きとくす  
經往きとくす二分りは廻と  
向 立す五す二分九リニ六  
術曰そ人ニす二分ニ廻法  
三十六ニと業得三尺八寸八分  
九リニと六系ノ列長往角セ  
經往減一よ余ニす或トと  
そを倍テ六すつをそとそと  
小加一伏小四人立す三九リ下  
六系ハ廻人ナリ  
平邦取之廻人立す或ト  
九リニモ六系ハ經往きとく  
す二分也長往と名  
立す長往そ人立す券  
術曰そ人立す二分ニ廻法

一二の式拾ちリ二七の拾ひも二二の  
六分ノ二九のを分ハヤリ二の式も  
了り列ニ又次の商式す小草紙三す式  
分セ九九小より二二の六ちリ二ニま  
四分ノ列て六ちナ分ラを式モ七系セ  
忽ふ微寔少と三と商小二分トニ法  
初次とく商を人立す二分トニ立す  
と義見小書法十九。立すノウモ二十九  
式分。九毛そ人立す忽ふ微見小ニ商  
二分ト九九小より二二の三すリ

三一六ニセ業得ニ人八す八分  
九リニミ六余をとるも長経  
より減す余六す四余をと  
れ本ノセ二才八分を小短  
徑とくと伏小人五す余九  
平卵形之四人五す余九  
至テモ六余を長経を除す  
余也短徑とる

そも短徑を人す各  
術曰四人角長徑を倍三尺  
を半減底余を人写すが  
九余底も六余と差はきを  
六二小除短徑を人減すを  
とる也

左半法ハニ一六ナシ内ニ減  
す余と用ひ也  
四人と長徑を差さく  
長徑と同トシト四人の  
内元倍六す四分と減止  
金と余四はニ一六ニに  
除短徑一天ニ才三分とる也

今す坪格武万六千百四十  
坪是と立方ニワニ引  
小人中ハ方人一倍中ハ  
大ハ方一倍ノ吉と教どる  
立人中ニ尺四す  
大四人八す

術曰一と再自因してふる  
術曰一と再自因してふる  
九リニミ六余をとるも長経  
より減す余六す四余をと  
れ本ノセ二才八分を小短  
徑とくと伏小人五す余九  
平卵形之四人五す余九  
至テモ六余を長経を除す  
余也短徑とる

三九の式も十かリ 二二の六を以  
三九の式も十かリ 一三の七を以  
三五の式も忽々微引 列々又三の商  
六分小常般ニ才八分を九じて  
二二の九あり 二三の六を引拂  
商も平卵形も短徑を是小常般と  
之と長徑と如

右平卵之半は既器切分  
れられ合半角と餘を以  
短徑自因、其法を業ル也  
レキ教百拾九才九セセセ  
左半法ハニ一六ナシ内ニ減  
す余と用ひ也  
四人と長徑を差さく  
長徑と同トシト四人の  
内元倍六す四分と減止  
金と余四はニ一六ニに  
除短徑一天ニ才三分とる也

二口合百五拾八才九分余、定も七余に忽々微  
今平卵形も長徑を人五す五分經往一人  
二才三分立は内一りと入ナ付一面行  
九才八分九リニも余  
法ノ短徑横等々入  
外延接ひも教先も三分也

そも 各



今立方立方を尺ニす



立 方 之 方

法ノ立方人と底面等合坪教と如也

ニと再自因して八千坪四

自因一と六万に千坪ニ答

七万三千坪とるはゆく坪

教と除得一千七百二十八坪

乃定之用立法と除き少

方一尺ニすとか

今般口人ニすハ分換式人

五す厚立分の板りをも

木くぞ不捨積ニあと造り

時口四方より除サへたす

長くーと名入教どる

そらムロ一人ニす厚方介規

△ 你一尺ハす外規

佛百板の継接相ふとて

又厚と余得五百二十五坪

板石減倍一とすと再自

因を坪を内減リ又厚倍

ます再因一ゆくえ六すと來

一六坪をとら内減一と余

五百二十八坪と厚倍をす小

除得五百二十八ちアをとる

一く得一百七十六ちアをとる

之別二のえ六す倍一と

き尺或すと二ゆくとすと

是小厚之倍一とすと餘小

字と内常継用平法よ除

川箱の口や方の内規と加

是小六すくまくとく七すと

除けりか知ひ者をす坪也

自因一と六万に千坪ニ答

七万三千坪とるはゆく坪

教と除得一千七百二十八坪

乃定之用立法と除き少

方一尺ニすとか

今般口人ニすハ分換式人立す厚

立分の板りをもく口方六面小本をと

不捨積ニとく一尺とく外のうじねと合

そらムロ一人ニす厚方介規

△ 你一尺ハす外規

佛百板の継接相ふとて

又厚と余得五百二十五坪

板石減倍一とすと再自

因を坪を内減リ又厚倍

ます再因一ゆくえ六すと來

一六坪をとら内減一と余

五百二十八坪と厚倍をす小

除得五百二十八ちアをとる

一く得一百七十六ちアをとる

之別二のえ六す倍一と

き尺或すと二ゆくとすと

是小厚之倍一とすと餘小

字と内常継用平法よ除

川箱の口や方の内規と加

是小六すくまくとく七すと

除けりか知ひ者をす坪也

自因一と六万に千坪ニ答

七万三千坪とるはゆく坪

教と除得一千七百二十八坪

乃定之用立法と除き少

方一尺ニすとか

今般口人ニすハ分換式人立す厚

立分の板りをもく口方六面小本をと

不捨積ニとく一尺とく外のうじねと合

そらムロ一人ニす厚方介規

△ 你一尺ハす外規

佛百板の継接相ふとて

又厚と余得五百二十五坪

板石減倍一とすと再自

因を坪を内減リ又厚倍

ます再因一ゆくえ六すと來

一六坪をとら内減一と余

五百二十八坪と厚倍をす小

除得五百二十八ちアをとる

一く得一百七十六ちアをとる

之別二のえ六す倍一と

き尺或すと二ゆくとすと

是小厚之倍一とすと餘小

字と内常継用平法よ除

川箱の口や方の内規と加

是小六すくまくとく七すと

除けりか知ひ者をす坪也

自因一と六万に千坪ニ答

七万三千坪とるはゆく坪

教と除得一千七百二十八坪

乃定之用立法と除き少

方一尺ニすとか

今般口人ニすハ分換式人立す厚

立分の板りをもく口方六面小本をと

不捨積ニとく一尺とく外のうじねと合

そらムロ一人ニす厚方介規

△ 你一尺ハす外規

佛百板の継接相ふとて

又厚と余得五百二十五坪

板石減倍一とすと再自

因を坪を内減リ又厚倍

ます再因一ゆくえ六すと來

一六坪をとら内減一と余

五百二十八坪と厚倍をす小

除得五百二十八ちアをとる

一く得一百七十六ちアをとる

之別二のえ六す倍一と

き尺或すと二ゆくとすと

是小厚之倍一とすと餘小

字と内常継用平法よ除

川箱の口や方の内規と加

是小六すくまくとく七すと

除けりか知ひ者をす坪也

自因一と六万に千坪ニ答

七万三千坪とるはゆく坪

教と除得一千七百二十八坪

乃定之用立法と除き少

方一尺ニすとか

今般口人ニすハ分換式人立す厚

立分の板りをもく口方六面小本をと

不捨積ニとく一尺とく外のうじねと合

そらムロ一人ニす厚方介規

△ 你一尺ハす外規

佛百板の継接相ふとて

又厚と余得五百二十五坪

板石減倍一とすと再自

因を坪を内減リ又厚倍

ます再因一ゆくえ六すと來

一六坪をとら内減一と余

五百二十八坪と厚倍をす小

除得五百二十八ちアをとる

一く得一百七十六ちアをとる

之別二のえ六す倍一と

き尺或すと二ゆくとすと

是小厚之倍一とすと餘小

字と内常継用平法よ除

川箱の口や方の内規と加

是小六すくまくとく七すと

除けりか知ひ者をす坪也

自因一と六万に千坪ニ答

七万三千坪とるはゆく坪

教と除得一千七百二十八坪

乃定之用立法と除き少

方一尺ニすとか

今般口人ニすハ分換式人立す厚

立分の板りをもく口方六面小本をと

不捨積ニとく一尺とく外のうじねと合

そらムロ一人ニす厚方介規

△ 你一尺ハす外規

佛百板の継接相ふとて

又厚と余得五百二十五坪

板石減倍一とすと再自

因を坪を内減リ又厚倍

ます再因一ゆくえ六すと來

一六坪をとら内減一と余

五百二十八坪と厚倍をす小

除得五百二十八ちアをとる

一く得一百七十六ちアをとる

之別二のえ六す倍一と

き尺或すと二ゆくとすと

是小厚之倍一とすと餘小

字と内常継用平法よ除

川箱の口や方の内規と加

是小六すくまくとく七すと

除けりか知ひ者をす坪也

自因一と六万に千坪ニ答

七万三千坪とるはゆく坪

教と除得一千七百二十八坪

乃定之用立法と除き少

方一尺ニすとか

今般口人ニすハ分換式人立す厚

立分の板りをもく口方六面小本をと

不捨積ニとく一尺とく外のうじねと合

そらムロ一人ニす厚方介規

△ 你一尺ハす外規

佛百板の継接相ふとて

又厚と余得五百二十五坪

板石減倍一とすと再自

因を坪を内減リ又厚倍

ます再因一ゆくえ六すと來

一六坪をとら内減一と余

五百二十八坪と厚倍をす小

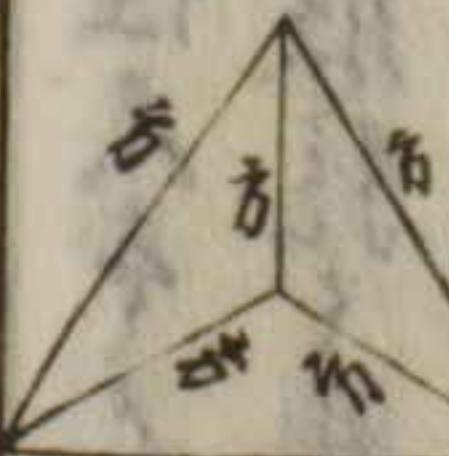
除得五百二

本書にゆき継ぎます七  
から横式とす厚み分  
之板かく箱と送り別法云  
板の坪数三百九十七坪之  
内厚みを再自因して倍之  
三百九十六坪をもつてあら  
ば小厚みを六とす  
得二等一等の坪余の坪  
と除く得三百三十式ち式が  
五百式半用半は小除と  
得二等一等をすへ分一等の内  
之平均之尺をもつて小内  
より又減一内規とす  
多加と少却を人式す

す坪三百九拾七坪とする板厚を  
を倍小してそすと除そと二度無合  
す坪を坪と除そとし坪と内より  
引減て三百九拾六坪と除そとすと  
是減六面と六小より百三拾式もと除  
と寛小並厚みとを倍小して常限小  
用用半は小除内のうの尺を除そ小を  
倍加一等のを

今蕎麦取

蕎麦取  
す坪或百三坪六〇二四

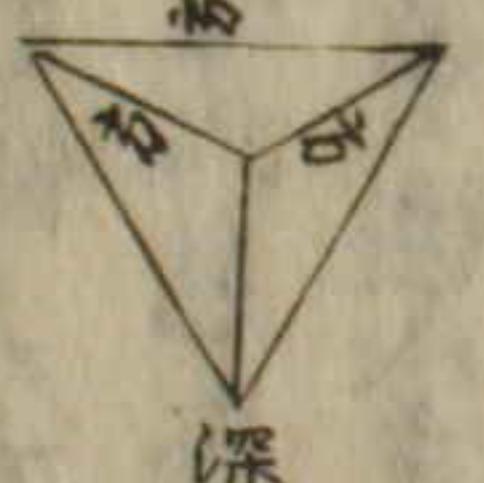


蕎麥取定法別考小  
去一七八五くは條の方  
七す。七一之立方もと  
く角往そと規そと  
角くと切底と切写  
かうせたく圖

蕎  
麥

法三三方そそ人式すと二度無合定法  
一一七八三と並て坪数と知也  
又云坪数にて蕎麥取小化少く坪数と  
を定法一一七八三小割用立小除  
ちく一一七八三の根源考にて云

三方推  
方そそ人のそそと云



深三方推小えと云

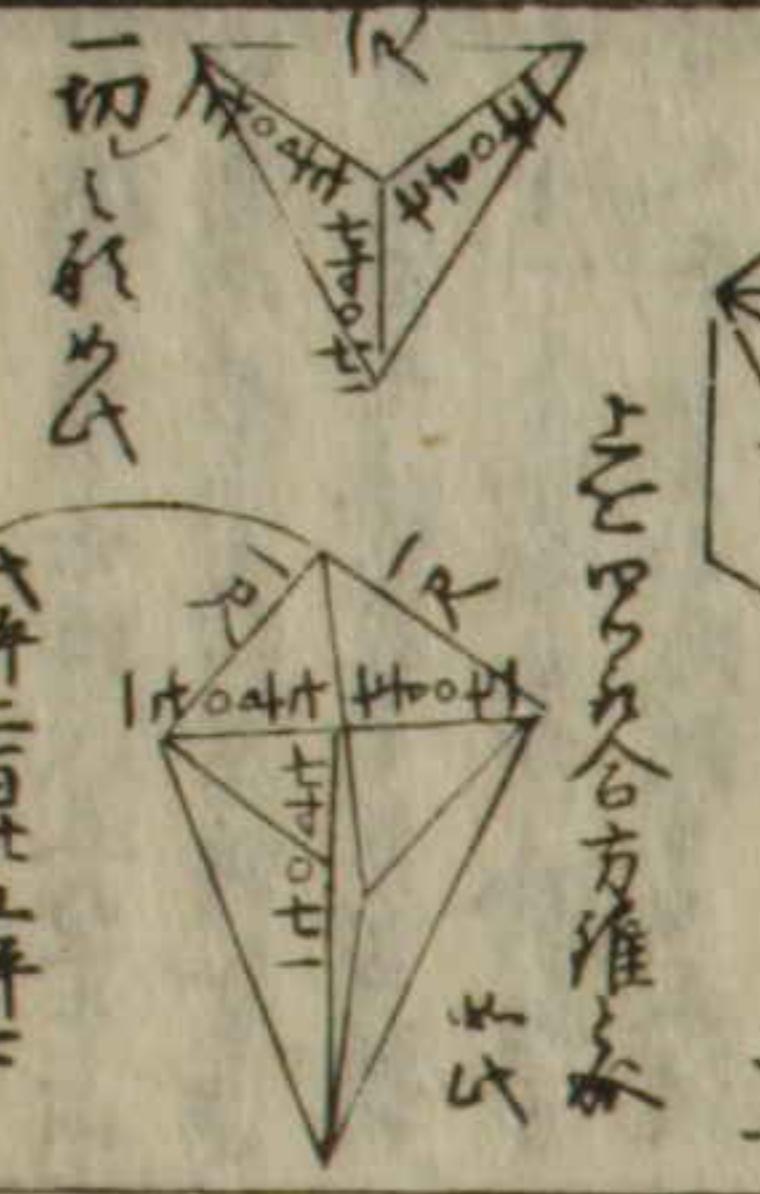
よそそ合方推

立坪



六坪数

立坪



一切のを

坪二百五立坪

左立方角を方維の呼と  
引方百十七坪八立尺そへ  
中央の考査於の坪くそへ  
をかをて拾フ一丈の細  
七。七十九本手て拾たる  
す。手書小化たる正法  
それももとての多め小依て  
かれ遠り也

今考査於と切花と坪数  
和而四千二百七十六坪又分  
六色二系の忽とそを曰く  
行て各人教と

是を名手とす凡

術曰坪数と定法二四七四  
八三と八九と減と得千七百三十

八坪と半て地開半は小除積  
キス武す。是を名手と  
左立法は切花のは二三立尺と  
考査於は一七八三と并合  
教也

今切花と考査於と坪数  
四百九十坪。七分立尺も  
立切花も考査於も二す程  
一名方入る

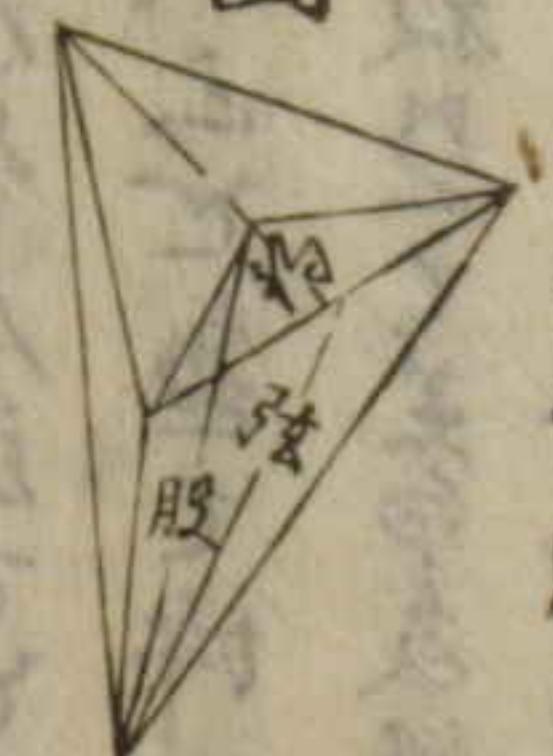
至重、考査於方まへ

切花方をと云す

術曰五八す再自因得八坪、  
是小切花の法二三五七と乗  
十八坪八分立尺六と。是を  
と和坪高より減一丈余

たゞハ方手のとくことと三方淮  
えりもあ教四拾ニあ三分立尺と  
ツ小刻ハ拾四も四分立尺とモトギ  
そとを倍テ方手尺小より式すハ  
シハ延六毛六系と名是と約もん板  
三方の中徑ハすた分立尺と弦とを  
約股弦と股と求ル術と半八す毛六  
リニモ七系八忽と盛是お三方淮源さ也

其圖

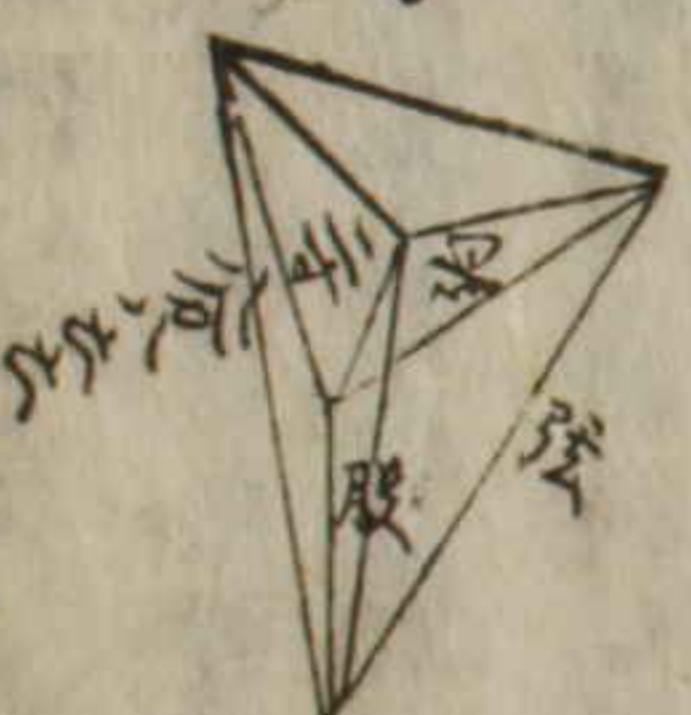


如は今うる股

名源さ也

又別は三三立のとくにそと云す八分八延  
六毛六系と求ル是と三方の中徑ハす  
六分立尺の内より引方てふすす毛六  
三毛七系と名是と約股弦と  
取くそ方手尺と弦と約股弦と  
股と求ル術と半股ハすた分立尺  
毛七系八忽と盛是お三方淮源さ也

其圖

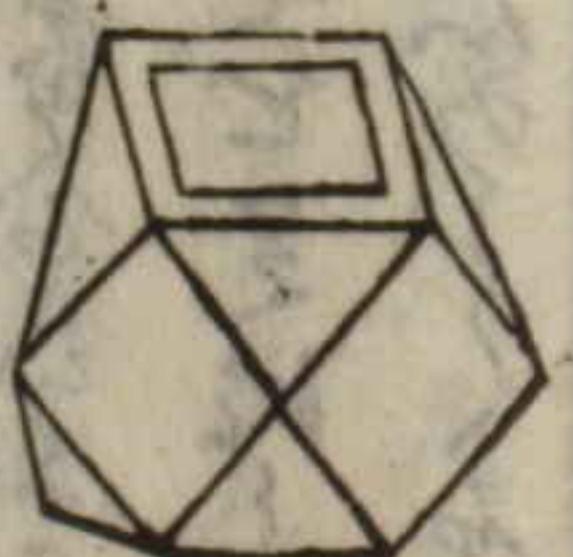


股者  
源也  
如也

四千百七十一坪八分七厘三毫  
芝法<sup>ニ</sup>ニセ<sup>ニ</sup>ハニ除<sup>ニ</sup>得  
千六百八十九坪七分三毫八  
二七<sup>ヲ</sup>み定之<sup>ヲ</sup>列え式す  
自圓<sup>ノ</sup>と得<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>是に三周  
十二歩<sup>ト</sup>盛<sup>ル</sup>小ニニ五十七步  
三ニ<sup>ニ</sup>セ<sup>ニ</sup>八<sup>ニ</sup>除<sup>ニ</sup>得<sup>ニ</sup>十一  
歩<sup>ト</sup>二八六六三七八七是<sup>ヲ</sup>  
乃<sup>ニ</sup>一歩<sup>ト</sup>入割小え乃<sup>ニ</sup>  
ニ<sup>ニ</sup>す<sup>ニ</sup>三周<sup>ト</sup>六<sup>ト</sup>是<sup>ヲ</sup>小ニニ  
五七<sup>ト</sup>乗<sup>ル</sup>ニセ<sup>ニ</sup>七<sup>ヲ</sup>ハニ除<sup>ニ</sup>得  
得<sup>ニ</sup>五<sup>ト</sup>分<sup>ト</sup>四<sup>ト</sup>モ三ニ八八  
七<sup>ヲ</sup>是<sup>ヲ</sup>み<sup>リ</sup>入割<sup>ト</sup>開半<sup>ト</sup>  
除<sup>ニ</sup>得<sup>ニ</sup>高<sup>ト</sup>一尺<sup>ヲ</sup>是<sup>ヲ</sup>別<sup>ト</sup>夢<sup>ト</sup>  
取<sup>リ</sup>方面也

を二にいづとのふ小えんえもとゆく  
日根ふえくやれ分ぬ成はよか一ノれ小  
世間の義者先をそき、これ自分のえんえ  
小えやまよあはとい、ひあふ甲  
壳ふちくれ変ふのせび能くむれと  
改めよべ、又麥取小箱をもと  
もおれとほりもとくもの方へ  
とて合之はの一七二ニとてけじか  
はの根源へ方き人のもとがよし半  
えあづれふヒニとて合之は

# 制 粉 切



今切花乃方一尺六寸

以待教旨

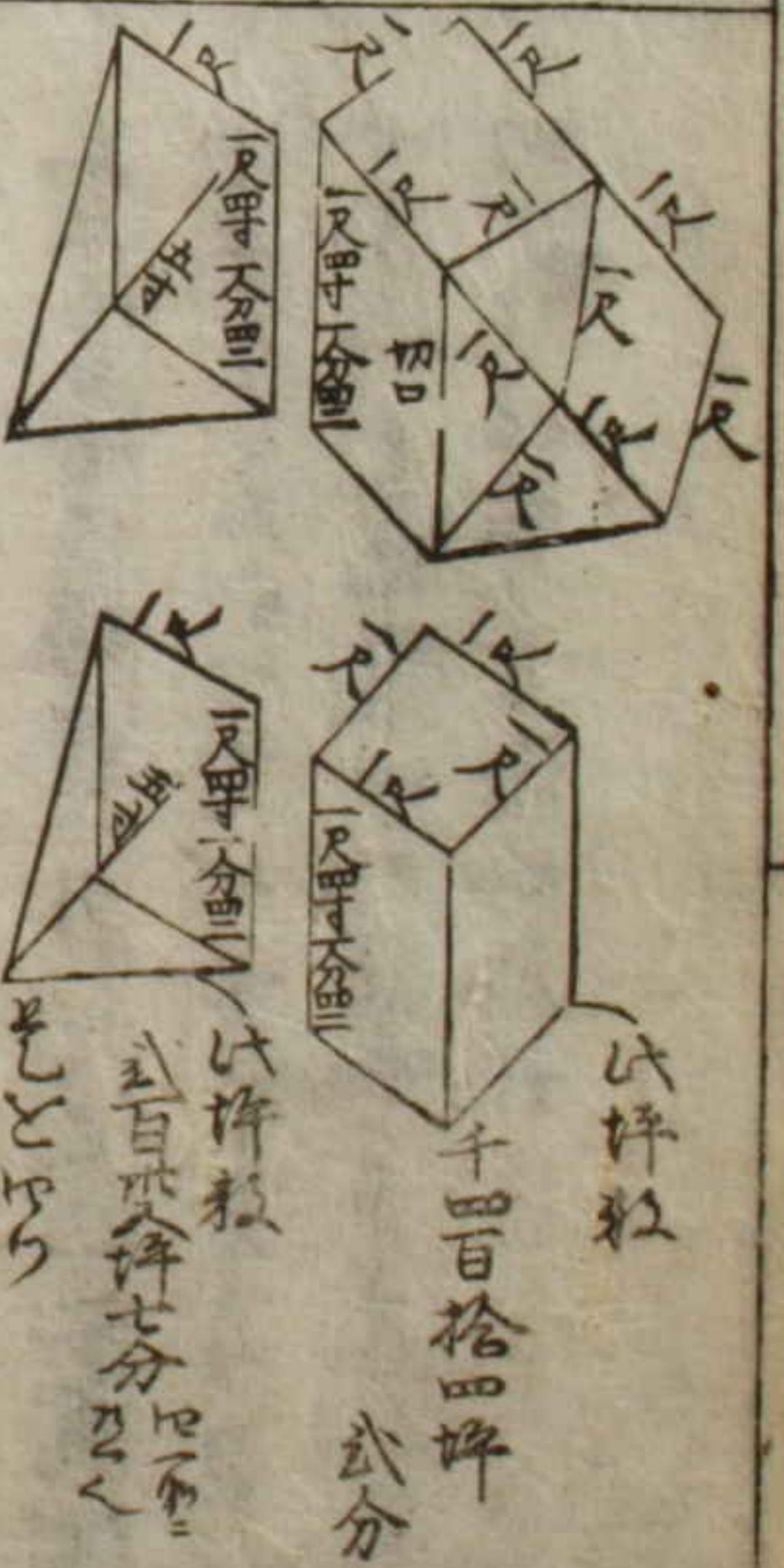
以待教旨

今切花乃方一尺八寸  
以许教之  
至  
四千九百三十五许九六  
法度方尺三尺四寸合之正二三五七每尺  
又云许教之切花之方求之得之是二  
三五七小之割之用立去之以金也

右ニミ五七の根源ハ方を人ハの切石ト  
切石トくえんハ中ハ方堅シキ立タり立タ  
里方小原幅准シラヒラカツシ方を人ハ木  
切石トくえんハあめた記

今切方と舊支給之和  
坪二十五百六十坪。六分  
一束。二束は恩典切の  
万引うち支給の方へ  
ニす度。一束と合  
計。 切充方一人  
も支方一人ニす  
御。自是ニスと再自固して  
八坪先不支給の方。は二十七  
八三と未満。得九分アリニモ六  
束に忽タ見て。坪。角  
減支。余ニあヌ百五十九坪  
六分アリ。支も六束。足と  
足は以ニセヒセヤハニラ。除得  
千。三十心坪。六分ハナ。一八

八五三八一み定之 別小  
元ニす自因得レモヂニ是示  
ニ固レテ十二ちをスルニ  
定法二七八三セキ未ニ言  
七八八ニラ除得ニ五分ナ一  
モニ三六ニニニラ是とわ考  
芻繼 例小又元ニすニ  
固レテ六す是トヨリト乃  
定法一一七八三セキ未ニレ  
七八三一除得ニ五分ナムレ  
六六八一〇六四九六ニラ是と  
み人芻繼ニ固主法小除ニ  
得商ニスラ是刈切乾乃  
方面ナリ



右方堅に併教ふ。百拾四坪或分。而  
の厚幅。雅々併九百四拾武坪。八分中  
丈合武。三百五拾七坪。乃之加二三五  
七。と定はと申る也。

左の如く字幅准と方限を小見之

今切丸と薦麦丸と併記  
并合四千百九十斤。七分  
テ六毛方入和して二尺三  
寸但切丸より薦麦丸小也  
各々數ど

卷之二

切み駄方を以て  
御目ゆ、坪数と並べて  
和尺をわざして得一尺を  
す。自家之り得一千三百三十  
キ坪。一尺小足は二十七八  
ニ余得三千二百九十三坪  
九分九厘八毫七三<sub>レ</sub>石也。坪  
内うち減之止余八百九十  
六坪。亦分テ。七ニ七毛を半

絵の内とあらわす人の角住を  
人守を分けてもとお方堅の堅  
人と原幅維の幅小もと大切執の  
き面の方堅の方人と原幅維の  
事とててもと方より淮ゆるの  
いたるに得也

均人を人をす小除得八十一

あみ二。大六。九。九。別小

二個二三九一七と平均の一人

そす小除得二分。三八六

又別小定法ニセヒハニヒ

三因して得七個ニセヒハニヒ

を二分。三五六と加之而代

得七個六二十九六是とぞ

八十をあ立ニ。大六。九。小

余又に因して得三千四百八

十七あ立分はスモニ六別

小又平均を人をすと之因

して三三三手是小定法二個

二三九一七と余得七及三す八分

九リモ六。自余之得五千四百

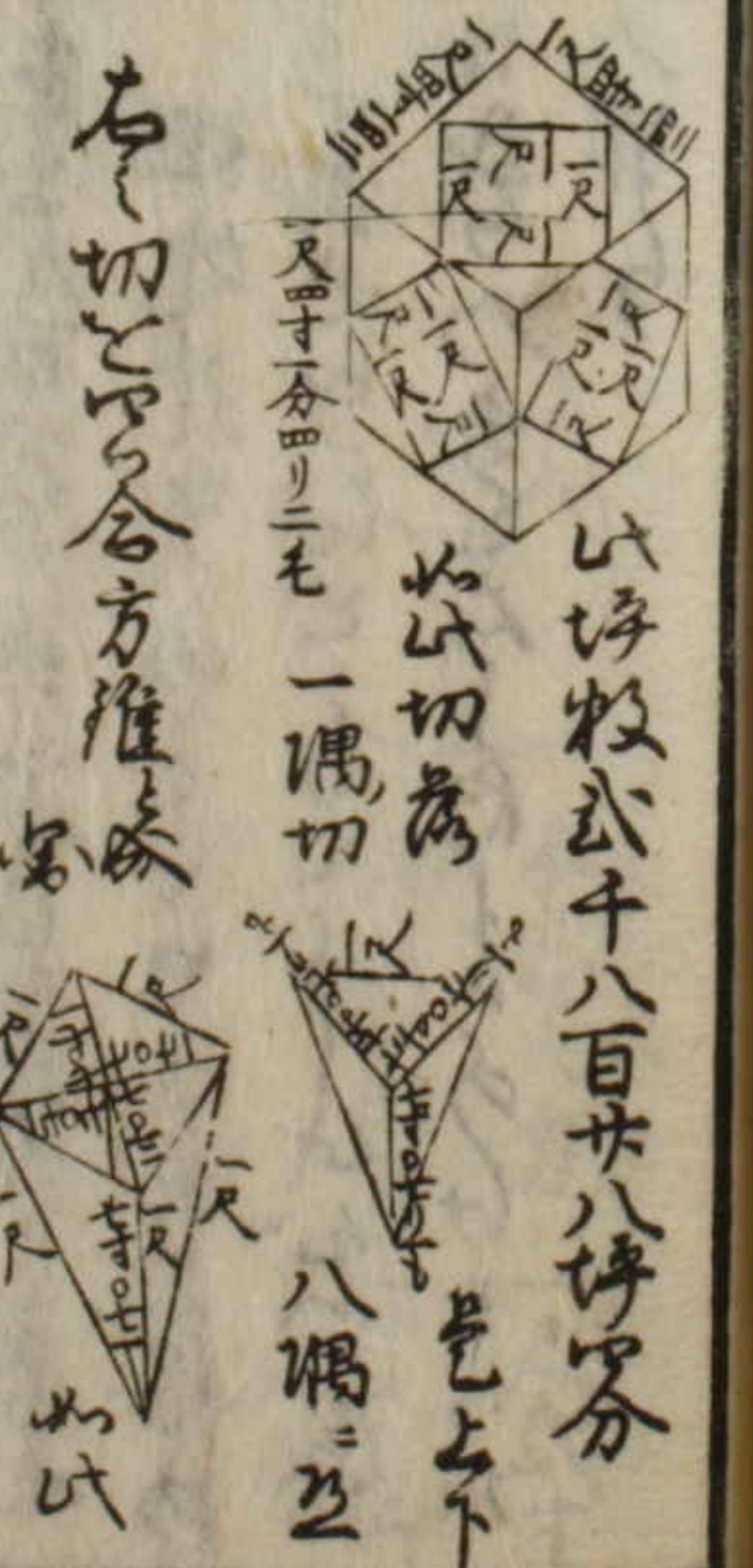
股立すと求先が重幅准の源也

右圖見之



如也

又切裁て定法別乃人を三方を人  
の角辺をそれへと人をすを分アシテ  
モノ代小より先づを人をすますやう  
式毛乃ロ方六面乃三方と解得比三  
方ミト下八面も偶と切ル。中妙切  
義と解す也。



六十件。一分一リナモハナ吉  
希合七千九百四十七あ立分  
うこも一立分之用平法  
小除と得商八人九十分に  
りハモ五ニ代内うちあそ  
七人。余八分九リニモ六一  
減之。余を人立す分ナ  
五九ニ立分を定法十五個ニ  
五九ニ立分を除得モす。是  
例えすオトモどちを人  
そすのゆう減す余を人  
若も差引方スカウ

△右ニセヒハニ者切ム  
二三五七と考る麦於乃  
一一七八三と希人ひね

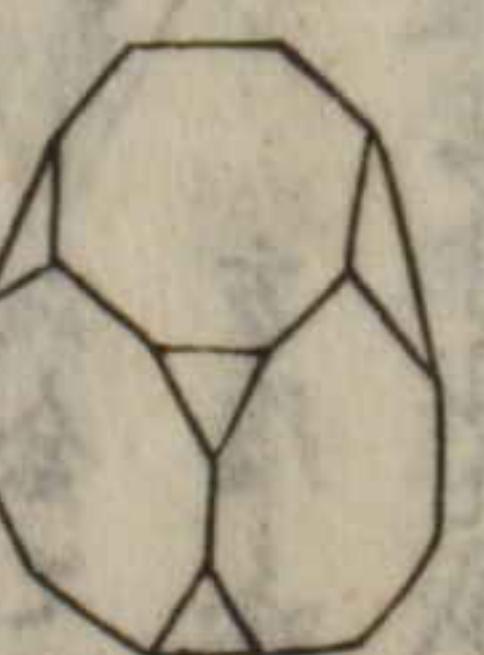
方准二件式百三十六件す。是計  
上口偶と切底也。代も八偶小ノノ方准  
或ツ立れ立分と解と考るメ四百七拾  
を解。分立分と解と考るメ三方ニ切分  
式毛八百六八件。分立分より門溝て  
式毛三百五十七件立分と定法と考る也

△二個二三九一七者切引  
ニ三五七と角若麦引  
一一七八三と城守金  
△十五個二五五九ニ者七個  
六二七九六と倍ね也

右ニ法いつとのふ小元三とも門根  
あや小より分めぢらはとかーー  
又云切糸小面を垂す付ち教と知  
小いき面と無合九口六口とぞけてち  
教と承すり山根源いそく乃切糸小方  
半から三方からわうじてこのち教成  
並合九百零六もア分れ氣を付と承定  
御施糸すのじくと庵すによ  
ムセロ六口とぞけてうへけ公ハ方半  
身うちをとくもとましのけをられ  
ちう

八角六面之切糸

八角  
切糸



キム方一尺或す  
坪教武万三千八百坪  
○八分

法至キ面ノ方尺と武度かけ合之  
法一二六と越坪教と知

又す坪武万三千五百坪。八分足モヒ  
八角切引小作うキ面ノ方尺と合

三五七  
走人取す

法三五七教と直足法とキニ六と割  
算足法と減すキ面ノ方尺と承すり  
を定法一二六の根源をたゞく方

八角六面之切糸并  
六角に面し切糸六二  
御塔神壹之也

か書小凡六切玉虎切也  
之母と求御者江吉波  
丹之其御曰

貴一人にす一分四二毛ニ  
波一人と余得二百四十  
一毛四分ニテ是小又疏き人  
一寸一分八毛と余得二千五百  
八十一毛。七八六法と走法  
六二小除得二百八十五坪  
列文疏一尺一寸一分八毛一  
人と余得二百十一毛と余得一



七  
序

八十五  
ザ九夕ノリ

二九八也

八十五坪九分九厘  
三三〇又三〇六二一  
二七八九八也



三二三一八四。九ニセラ五七  
玉ニ呼内より威之史奉  
呼救九百六十六坪。七三七一  
ニ五九。七二二七四ニセラ四六  
柳ノトと捨く九六九。七一  
切るも芝はまも也

吾之傳法以今味之而法者更  
再自固一之又二三六七固如

ひ御之根源へまきの五  
とを万枚小をもつてからん  
と一枚の寫とまもつてからん  
者考案の紙の空き  
やも又は之缺くゆ  
少しおの許とよき  
夏役と合て五百八十  
上件とがとせふとも  
かやてとくとおせ  
たりそてひ用ひぬは五九  
ニキセ九と申りすりもへ五  
用ひ人をす分きう六モセ  
再自用してみせまほ五  
三三六一除むればほんたくと  
もく玉紙の件と求小か

卷切語

一  
住  
往

今人切於此  
未可徑至人翠

法多許教之也。定法九九也。尔而制  
用之方小除之。併之。而知也。

雷門足山

卷之三

法苑珠林卷之七十一

廣之治平也。清心寡欲，方正廉潔，也。

さす解とも首半二解卷三



物事の多くは  
口に問  
切れて中へゆく

先入をもどるを許す教百拾七事  
うち先をもとめし合に百十卷を許  
す事也一卷とあく三尺八寸八分  
五厘也

。未分也。亦小生之。身也。

卷之三

支辨十七百十辨二二

相遠き之れ小玉歎五法矣  
疑たり

玉歎の法と法とを差し人  
へ玉歎の法と別付及之

仰手六坪教捨四坪六分八  
仰手六坪教捨四坪六分八

玉歎九九口根源考と云  
はす坪千百八十式坪之分  
也けふどや方と下と下と  
切為中お察切義小て今  
玉歎あり

貫走人式す

す坪八百八十坪二八

周ニ至せす九分四厘

す坪右門あく

す坪八百八十坪二八

周ニ至せす九分四厘

す坪右門あく

す坪八百八十坪二八

周ニ至せす九分四厘

す坪右門あく

貫走人式す

用ニ人七す九分四厘

史法と用とニ合せ合走法六ニ別

す坪八百八十坪二八

用ニ人七す九分四厘

史法と用とニ合せ合走法六ニ別

貫走人式す

用ニ人七す九分四厘

史法と用とニ合せ合走法六ニ別

す坪八百八十坪二八

用ニ人七す九分四厘

史法と用とニ合せ合走法六ニ別

貫走人式す

用ニ人七す九分四厘

史法と用とニ合せ合走法六ニ別

す坪八百八十坪二八

用ニ人七す九分四厘

史法と用とニ合せ合走法六ニ別

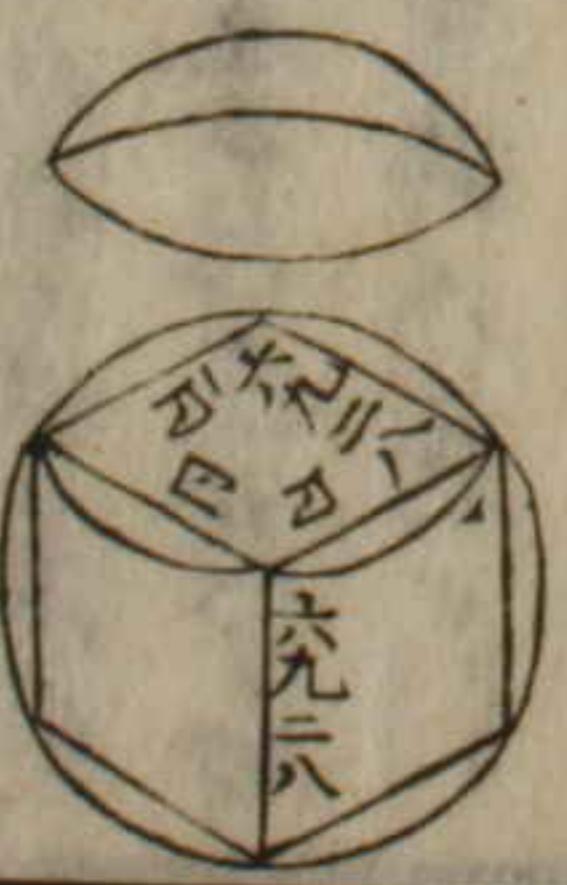
間ニ正法取付く先別定  
とつてかくすとまく御  
御名友小難取付かく  
友さんと細工に連にさ  
てきすつへんをさうする  
もうてかくじづくまき  
天入ふと假り其を自と  
まう付名くの坪小無て板  
ひ嶺の木板くわを自と  
引ひく合はくに正法不令  
くにねはしてあせ  
夫を人の玉小住とすれば  
をめい完乃坪とまとて相清  
坪板と名

木更津へ一ひ處玉と之法のとかひ  
武別立分を便立もの遠き是不元  
教きらうとて一二五キ五ノ分をどく  
てきえと別七十九分九うと分をと二  
度ひ合立百十坪と名む更津法立  
きどれう也此義あ口傳ひく

又周法八六二に更津玉の因立人  
きすら分ニとこだひ合是と要  
法立一やく別六ニノ分をと又周法も  
無る法を因人とニ度ひけ合一六二  
としきとく

玉小盾をと並附かとお教と求る御  
因人と無合四つ小刻也と傳ひ  
一个貴を人惑すへふり是と大不切爲  
三方小盾と既方天ら程小承と名

そと六寸九分或八分余



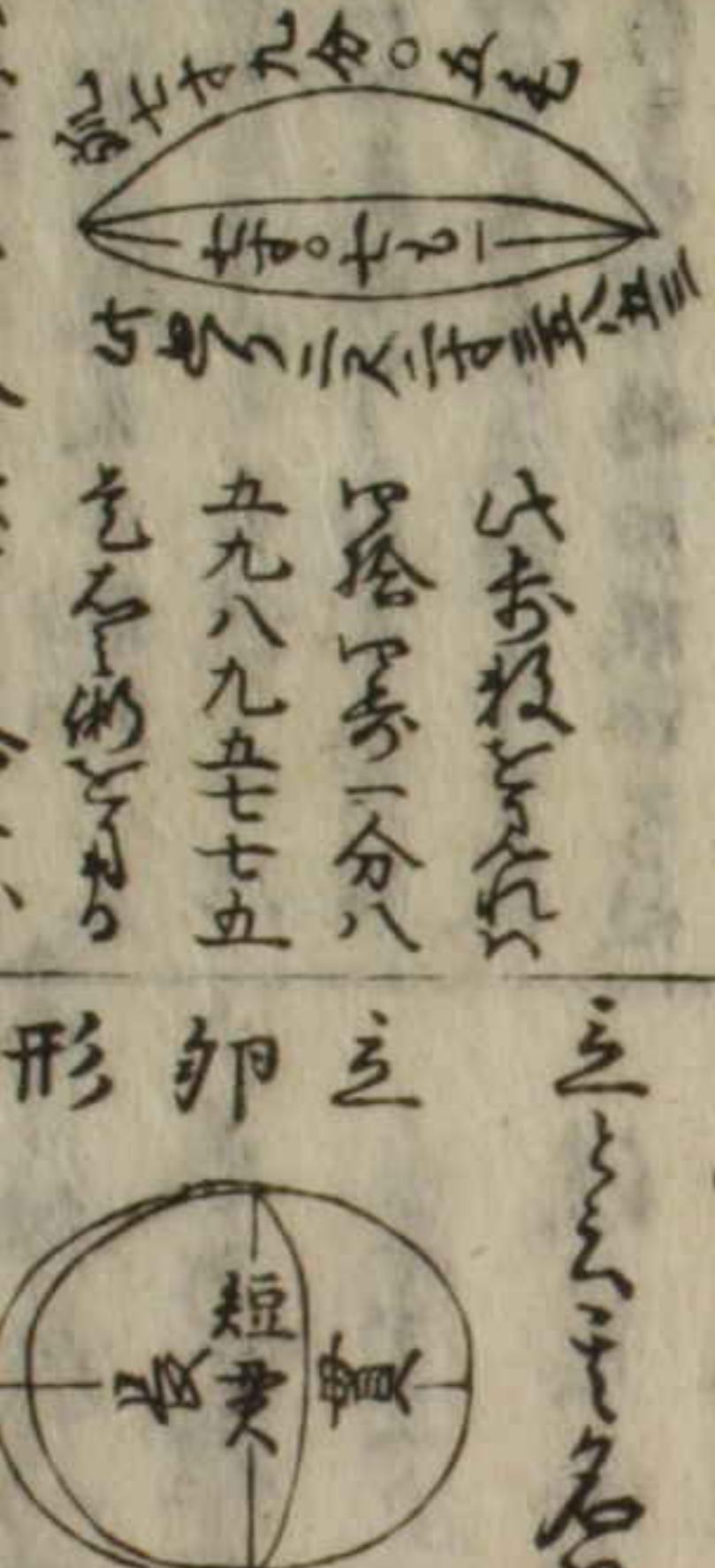
そと二百六拾八坪。八三  
御玉住六寸と貴一人も添  
一千と取て板ひ嶺と坪十  
坪六六。八と求くは坪と倍  
してひろ越坪八百大三坪六  
分内より減一由余八百九  
十四坪二七八に九割又住六  
す度三八す八分余の坪二百  
六坪一九五二とおとて右より  
減余三百六十坪。八三と知也  
左は二ひはくち段を差す淡  
用自圓でゆぬノをとけられ  
まつたとく若柱のほどれ  
て平准のとく切たびん小  
入遠て經換せぬ令様也

はと玉貴を人惑すと無合四つ小刻  
岡平法小除と方天と承也  
今羽拾武費七百人拾五分ナラトウと  
厚と立分の室の玉と假り御のうね渡

九鼎集

おとこえーすなぐる  
おとこえーすなぐる

モニ かのく機波 そんとす  
法を相拾貳百入拾みまう下と  
御ますへ自ら拾ふをかて刻す坪  
貳百。二坪四分半をも承もとひ支は  
五を小て刻す坪三百九拾七坪  
合を坪をもとあくす坪ひ由より  
はて三百九十六坪と空きみて刻す  
ち七百九拾貳あま候をとたらかう  
百三十二あま候をと空くを空く紙  
を悟、とをすと手紙の本半は除



右の内相違の運営と云ふ  
人ノいたゞくへむるをさへ人  
うをは切ふ切合にて六ヶ所  
乃候也

内のう指版と本を小字と申す。一信  
をすと見てかのう本也

此例之方と申本を記載する。室の間  
之と云ふ名開と申て御へ第紙開半千九  
七丈五尺五寸

短丈

實

形卵立

短丈を八二寸

す坪千二百八二坪才分七寸六毫  
法度短丈と二尺無合。其丈七寸六毫  
す坪八百八拾五坪才分八尺六寸四分又  
短丈無合是小法七九。五寸五毫  
百松三寸八分五厘五毫も本之を長貢

中て告板小筋の  
あらわせられへ社法  
もひかく不育也  
とはおはり正御古老の  
教者も又はうとゆき之  
豆約のをれしにいふと  
どれを過度小儀物の名  
にとよこりも利を於  
古田芝山をみび小今村  
か商ち尔古種牛契保  
夷そのが鴨田鴨田弓教  
そ明くノ教者へよ小學  
代えがちは小かづて教考  
ノ正はどとぞもうちめん  
松すの眉もとろがど

今卵教ノ坪教十二百武拾武坪大分ナ  
六毛リ短丈を人武すかう長丈を云  
拾ミ坪テハ小加(卵教ノ坪モ妙也  
三毛ミ 告文キ尺立す

法三毛太小千武百九二坪大分ナ六毛リ  
至板短丈を武度無合是小害法  
七九。立毛無千二百六拾人坪九分八四  
毛武教毛とく坪小加(武千五百八十八坪

大分ナアノ本別ニ文經丈武度無合是  
小武教毛一と無八百八拾毛坪武分ナ  
至板短丈を武度無合是小  
。七坪四分八毛より板短丈無合是小  
害法七九。立毛無二二三八ニニ武是  
一千七百。七坪四分ナと別景丈也  
卯教ノ坪教千武百九二坪七分ナ六毛リ  
長丈ノ短丈ヘニス短一短丈人ども

三毛ミ 長丈毛人武す

法三毛千武百九武坪大分ナ六毛無合

ウニ武ノ教ノ武百九  
ナシレハ三万毛人武ノム  
ハムラムノム一武定法  
の五ニニ六毛ノタクダ

あれへお達せを各と金  
ゆるかうへふくふくは御  
内へ家院役より  
貢を人。二家へふれ  
坪役五百二十三坪六三  
やまへ六二八ニ二四を八  
八八四四九丈を人八五の  
坪役五百二十三坪六三賦  
余三をもよそ六六  
二八ニ二四を八八是へき  
すに方八筋と二条をも余  
八位小えを是と一系の量  
とゆくられば三百拾四あき  
六六二八ニ二四を八八八  
と一年の五はあり

又丈九寸九分九寸九寸八  
の五のは役五百二十三坪  
六三をも五八四六二八ニ二五  
八二一元をと丈を人より  
坪五百二十三坪六分八四ト  
減り余三リ一モヤ一立三  
七を六八四を八八八四を  
とをとと余三利てか庵  
の丈九寸九分九寸九寸八  
の五三をお達せ御御より  
まるによつて家院役八ニ一  
一六二どひ八丈人自用小  
余一どとも可也

百九十九をととくて二百六拾四あきを  
を小あは五をと並百八拾四あ六九アセと  
賦を小今三う成すと九九小よび一二の八百  
坪引二八の百六拾坪引二五の拾坪引二八  
の三坪或分引二四の八分引或て百。三坪を  
四四も三水と列。又初次も高をとす小初  
高一尺加一寸八寸と水を小四すと並四十四  
丈を水高法七九。立と並て容四四  
丈分八九賦もと水を小第継とすと九  
九小よび二三九拾ち引二四八拾或  
ち引ニセ八或ちき分引二八八公分

高小えととをと二度無合玉は人  
をとけみ百拾坪と水をとまえに法  
又はモ人無合水法七九。人と互す  
七格九九。立と水を小节継三すと九  
九小よび三七九式百拾坪引二九のた  
七坪引三五八を分ふ而引一納て四百  
十拾入坪六分式而六毛突水り次  
高武すと三法。初次も高を人武すと  
高を小初次も高を人加一式人武すと  
是小初次も高を人武すと並武百  
六拾四あと水列。又初高を人無合

統則百歩化一ノ二百十  
歩を分立せとあると可  
也

木目あつひふはのちはだ  
とえせたる人か一社丈

疏丈弦參裁五尺八寸

丈人之有無と云

引うけ候ニ至小竹子不

経とくもあにハ考勤

候と申す

付立地不立あううう

うかトどく玉はの目ち

の候ふるにそ甘く人ぞ之

へいひが通とまれちた

小とあり法原自度乃置

士乃酒かへ後臍二つ印  
ふびくははけとけりや  
あうそとまきそとくわらゆ  
まううする人むらきくじ  
むれんをとひてかうぬの  
とくうれべらしとほと云  
後へたともと付立した  
かはそくとそ立とひた  
さん歟。

車書邦丸平と見と  
なく長短もまと初

方

方



右法立毛とすけ坪敷八百八拾毛坪敷  
八厘と合條毛也

中の青壁三坪

れふ合玉坪二合十二百束坪廿分半毫

卯取毛角四丈は統毛百畝小石

个方堅毛也

方入す 坚三人

法毛方と無合限三人と無坪敷也  
す坪七百五拾坪之堅三人メ方と旨

方毛 方立毛

術之略小いそく二百九二坪  
す分ちうをもどる法立と小  
除と得或ふ三百九十七坪  
分み実之別三見ニすに  
香法七九。立と本とを法  
立一除得にすと分立  
乞どみ芋綴一圓立法小除  
得商經業を人或す也  
今卯引長丈成人立す煙  
丈或尺乞と小相並いて  
除教二十三百八十七坪八三五  
丈綴引長丈引丈どら  
長を人分すを  
すと  
煙を人立す  
御三丈石經丈二人自固一

法と坪教と正方立す無合をも別  
す坪七百立拾坪乃と取下り方へ或人  
立す短くして方と堅とする  
そと  
法と坪教と芋綴安立法小除方也  
今方堅と方立す堅三尺と斜ど言

そと  
方立す  
堅三尺

堅

子と  
煙を人立す

て得八千坪一乞小屋と坪  
教と余一と得一九一〇二五  
内室之別二古卯引と坪  
教立千六百六十坪但余は  
者七九と香法ハ五一と余を  
求之以之実と奉も得三年  
三百七十立坪一乞再实一圓立  
法小除得わ魚綴實一乞  
又云綴より乞と芋綴一  
人立すと再自固一く一万入  
坪教と余一と得三七三。  
九五七。二二五二一  
古卯引と坪立千六百六十  
坪とくまと余と得六千

法と方立すと無合乞とを倍五拾  
又堅三尺と無合九百歩と底二口合  
九百五十歩と圓平法小除斜尺と妙也  
又斜と堅と立と方と妙と斜と妙合  
別一堅と無合乞と引と斜と妙  
説て立拾乞と二引刻定平除方と妙  
又斜と方と立と方と妙と斜と妙  
方と無合乞と一倍シ右と斜と妙  
引と二引平法ニ除と引と妙  
今厚幅堅一厚等幅守  
堅と人取す  
す坪二百八十八坪



す坪二百八十八坪

五百九十キ坪七九六八丈  
是とお再定開三法小除  
綏と約也

但接より先へ又右付へ右  
綏と利接小案以右接一  
除新綏と約 綏より又  
ノリ時へ右接と利綏や未  
方接左案幅堅少於  
堅序接堅四式小  
堅更壹之加傍補矣

幅厚

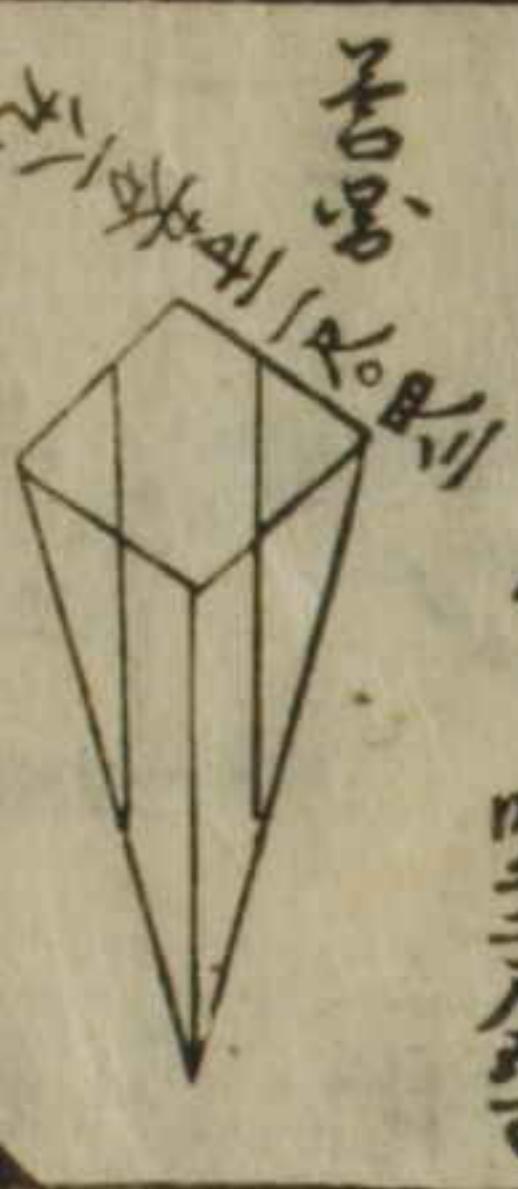
法主厚と幅と堅と無合て坪教と約  
す坪或百八拾八坪又厚守幅六寸板三合  
法主坪教と至厚と幅無合見し坪割  
す坪或百八十八坪又厚四寸堅三寸厚幅  
法主坪教と至厚と堅無合見し坪割  
す坪或百八拾八坪又厚三寸堅三寸厚幅  
法主坪教と至幅と堅と無合見し坪割  
す坪或百八拾八坪又厚三寸堅三寸厚幅  
法主幅堅又厚守幅六寸板三合  
幅堅又厚教と堅ち別事無合見し坪割  
今厚幅堅又厚守幅六寸板三合  
法主坪教と堅ち別事無合見し坪割

今方維之方を尺字す堅二

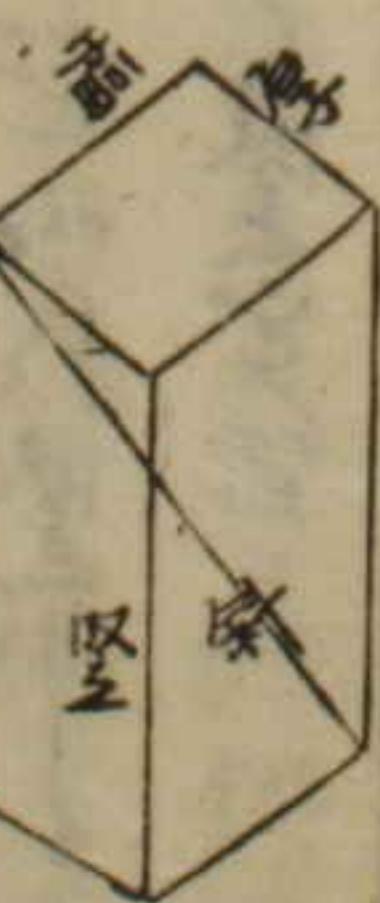
尺五寸圓洋号分小字分ケ

吉人教と古

堅二字



主厚 一尺四寸



法主厚無合拾六寸幅幅を合ニ給  
六寸幅堅又厚合百四拾口寸幅三口

合百九拾六寸幅合と開平法主全之

又斜と厚と幅と合て堅之紙あらん

斜と無合ちと合は内厚無合ちと  
教と幅無合ちも教と引法と厚年

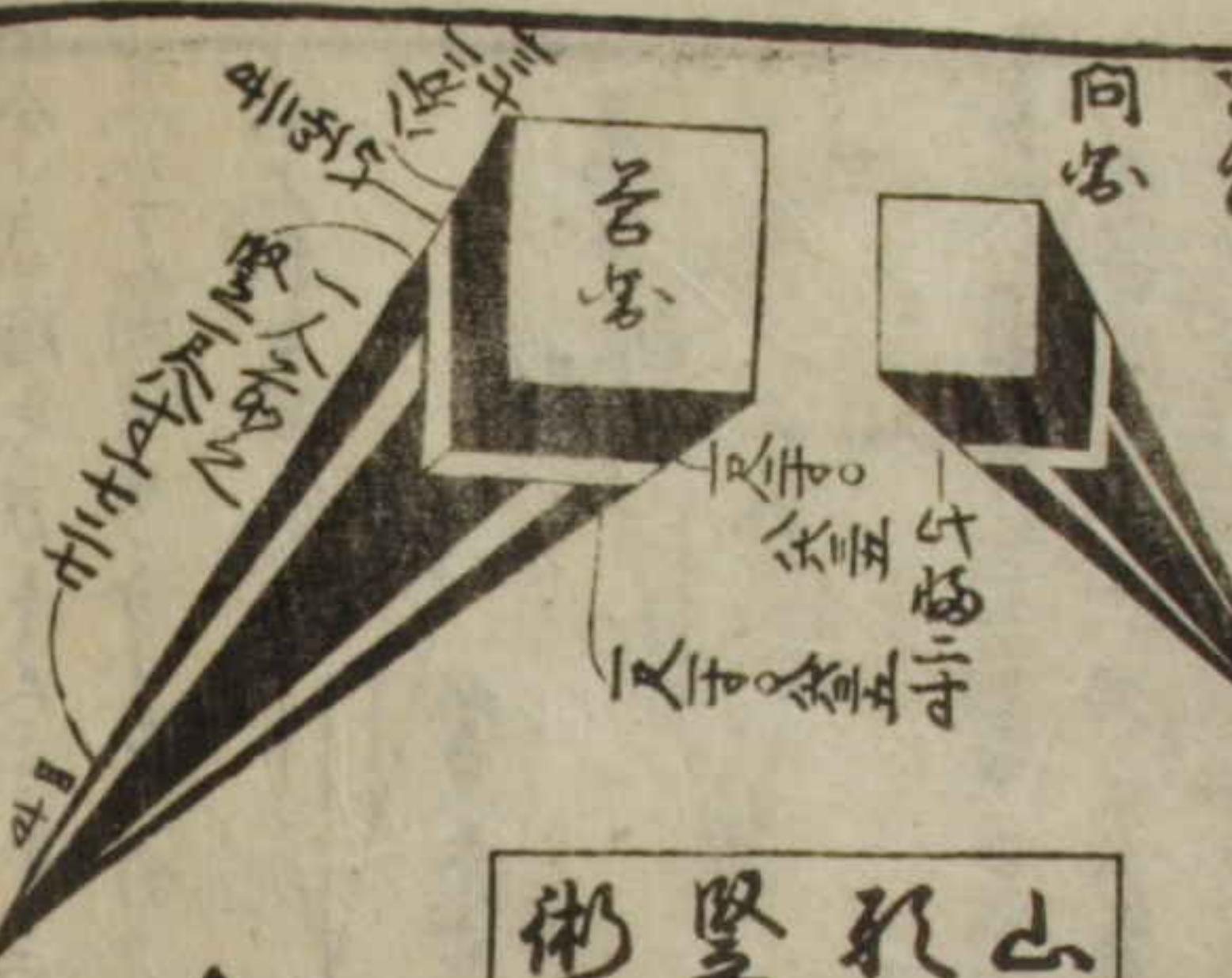
法主全之堅又厚

又斜と堅と幅を合て厚と紙同と引斜  
と合は内堅又厚

術曰方を入ニすと再自因  
して得千七百六八坪是と高  
して五百七拾六坪又堅之  
て得千百五十二坪又堅之  
開立法小除得高一人四分  
八厘毛毛系是れの方  
之

今方淮ホラスナキハ羅あう方  
モニテ立分堅ニ人立す  
モト五人小分立見出圓切ロニ  
すれもてふ坪等分ヲ合致  
どら

向



### 山根堅

今山根堅

厚四寸幅六寸



す坪百四拾四坪

法三坪と二倍又厚小一尺六寸半  
又坪教と堅と幅と之て厚よどみに  
す坪百四拾四坪と見と山根堅小一  
厚さ四寸幅六寸小一尺六寸半

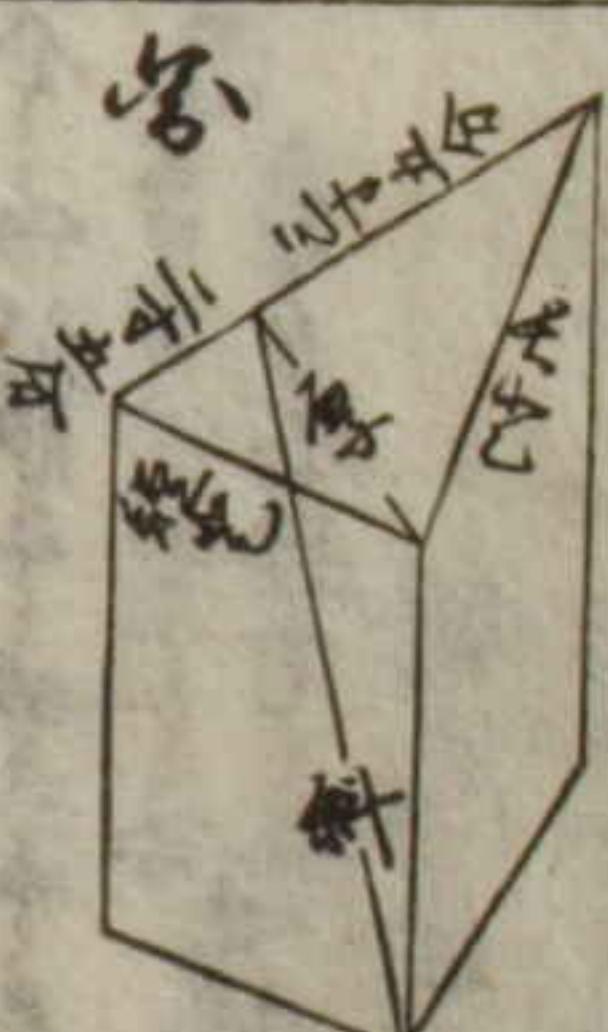
御ヨウム堅武人五十人底再自固  
得三万五千六百二十五坪  
列二尺一寸ニす立分と堅三  
人半す除得一尺死立ヨウ堂は  
のを或す除得一尺死立ヨウ堂は  
半すと半す小一尺六寸半  
位小一尺半再自固して二百  
十六坪と底是とちく坪教  
内より減一尺余き方丈  
四百。九坪わく是と自固血  
筋して得三万八千三百二  
十七坪或くひま之  
列二尺一寸すと自固三十  
半す小一尺半して百。八  
是とせ固みゆして八十六

法三坪と二倍又厚小一尺六寸半  
又坪教と堅と幅と之て厚よどみに  
す坪百四拾四坪と見と山根堅小一  
厚さ四寸幅六寸小一尺六寸半  
又坪教と堅と厚よどみに幅と之て  
法三坪と二倍又厚小一尺六寸半  
今山根堅と堅と厚よどみに幅と之て  
内半す厚分の長を一尺  
内半す厚分の短を一尺也  
斜長を四寸す半分す半尺也  
斜尺を尽或す半分す半尺也  
半す長を五寸三分す半尺也  
短を四寸す半分す半尺也  
法三坪と無合格六寸と半尺堅無合

お写しとみあす字を假定  
又別にあくと二圓して  
そぞ八すとど四圓立  
てそぞ人守り分とみあす字  
假之圓立法小陰を得  
尺八すと分ちうすも七字  
乞史と方のん分し堅之

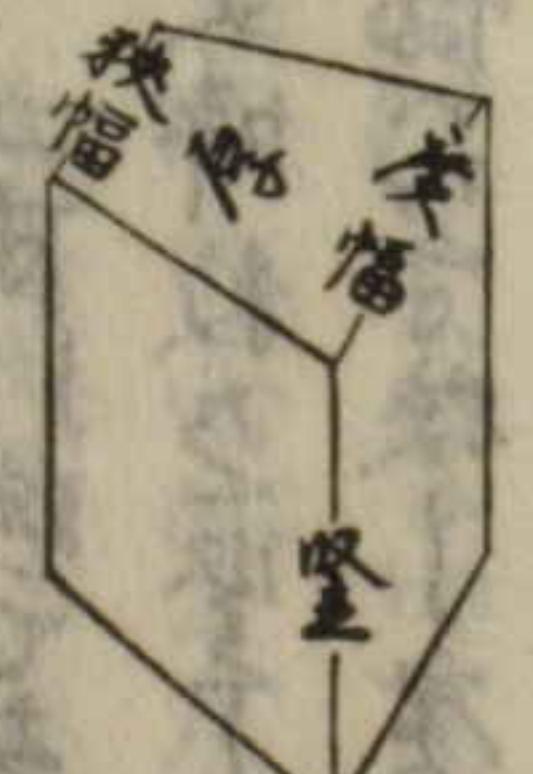
右細説にて云

支小き方或千三百坪分  
△商小を尺と並再自固して  
千坪定より減之又商一人  
自固百支小人守假之等  
分と案得一千一百四拾坪  
減之入商き尺小人守假之  
八十六支四分と案得して得



百四拾アキと減ニロ亦殺合百六拾  
と減と開半法除と斜尺と妙  
長短とせと知法云  
合拾キナ分五つと  
扱の三すめ分と並  
合拾キナ分五つと  
扱ハキナ分五つと並  
合拾キナ分五つと並  
合拾キナ分五つと並

ニロ合式拾八支或分立也是と開半  
法除と長毛と妙也又云零と魚合  
拾ハキナ分五つと並也又云零と魚合  
キナ分五つと並也二ロ合式拾キナ  
合式分立也是と開半法除と長毛と妙也



今斤狭堅  
厚四寸 坚一尺二寸  
す坪数百四拾四坪

八百六十口坪  
支余九千。六三坪分  
△テ、商八すと開半二  
柵一尺小一尺得四十八  
百三十二坪一尺不減之  
又開半二柵一尺小一尺得  
百二十口支一尺不減之  
支人守り分と案得三千  
二百二十口支一尺不減之  
又今人商八すと支人守假之  
六支四分と案得二六百九  
支人守り分と案得二六百九  
△三支商を分と之開半二  
柵一尺小一尺得四十七坪  
支余九千。六三坪分  
△テ、商八すと開半二

堅 狹 堅

法と度と狭と重合と別是厚と堅と  
す坪百四拾四坪分と斤狭堅と度  
立す狭幅をす厚守り堅尺分假と  
法とす坪数と度假合と別是  
厚とすけと小て坪と別也  
又坪数と度幅と狭幅と堅尺分て厚  
と求ふ  
法と度幅と狭幅と度幅と堅尺分て厚

より減之又用辛ニ折ノ術  
かしてニち六一そ小斧般  
を尺四寸四分と余得五十  
を坪九八四丈々減之又今  
て高き分小ち斧般八十寄  
分と余得八坪六分ヤラ  
寄々減之失余百十六坪。△  
△四百七セモ三用辛四折  
ノ術小一そ得二十六十九坪。△  
△五十三丈々減之又用辛四  
折ノ術小一そ得二十六五三八  
九先小尺斧般一尺守四分  
余得三十六坪五六。△  
△八十六丈四分と余得六坪  
減之又今八丈四分と余得二十六  
八十六丈四分と余得六坪

○ヤハツ丈々減之又余得坪  
二十六二三二十七丈小四  
△五百丈ニ毛と三用辛五折  
ノ術小一そ得一坪九八二二一  
△ヤハツ丈々減之又用辛五  
折ノ術小一そ得一丈九八四  
九拾六坪と余得二丈六八四  
拾八坪と余得二丈六八四  
是小尺斧般一尺守四分  
余得二坪。△六六四九丈  
八十六丈四分と余得二丈  
分十九二そ八丈々減之又  
一坪一分ナ一七六九五ニク  
△六六四九丈ニそ用辛五折  
ノ術小一そ得一丈九四二  
九二。△九五八三丈々減之

とくに是を小て坪と割く

又坪教立被幅と厚と堅とら廣幅求  
法と坪教と並厚小堅とら廣幅求  
と別ニすと余得とを倍メ六すと餘得内  
被幅と余得と立す坪教立被幅

又坪教立被幅と厚と堅とら廣幅求  
法と坪教と並厚小堅とら廣幅求

又坪教立被幅と厚と堅とら廣幅求  
法と坪教と並厚小堅とら廣幅求  
三すと余得と一倍メ六すと余得と並厚廣幅  
立す坪教立被幅と厚と堅とら廣幅求  
又坪教立被幅と厚と堅と余得と並厚廣幅求  
立す坪教立被幅と厚と堅と余得と並厚廣幅求

法と厚四寸小邊ノ守と無拾六先と  
成是小堅ニ尺を尺余得すと余得ニラ小別  
九拾六坪と余得と并厚と坪ノ引拂四  
拾八坪と余得と并厚と坪ノ引拂四  
余得と并厚と余得と并厚と坪ノ引拂四  
是小邊ノ守加て廣幅と並厚  
今斤被幅と余得と并厚と坪ノ引拂四  
堅と尺ニすと斜尺行行と也

王右三尺ニす  
并厚  
堅  
法と廣幅と被幅と合ニテノ別ニすと

又開辛六枚御みて得。公  
分人セニ三九<sup>ヲ</sup>乞小足ノ事無  
モ人守勿案待ニ三分  
六六三五セ立七六<sup>ヲ</sup>安久武  
之又今ミ十系小ち事無八十  
六ち又分と案得エリ。ハ<sup>ヲ</sup>

支那減之支余アフモ  
アミニシニ六七一七支余  
アモニク

右三面之岸投百步余岸  
右方維之以圈立之等  
分水之流之口

術 錐 方

家と無合九赤又家と無合格  
六赤又堅と無合百四拾九赤又  
三口赤救合百六拾九赤又家と無合  
は二除き斜八合

法云方と魚合堅と魚淮は二刻半時  
す坪三百坪と方淮と堅三半守と方と  
法云坪二と魚堅と別閑半小除と方と  
す坪三百坪と方淮と方六寸と堅戸と  
法云坪二と魚板方と魚合堅と別

左方准ふことわらへたゞく「方准す堅人  
此人守すの方堅と方准すきう」と  
又れへ中方准と方准の字楊准也  
かう其姓姓とも云姓也も云家姓とも

此切一  
此切歌九合

一、二小て除式すハ分々  
毛ヤニ參ニシテ又勺配五小除得  
立す六分又六八ラ是ニ失ヒ度等  
トキモ小式す加セ七す六分  
五六八再自因シテ百四十八坪  
八分九丈二尺许れ白木城  
土余三万又千百七十六坪余  
とて因立シムト一万二千百四十

坪八八六三丈を分す。方教を  
すすみ分五丈八自固して又三周  
立ぬ。て三十五步一七十九立一七  
丈。と又に周して百四十步。  
七。二八。六九七六分步常鑿  
列七。す六分立六八七三周立  
て四十五分九丈。八是と又に周  
一丈一尺八寸三七六三。て分す  
丈常鑿之。丈と兩三法。除得商  
一丈六寸七。立。七。是則丈と有  
り。丈收丈也。

細沒へお之役内り左墨之  
者也。

右一ヶ底。坪教九十七坪一分余也。

又二方も右も。二百坪也。統へ中へ  
方淮も内坪教と分れ。小淮法。ニと申也。  
を。か。二方より十方と。淮法。又。大淮  
も。も。方淮の式。すしてそれくへ法を無  
て。坪教と。水也。

今方淮の方へす。堅。或。尺。立。す。腰。平  
參。尺。尺。と。腰。隅。定。り。尺。と。口

腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。  
腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。

腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。  
腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。

方淮。及。方。を。丈。二。す。八。分。堅  
ニ。尺。立。す。是。と。此。圓。切。口。と。二。す  
丈。丈。二。丈。分。メ。名。ス。を。名。

問

答

三百五十九坪分

四十一丈九尺八寸八分四厘二毫

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

合

術曰以堅方と塗得白死五  
列於二すと角徑定法一に  
以二以塗得一すは分一リ筆  
ニラ是と白死五小塗得を  
虚ニすハ分ニハ以板堅尺

五寸再自因して得ニ万五

千六百丈八坪一列於此すと

虚ニすハ分ニハ以并合等

八分ニハとて再自因之終者

十二坪五分六十六以五三七ニ

セラ是とて内どう城土余を

万八千五百十二坪六分三三ニ

五ニハ二十九丈八毛と二固三兩

一ト得一万。三百セ十一坪六分

三三ニハ一九七七三ニ三

法ニ堅ニ又立すと二度無合す坪ニ方  
五千六百丈八坪と本是と無目安として  
ニセラ是とて再自因して  
六十九あ九分四。三三九六  
是と二固三兩して得ニハ十六  
セラ是と二固三兩して得ニハ九ニニラ是  
五丈八分ニハ九ニニラ是  
も四半と二固三兩して  
得ニ九す六分ナウ六モハ系ラ是  
五丈八分ハナウ六モハ系ラ是  
乞則失ニ方ニ堅不立矣

方ニ堅尺と知也

今方准ニ方ニす堅ニ又立すをと夫  
ノ方小てす坪ニ格ニ坪キ分セラセモ案  
中もす坪百或格坪。四分ニテモ或モ四  
ロノ方小てす坪百四格六坪四分ぬけとけ  
落の堅ニ切口する

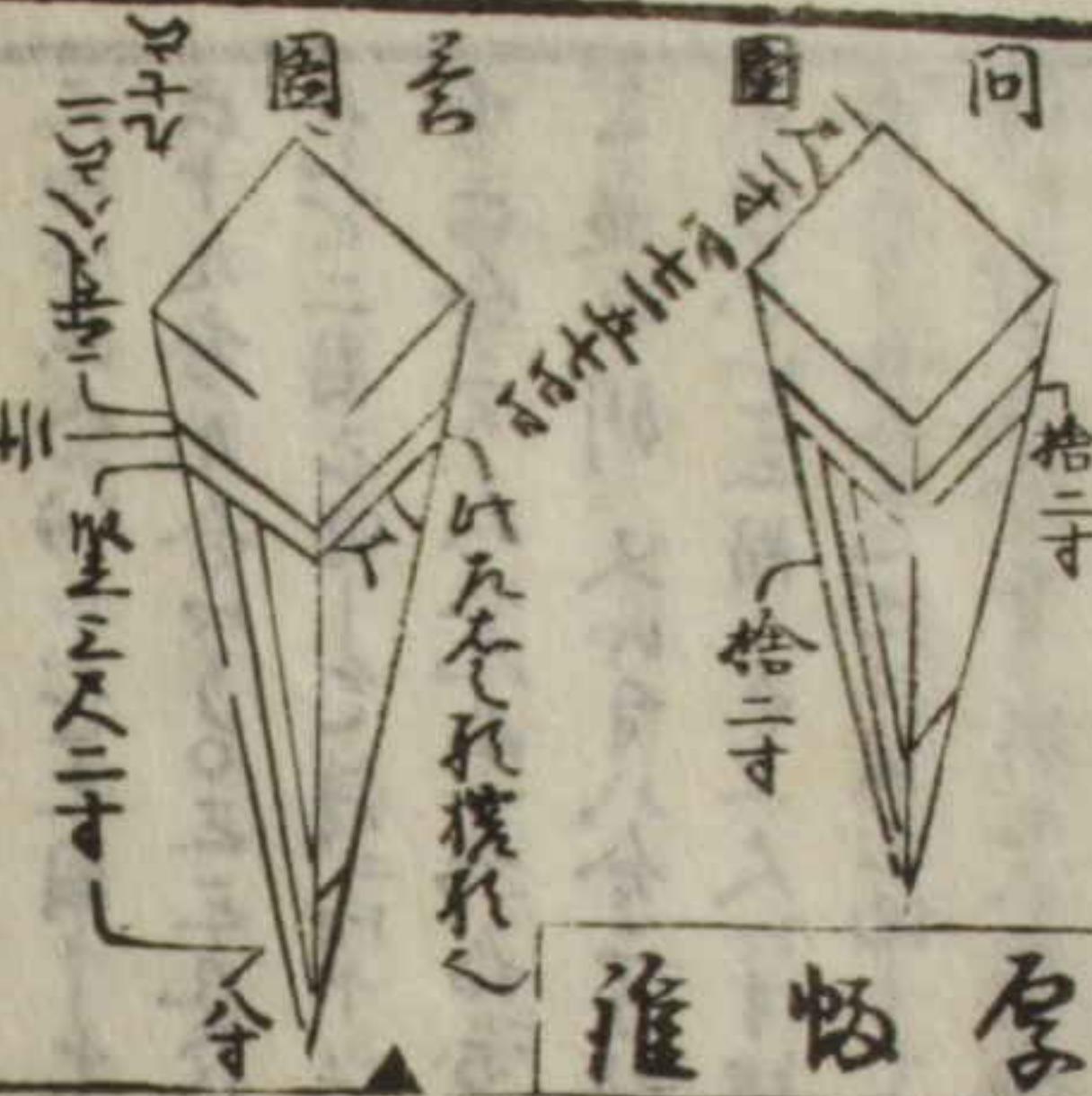


之列を等す分ニハと  
自因して得ニ千五丈三分ニ  
ニセラ是とて再自因して  
六十九あ九分四。三三九六  
是と二固三兩して得ニハ十六  
セラ是と二固三兩して得ニハ九ニニラ是  
五丈八分ニハ九ニニラ是  
も四半と二固三兩して  
得ニ九す六分ナウ六モハ系ラ是  
五丈八分ハナウ六モハ系ラ是  
乞則失ニ方ニ堅不立矣

法ニ堅ニ又立すと既及無合す坪ニ方  
五千六百丈八坪と本是と無目安として  
是ニセラ是とて再自因して  
魚目安小鰐たる坪と別開之法ニ塗  
ミセラ是とて再自因して  
坪と申ハ坪とニロ合無目安小うけ  
是と別目安ハ三百坪小てよりて寛  
之法ニ塗ミセラ是とて再自因して  
ロ小アシノ也内セラ是とて方ニ堅ニ  
引得ニ申ハ堅也ニ堅尺と知也

方淮之方そ人よす分ち  
一もス系七忽ロ微ロ鑑ヒ堅  
ロス五ス分ハリキモニ九セヒ  
乞トロ國切ロニスと志テ许ニ  
モ分小シモ吉尺ト吉

の堅と中の堅と  
端はくの方の  
堅く切口へすと知るが小孔と知る  
記を正にまつて丁も微小てて知也



# 淮海序

す坪 日百坪

清秀而字之暢之堅之無合惟法之刻

今厚幅推之厚四寸  
幅一尺二寸厚三寸五分  
す坪四百坪  
す坪百坪也是と厚幅推之厚四寸  
走人或す少く厚幅推之厚四寸  
法厚幅推之厚幅推之厚幅  
走人或す少く厚幅推之厚幅推之厚幅

す坪々百坪々堅と幅とて厚と束つ小を  
坪救三と通堅幅と通是小く割也  
す坪々百坪々堅と厚とて幅と束つ小を  
坪救三と通堅厚と通是少く割也  
す坪々百坪々堅と幅とて厚と束つ小を

御<sub>二</sub>曰堅<sub>一</sub>と再自固<sub>一</sub>して得九  
万六千六百十六坪<sub>一</sub>別<sub>二</sub>方丈  
牧堅<sub>一</sub>と除得<sub>二</sub>長白配<sub>一</sub>四<sub>二</sub>  
於ニすと案<sub>一</sub>一得<sub>二</sub>八<sub>一</sub>是<sub>二</sub>を  
二十<sub>一</sub>と<sub>二</sub>得<sub>一</sub>彼一人<sub>一</sub>再自固  
して得<sub>二</sub>千坪<sub>一</sub>を内室<sub>一</sub>之<sub>二</sub>余  
九万五千六百十六坪<sub>一</sub>と二圓<sub>二</sub>  
而<sub>一</sub>て得<sub>二</sub>六万三千七百坪<sub>一</sub>に  
坪<sub>一</sub>ハ堂久之<sub>一</sub>別<sub>二</sub>をもそ入  
自固<sub>一</sub>と百九坪<sub>一</sub>二百九<sub>一</sub>と  
乃<sub>一</sub>ち事綱<sub>一</sub>別<sub>二</sub>又モ<sub>一</sub>と倍  
武<sub>一</sub>人<sub>一</sub>也<sub>一</sub>又別<sub>二</sub>を八<sub>一</sub>すわ半  
ト<sub>一</sub>と<sub>二</sub>守<sub>一</sub>そとを<sub>二</sub>人<sub>一</sub>并合武  
尺<sub>一</sub>守<sub>一</sub>とみ<sub>二</sub>人<sub>一</sub>事綱<sub>一</sub>開<sub>二</sub>庄<sub>一</sub>除  
得<sub>二</sub>三<sub>一</sub>天武<sub>一</sub>す<sub>一</sub>夫<sub>一</sub>と堅<sub>一</sub>

す坪ヒラ百坪ヒラの堅タケと惣ソウとて厚タマと求メル。小を  
坪ヒラ教ヒラハシと堅タケ惣ソウと是シテ小く割カツ也  
す坪ヒラ百坪ヒラの堅タケと厚タマとて惣ソウと求メル  
坪ヒラ教ヒラハシと堅タケ厚タマと是シテ少シ割カツ也  
す坪ヒラ百坪ヒラの堅タケ尺チリと惣ソウと厚タマへ八す狹ヒツ  
窄ヒツと惣ソウと厚タマ也  
坪ヒラ教ヒラハシと堅タケと堅タケ刻カツク是シテ少シ小  
重ヒヂリ常ヒジリ綱ヒダ用ヒツク平法ヒラフ除ヒツク厚タマと是シテ小遠  
八す狹ヒツとて惣ソウと厚タマ也  
今厚タマ惣ソウ准ヒツク厚タマす狹ヒツと人ヒトす堅タケ式  
尺チリ立ヒツクす腹ヒラ半ヒラ腹ヒラ隅ヒツク也シテ絞ヒツクも

九屏

零極淮八方淮小淮れ  
こう好ふしれ乃好浦と西東

權杖之刑法をか書小りそ  
すはゆくひ時惱一人ニす。齒  
もす加伏、もく立す。ちる  
も小厚ハす案ね二百二十キ  
老子小堅ミテ人ふすと案得二千  
九百六峰。是をうぬして六百四  
十年。卒。也。

家と平毛  
武人五す七分。九毛  
多毛  
暢毛平毛  
武人五す。十九毛  
偶毛  
武人五す十分九毛  
法毛厚毛すのま  
武すと無毛四毛  
と勝利又堅人  
武人五すと無毛六百  
十九毛と無毛二毛合六百

丸あくまをとまし手法 滅惣腹手と追  
又云惣一尺二寸をもすと無合せあと筋引ニ又  
堅二尺八寸と無合せ百九十九筋一尺合一百六十一  
手筋元と開手は多餘と厚入腹手とよれ

又も空すのを一すと無名にちて断りて大悟て  
すをもとすと無名をもつて崩れ大悟て人をも  
金の百枚も金を貯め百六十枚を取て軍  
は冷き渴死入るを終

The diagram illustrates the Eight Trigrams (Bagua) arranged in two sets of four. The top set consists of ☰ (Qian) at the top, ☷ (Kun) at the bottom, ☱ (Li) on the left, and ☲ (Kun) on the right. The bottom set consists of ☲ (Li) at the top, ☰ (Qian) at the bottom, ☴ (Xun) on the left, and ☳ (Zhen) on the right. Each trigram is shown with its name in Chinese characters above it and a corresponding symbol inside a square frame. The symbols are: ☰ (Qian) with a circle, ☷ (Kun) with a star, ☱ (Li) with a circle, ☲ (Kun) with a circle, ☲ (Li) with a circle, ☰ (Qian) with a circle, ☴ (Xun) with a circle, and ☳ (Zhen) with a circle.

The diagram illustrates the Chinese character '堅' (jian). It features a central vertical stroke (the stem) with a horizontal stroke extending from its right side. This horizontal stroke is further divided by a vertical line into two segments: one above and one below the stem. The top segment is enclosed within a rectangular frame, which is itself bounded by diagonal lines connecting to the main vertical stem. The character '堅' is written vertically along the right edge of this rectangular frame.

卷之三

法を悟と一悟より人等すと身を小篤と加て之を承  
是を厚くすと身三百里も身を堅ニ今すと無事

A diagram of a Japanese board game, possibly Shogi, shown from a top-down perspective. The board is a square divided into 8x8 sections by lines. Several pieces are placed on the board: a black piece labeled '王' (King) is at the top center; a white piece labeled '王' is at the bottom center; a black piece labeled '兵' (Bishop) is to the left of the white King; a white piece labeled '兵' is to the right of the black King; and a black piece labeled '兵' is at the bottom-left corner. A red circle is positioned near the white King. A yellow star-shaped symbol is located in the top-right corner of the board area. The background shows some traditional Japanese text and patterns.

增補足十二

七屏吳大

今權取立幅を人立す事もす  
齒を人堅玉人ニテカリ是件  
教考分小立切名人立

合塔片ハタケをハタケはく  
小刻根源コトハタケにて云

卷之二十一

向

A vertical column of handwritten Korean text in brush script, likely a title or heading, followed by a large, stylized red seal impression at the bottom right.

小兒之歌

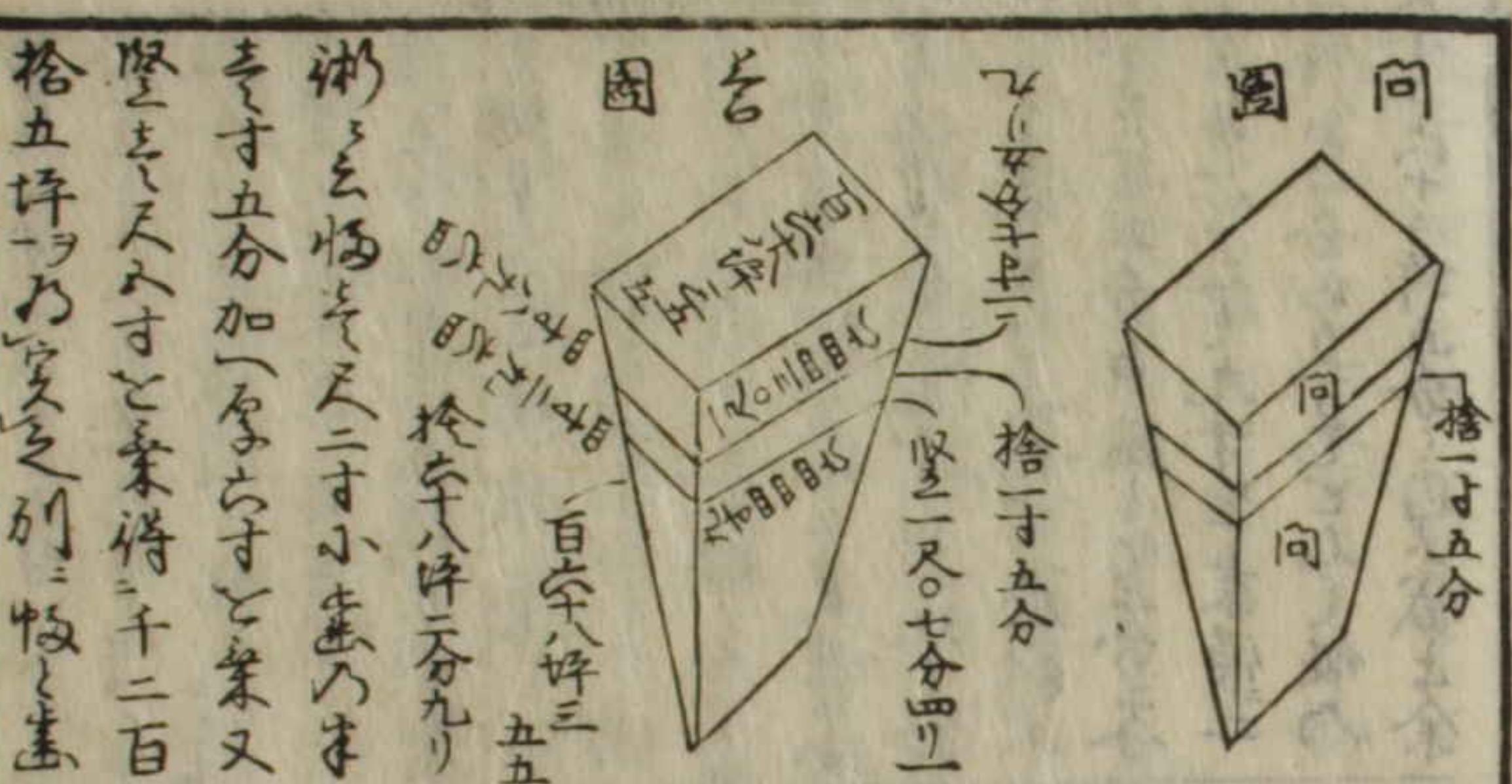
貞十四許

求てぬしらぬと一分く叶  
百六十八坪一是小雅法三と  
未五百。四坪也列小堅一人  
ニすと再自因して得二千七百  
二十六坪一是と大又二千五百。  
四坪一是と大安列二四人  
六守内三日の一人と守一と  
余六す小守六すと多得二三  
十六守一是小堅一人守と余  
之と得二百九四坪一ぬは之  
を失と除得二武千。十六坪  
是れ再定之又別一多キ余  
芝法一個まと棄一して得二半  
又す一是小堅の主人二す半  
得二百八十奇一是と多と極矣

代の厚極淮の法シテノ刻はあつ中の中の此  
之小うニ刻はすりをとるニ樂合ニ三ノ六  
あれ小摆はニちうとニれ也  
す坪ニ百四拾坪ニ是ニ摆取ハリト收ム  
武す厚ハす堅モ今トすレて萬トの時ハ  
法ニ坪ニと無キ年八百四拾坪ニ刻ハ零ス  
堅モ尺ハすと無キ百六八坪ニ金シテうルよ  
無キ坪ニ刻ハ三尺ニ金シテ幅シテ二スと  
テリ引ハ無キ六スと集シテ籠シテ籠シテ  
す坪ニ厚モ堅モ事ト知ルて籠シテ來ムよ  
はシテの無キと三尺ニと求ム内シら

七言

卷之三  
書道の如きと云ふ事は筆を人手にさへ  
す片々の極意をもて墨と紙とあわせて墨と來る  
法と云ふ小たりともひねりぬれんとおもはれかして  
是が小墨と云ふ是が小墨とぞりすすむ教義  
是ととづくをしてお無する片々の  
片々の極意と堅と墨とをくわど来る  
法と云ふ教小たりとぞり列小面と一倍ア  
墨とくわど是が小堅とぞりナすすむ教義  
是ととづくをしてお無する片々の  
今様取て厚い墨と厚い腹半身と幅腹半身  
を人手にすと厚い腹半身と幅腹半身



腹偶也。斜尾也。尾毛之多者也。

皇平定を以て分七至八毛

體平實者以尺寸分之而知也

斜戸を戸へすゆ分ちて毛

法主恆光是元祐

斜  
葉  
子  
也

卷之九

きくちすと無~~合~~<sup>合</sup>式百五十<sup>六</sup>考と  
只へうね合~~合~~<sup>合</sup>百<sup>一</sup>拾九<sup>一</sup>考と

上  
卷  
第  
二  
十  
九

のえ九す小字こちすとま又  
堅三と五す余八百十坪又  
法右實一除得二個半別  
小堅三と八すと再自因して  
得三千三百七十五坪<sup>ヲ</sup>是小を  
き個半と棄得假五十。六  
十二坪五分又別小を個  
まとあひ円え一個まと  
よ余半個と堅三と五す  
素得七す九分<sup>ヲ</sup>も小を於  
キす五分と九すと別小  
於キす五分自因してあて  
半をと九すと棄得二  
十坪。テ分より<sup>ヲ</sup>とてく便  
余。六十二坪五分内半減<sup>ヲ</sup>余

是と在年法除厚乃年光と知也  
又云厚之半式すと無合ひあと亦列又  
堅毛尺六すと無合式百人拾毛毛と  
成ニテおね合式百人拾毛も合毛と  
異乎法ニ除幅毛年毛と之を知也  
又云幅毛尺式すと角毛毛とす引拂て守  
とテニ刻多合九毛と眞列ニ又厚乃  
半式すとけ合四毛亦列小又堅毛尺  
ふすとけ合式百五十毛も合毛三毛  
合式百毛拾九毛も合毛と無年法ニ除



今方甚至

五十九。十二坪二分五毫と  
われまゝて二千五百二十キ坪  
を分テうぬもどね再安  
扳字個小堅と余得セす安  
乞小於起す安分と業済<sub>ア</sub>  
ち分ナ<sub>ア</sub>列於自因之安  
分ナ<sub>ア</sub>と三因ニ内<sub>ア</sub>とニす  
ちうかもと分毛<sub>ア</sub>を十一す分  
争<sub>ア</sub>と加<sub>ア</sub>伏小十<sub>ア</sub>等<sub>ア</sub>分  
う<sub>ア</sub>と<sub>ア</sub>と<sub>ア</sub>あ<sub>ア</sub>と<sub>ア</sub>方  
列小於<sub>ア</sub>と<sub>ア</sub>五分と三因  
ニ内<sub>ア</sub>と<sub>ア</sub>得<sub>ア</sub>す<sub>ア</sub>分ナ<sub>ア</sub>  
毛<sub>ア</sub>小<sub>ア</sub>を<sub>ア</sub>す<sub>ア</sub>分<sub>ア</sub>と<sub>ア</sub>加<sub>ア</sub>  
伏小九す七分ナ<sub>ア</sub>と<sub>ア</sub>行<sub>ア</sub>  
全<sub>ア</sub>事<sub>ア</sub>綴<sub>ア</sub>内<sub>ア</sub>は<sub>ア</sub>塗<sub>ア</sub>將<sub>ア</sub>高<sub>ア</sub>

又云幅と高と重合せり 剖九すと取れ  
と無合八拾丈もと底列 又重と半  
引すと無合四丈と底列 又堅と重  
尺六すと無合六丈百五拾丈もと底  
合之百四拾丈ちと無合半丈小  
余を斜尺と知也

今方基  
未方七尺五寸  
本方六尺七寸  
堅尺五尺

增補卷之二

東方丈人  
本方丈人七寸  
堅尺五寸  
至万九千九百四拾二

方へ吸ひ去る。七分アリ也

方を別御二白を書くす法  
と見て以之

未方と申式すと卯方戌人七  
す小相案して三百九十九也又  
未方自案して百四十四も又  
午方自案して七百九十九也  
二呂合千百九十七も乞吸之  
九人とも年所二十五万九千八百九  
片一乞と云々して一万九千九百  
五十片の方を以て片数へ

The diagram illustrates the Five Elements (Wuxing) cycle. It features a central hexagram (Hexagram 64, 六十四) with the character '捨' (Shi,舍弃) written vertically on its left side. Surrounding the hexagram are five trigrams, each associated with one of the Five Elements:

- Top trigram (top-right):** 坎 (Kan, Water), represented by a solid line at the top.
- Right trigram (top-right):** 离 (Li, Fire), represented by a broken line at the top-right.
- Bottom trigram (bottom-right):** 乾 (Qian, Heaven), represented by a solid line at the bottom-right.
- Left trigram (bottom-left):** 坤 (Kun, Earth), represented by a broken line at the bottom-left.
- Top-left trigram:** 巽 (Xun, Wind), represented by a broken line at the top-left.

The characters '自因' (Zi Yin, Self-Generation) are positioned above the trigrams, and '之界' (Zhi Jie, Boundary) is positioned to the left of the trigrams.

東方自因少成之因之

辛未相因 = 呼之因之圖

A detailed technical diagram of a Chinese building's cross-section. The structure is divided into several sections by vertical and diagonal lines. Key features include:

- Top Labels:** "朱" (Zhu) at the top right, "斗八" (Dou Pa) diagonally across the top, and "斗口" (Dou Kou) diagonally across the middle.
- Left Labels:** "五尺" (Wu Chi) and "用" (Yong) vertically on the left side.
- Middle Labels:** "七" (Qi) and "七" (Qi) positioned near the center.
- Bottom Labels:** "四" (Si) and "四" (Si) at the bottom corners.
- Symbol:** A circle containing a cross (X) is located in the upper left quadrant.
- Decorations:** A six-pointed star symbol is in the upper right, and a square symbol is at the bottom center.

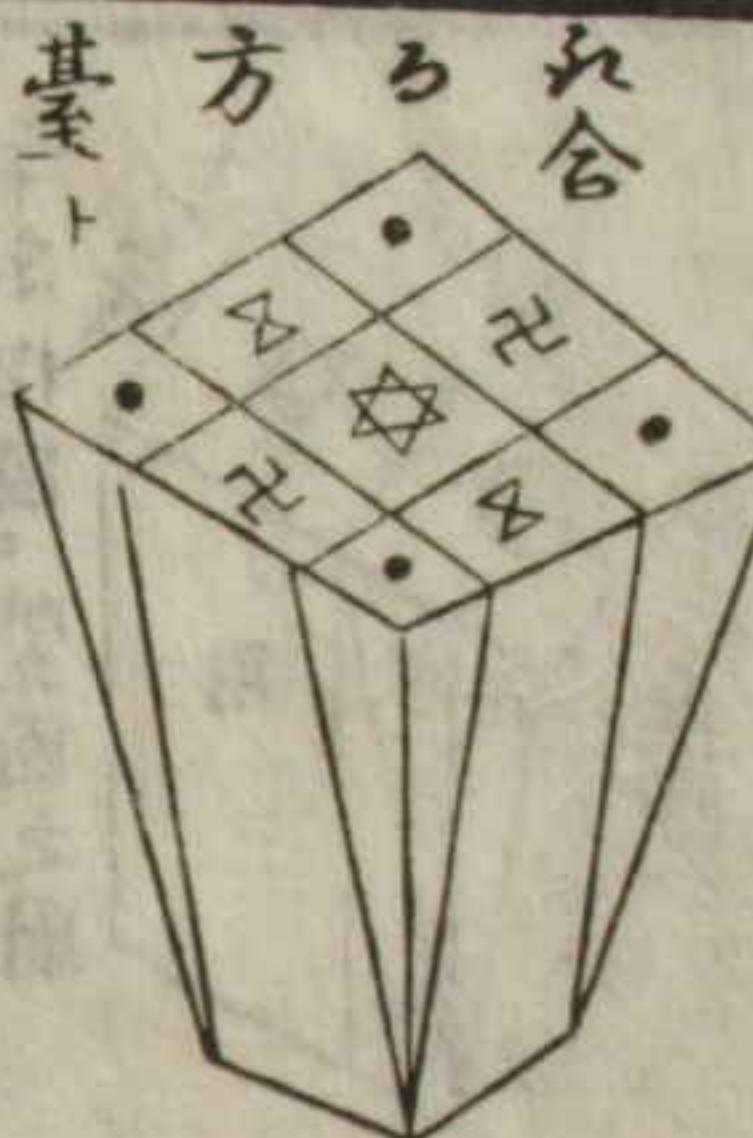
たゞして二分へ於て三分へ用  
せ。是へて誰とせら  
⊕此用多々して七八此合致  
るを細んに記之

增闕卷之三

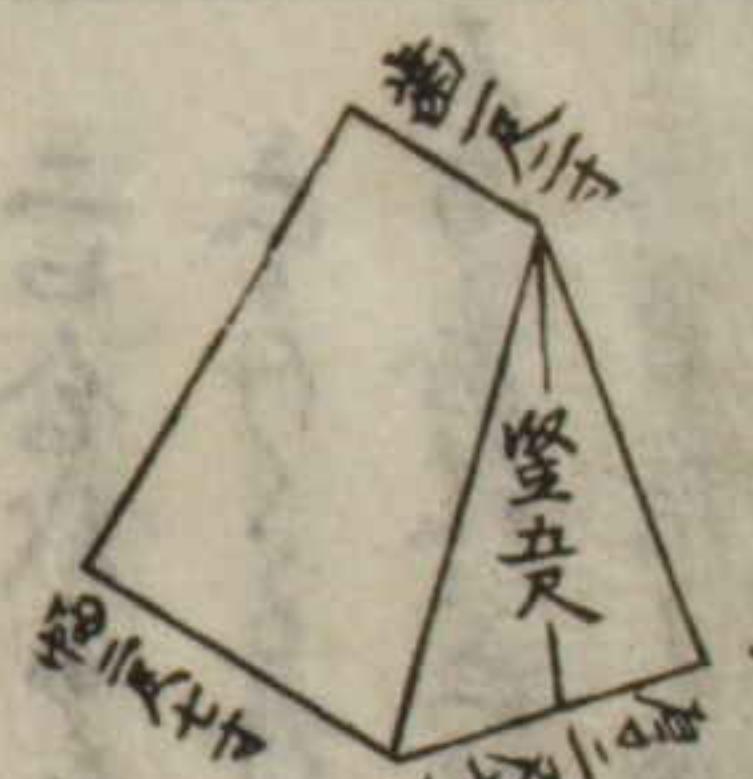
法三坪教小六ヶ拾五方九百七百坪  
右列（東方と一倍）東方と加（東方と  
二け千七百八拾武丈と麻又東方と一倍）  
東方と加（東方と二け）百拾武丈と麻  
云合式手三百九拾四丈と麻是小てを  
あけくろ坪と刻堅尺と知也

は云東方七尺八寸と一倍又八寸四分  
と南北を方丈八尺七寸と加五尺余す  
是ニ東方と無百捨或もと改又を方  
丈八寸七寸と計倍ア五尺四寸とみ是小  
東方七尺八寸と加五尺余すと改又を方  
丈九寸七百八拾八丈と改ニ口合二千三  
百九拾四步と改是堅土石とを捨て方九  
毛百坪と改是と改め刻坪数と改之  
す坪を方九千九百五拾坪と是と东方  
を改すを方丈八寸七寸と方丈小一丈  
堅土石と改之

是と  
四隅  
配也



據取法とみて坪と云ひ  
は坪五千百坪



據取法とみて坪と云ひ  
は坪五方九千九百八十坪

今方をあくま方を天子  
半方武人七す堅五尺ナリ  
是小相を一して坪を倍せ  
造り名と號と名

六合  
四隅  
方  
墓ト

成ル圖也

未方一尺五寸分一九〇四  
吉と半方ニ尺也。七八四  
堅尺六尺二十九分九六  
例曰吸之五尺と再自回して  
得十二万五千坪一倍之と  
二十五万坪と開三法除之  
堅六尺二十九分九六半一尺  
小右の半方と半左の堅之  
又新堅小右の半方と半左  
堅之とみて除ね延く半方と  
半左の半方と再自回して偏之  
用立法也

堅五尺と未方と半方と一尺五寸分  
吉と未方を八尺二寸半方武尺七寸  
法と後も未方を八尺五寸と四合を小堅五  
尺とけ二寸八割と半七日五拾坪と各と  
也坪と内引法と未方と八百四十坪と  
是と堅五尺とみて割す半二百四十  
と各と半尺と半小並列と未方と  
すと半尺と半小並列と未方と半尺  
尺と切と半尺と半人入す加半方と半尺  
今方を之未方を八尺二寸半方ニ尺一尺五  
尺と腹半方腹隅也斜と名

又卒方もろえ一丈四尺  
方と再自因して縁之用三  
法三

今す坪三万千五百坪と方  
丈小一丈四尺未方より  
方へと倍卒方もろえ堅かた一  
倍かく各尺教お

末方すゑ五

名云卒方三尺

堅尺六尺

術曰三万千五百坪と三因  
一九万四千五百坪の字を  
列は小丈すこ丈じとあ方と定  
又云と卒方とよこり入四  
尺と堅かたとよこり一丈自因百

寺云人自因四百丈又丈  
と底そこと相因四百丈三客  
七百丈是小堅四尺乘得貳  
万八千坪フ是とある法を玄  
と除得三万三百七十六坪  
と開之法三降と得ト末方すゑ  
五丈

今す坪二万八千三百四坪  
ウキと厚板を小して堅  
より卒板へかうすす  
卒板より末板へ開之  
末板より卒板へ厚板  
厚板より末板へ五分之厚板

平定五尺。九分五厘九毛  
三尺。偶定五尺。五尺五寸分五分  
斜尺五尺七寸七分

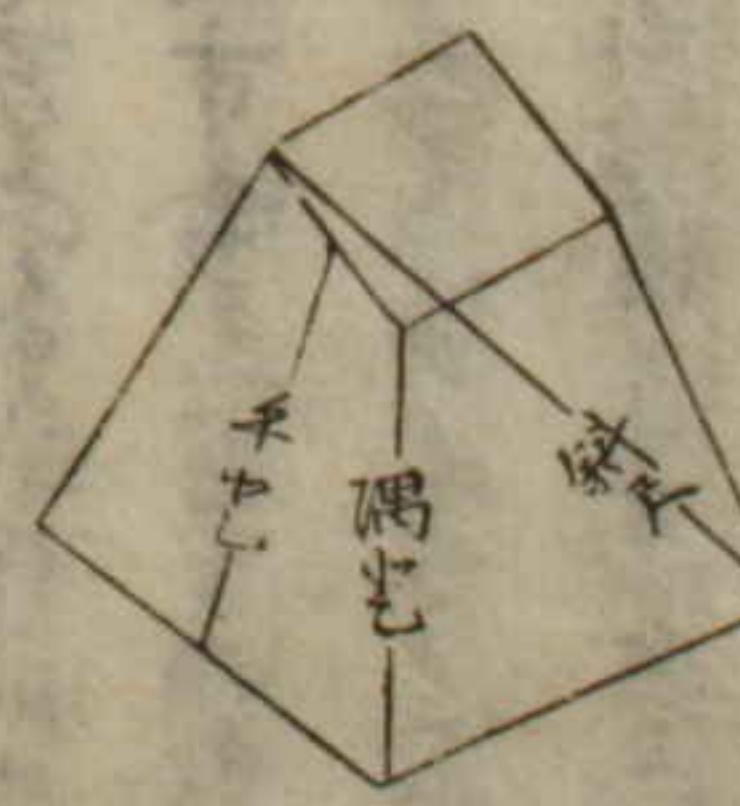
法云卒方もろえ未方すゑ

あて丈尺又すり豆成

二丈別七寸八分と堅かた

と組合すちえ捨すて二

分わと列は入堅尺丈尺組合すち三尺  
八百丈と底二尺六百尺百八百丈舍すて二分  
八布也是と定平法三降と半掌下と知也  
又云右そ七寸五分と丈え捨六丈三分五寸と



奇倍かひ少すこて堅五尺かた一丈板或丈百  
小加まへ丈百拾或丈五分と分是と  
安平法三降と偶堂と知

又云末方すゑと卒方もろえと合二丈四尺別七尺九  
寸五分と分是と組合す丈三百八拾等  
○或丈五尺と分是と奇倍かひ少すこて七百  
六拾等かた五尺と分是と丈三尺五寸組合三丈  
五百丈と分是と丈平法三降と斜尺と知  
立板たて五尺と分是と卒板もろえと斜尺と知  
今方丈すゑ堅五尺と末方すゑと斜尺と知  
やしと卒方もろえと求丈或も堅五尺と卒方もろえ

小一て多大を合

辛 恢 四 尺

未 恢 二 尺 八 寸

合之 幸 厚 二 尺 五 寸

未 恢 一 尺 五 寸 八 分

堅 立 尺

術 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

幅 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

先 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

成 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

列 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

是 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

辛 恢 一 尺 五 寸 八 分

辛 恢 一 尺 五 寸 八 分

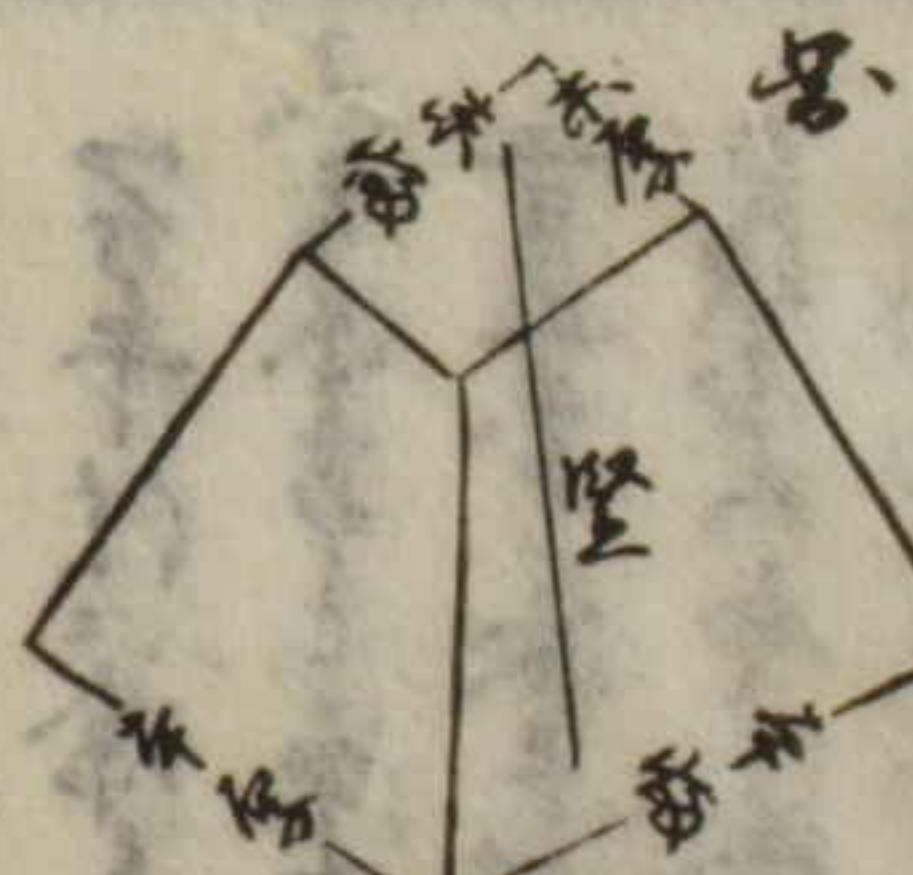
辛 恢 一 尺 五 寸 八 分

辛 恢 一 尺 五 寸 八 分

序 恢 基 術

坪 教 と 安 ど と 未 方 と 求 つ 術 ひ や え  
老 方 頭 と 貞 松 付 小 丈 三 丈 五 寸 八 分  
又 坪 教 と ち 分 小 切 痕 く じ と え と く  
四 丈 七 合 本 切 術 と 同 ぶ す ち か な 夏 署  
今 幸 恢 產 ひ

堅



辛 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 坪 教 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

合 未 恢 一 尺 五 寸 八 分

今 合 坚 一 尺 五 寸 八 分 坚 一 尺 五 寸 八 分  
立 一 尺 五 寸 八 分 坚 一 尺 五 寸 八 分  
入 一 尺 五 寸 八 分 坚 一 尺 五 寸 八 分

徑 五 尺 二 寸 四 分 八 寸

術 三 丈 八 二 尺 五 寸 八 分

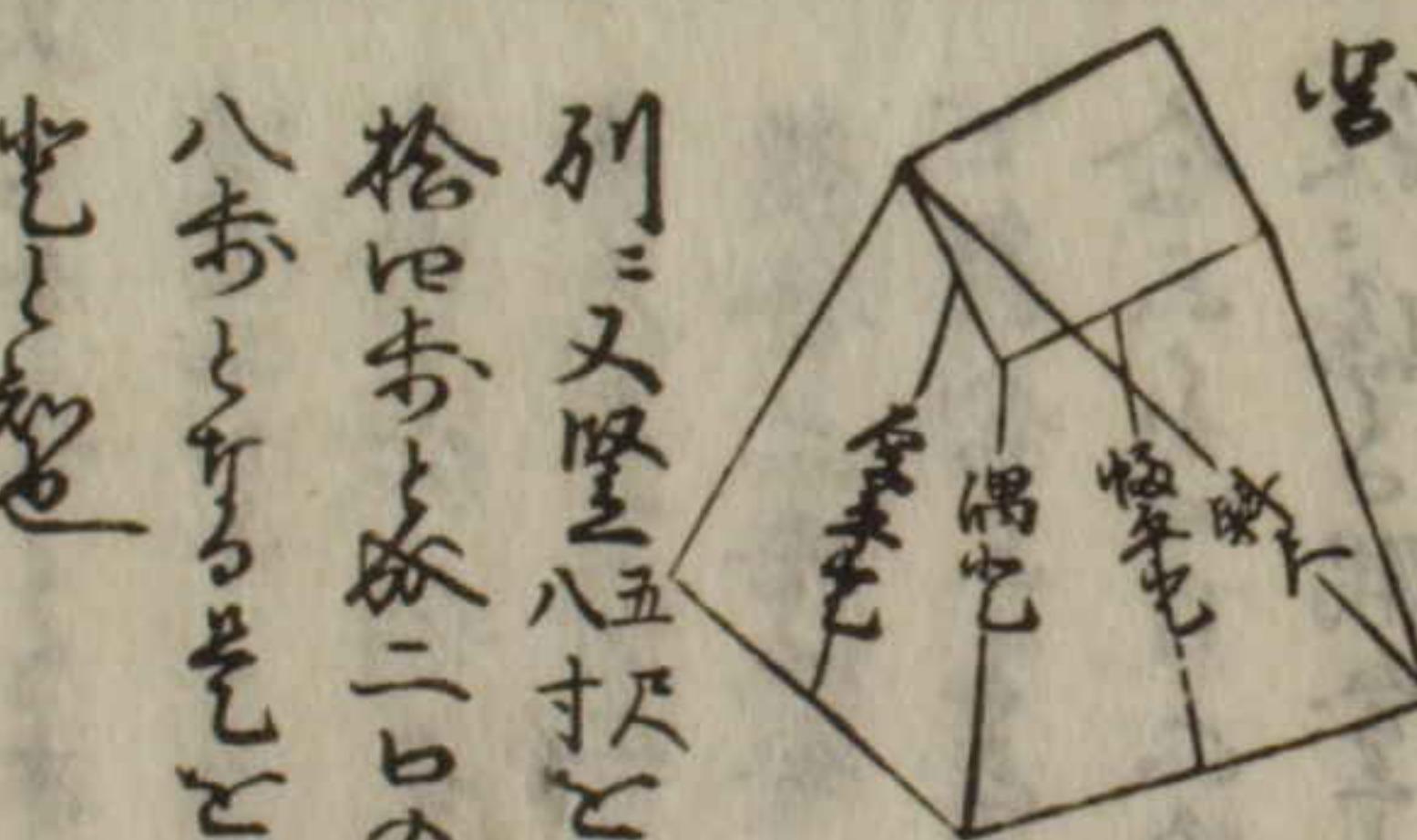
曾 翁 是 少 三

強制にまく往二人す七  
かきうてもせ七ちと起之又  
強と如く生往六すふ右回  
は三毛六ニと來毛人八す  
九分九二毛も麻毛と約と  
元堅城人五すと取毛人海  
強式人六す七毛三九毛海  
之五六守分九毛八毛ハ切口  
八四也

又別はもと印の往々立す  
分一リ一もにせんと、久々の後  
え又いに往々立すと、久々矣  
とく死ぬ死ぬゆうじてえを  
絶者矣、守と自因もぢぢ、六  
と余、五十年あと、承別後亦

弘とくとく式人立す十分公  
式人代自因して六百七十拾を  
あと奉吉并合七百拾五手と  
用年は小除き得式人立す七  
分三十九毛一足と一方入疏と  
切引傍之五尺三寸分支人

今、岐、淮、之、腰、と、本、之、寺、齋  
式、拾、九、枚、七。一、七、二、加、九、七  
と、肢、と、れ、一、手、人、を、す、そ、分  
少、多、此、有、教、病、小、分、多、發  
往、紛、々、股、入、長、行、之、多、合、



はと牛筋ヒツジ、まーう  
持ハサフき人ヒトすと金カネ  
偶ヒトツ也ヤハ、  
金カネ毛モウ  
身ヒトツノ剥ハスレ、  
合ハタチすあた給ハサフひぢヒヂ  
列ヒツニ又堅ヒツ八ハチ才タメと無合ムハタクすあニホニ百六  
格ヒツニあと取ハサフニロのうち教合ヒツシニ千ヒチ百武格  
八ハチあと九クシもと用牛ヒツジは小冷ヒツシと重牛ヒツシ

法皇御教小六とけ叔右の事  
にして承る百八拾八あと求是もらを  
うむら御と刻  
右が事以終毛百八也  
今厚物主の末厚き人ニす卒厚ニ人守  
物物を人六す物物三人ニす  
堅入天八すり厚卒堂と物卒堂と偶  
光と解尺と行程充そも

左  
掌半毛入人八寸八分半。右九毛  
幅半毛入人八寸八分半。九毛  
隅毛入人八寸八分半。右九毛  
斜人入人八寸八分半。右九毛

術ム二十九拾七分一七ニヒ  
病アチ救シ九ハ小ミトシ  
式ム六拾七アニスハヤ  
加ハシト右ハ法シ九。五除  
得ム三百三拾八赤一ア是シ小  
定ム四ヒと周ムて得ム三千百  
五拾武赤六ア列シ小シ和ニ人  
をシ分ハ手シをハ倍シと六  
人シ式ム二分シと自シ業シ得  
三千八百、拾八赤七ア九シ六ア民  
内シ一千二百八拾武赤  
六アと減シ一ア余シ五百  
三拾六赤二シ九シ六ア是シと  
用シ半シ小シ除シと清シ立シ。  
三分六ア是シ小シ代シおシのシ人

五人ハすと無シ合シすアニシ百六十七  
ちシ合シニロ合シち救シニシ百シもシける  
色シと寛シ半シ法シニシ除シと清シ  
又シ半シ厚シトシ半シとシ未シ減シとシ清シ  
六アちシ合シキ減シトシ未シ減シとシ清シ  
すと二シ分シトシ半シハシすと無シ合シ  
六アちシ合シキ減シトシ未シ減シとシ清シ  
キシ人シ六ア合シキ減シトシ未シ減シとシ清シ  
無シ合シ六ア合シキ減シトシ未シ減シとシ清シ  
と無シ合シニシ百六拾四赤三シケシ三シロ  
合シニシ千四百六拾四赤三シケシ是シ寛シ半シ  
法シニシ除シと開堂シとシ

二シ分シ六ア内シ減シ案シ  
三シ人シ聲シとシ打シノシスシハ  
少シ淮シ口シ往シ也シ  
今シ淮シのシ口シ版シのシあシ  
和シノ二百六十七赤二シ五シ八シ  
りシ口シ往シと版シのシ是シそ  
九シ一分シ八シ也シ合シ六ア殺シ三シ言シ

多シ 口シ往シ六ア

販シ堅シニシ辛シ一シ八シ

堅シ 吻シ

堅シ

堅シ

堅シ

今シ堅シ之シ

術ム二百六拾七赤  
三一小シハシと右ハ法シ  
十九。五除シ得ム三百九シ  
八シ一シ二シ是シ三シ宣シ  
例シ左シ倍シ三シ八シ三シ六シヒ

又シ未シ厚シと半シ半シと無シ合シニシ人シ  
八シすと無シ合シと無シ合シすアニシ百一十一シ考シ  
と無シ合シ又シ未シ半シ半シ未シとシ半シもシ  
ニシ人シ四シすと無シ合シとシけ合シすアヘシ日シ七シ  
拾シとシ無シ合シ又シ堅シとシけ合シ公シニシ百  
百六拾四赤半シ半シ合シ半シ救シ四シ千八シ旨シ  
六ア拾四赤半シ半シ合シ半シ除シとシ解シ之シ

す許七百拾一坪シ多シ又シ  
法シニシ往シ六アすとシけ合シ堅シとシけ方シ堅シ



八卦目付字之終

離	角	女	觜	春	水	平	定
閉	坤	心	婁	井	夏	土	滿
除	執	允	尤	虛	參	秋	青
日	黃	破	乾	氐	危	鬼	冬
星	月	白	危	坎	尾	牛	胃
斗	昴	木	黑	成	艮	房	室
壁	軫	火	赤	開	震	箕	
奎	柳	張	建	收	翼		
畢	翼	金	收				
觜	參	火					

五十四と古春法七九。立  
ぬ得ニ三百三十八あそぶ  
自家之得二十も万円ふ  
三百六十式評一八八六<sup>レ</sup>是へ  
三系也是ど芝四面しく  
二万八千五百八十八坪とろ  
實<sup>レ</sup>列<sup>レ</sup>を三百九十八あ  
一六とわまよ二百六十九あ  
○八也又列<sup>レ</sup>を一八九寸  
自家して得三百六十一あ  
是とく百六十九あ。八  
加<sup>レ</sup>紙<sup>レ</sup>五百三拾す。八  
わ<sup>レ</sup>ち草紙<sup>レ</sup>又瓦屋  
三<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>八<sup>レ</sup>すとわ<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>草紙<sup>レ</sup>を  
家<sup>レ</sup>と三系龍法<sup>レ</sup>陰りう

